資料５

高齢者の健康づくり等に関する実態調査
結果報告書

令和5年(2023年)3月

枚　方　市

目　次

１．調査概要 1

２．調査結果 2

１．回答者の属性 2
（１）性別 2
（２）年齢 2
（３）圏域 3

２．家族構成とお住まいについて 4
（１）家族構成 4
（２）住まいの状況 6

３．健康状態などについて 8
（１）健康状態 8
（２）普段の生活で介護が必要か 9
（３）普段の生活で介護や世話をしているか 10
（４）病院・医院（診療所・クリニック）への通院状況 11
（５）通院の頻度 12
（６）かかりつけの病院・医院等があるか 13
（７）健康保持のために、日常生活の中で取り組んでいることについて 14
（８）市の介護予防や高齢者の地域生活を支援する取り組みについて 19

４．仕事や生きがいについて 23
（１）仕事について 23
（２）生きがいや楽しみを感じること 26
（３）今後やってみたいと思う活動について 28

５．地域とのかかわり等について 31
（１）近所づきあいの程度 31
（２）地域の行事や活動について 33
（３）高齢者同士の支え合いによる生活支援活動について 37
（４）緊急時などに頼りになる人 38
（５）老人クラブについて 40

６．認知症について 43
（１）認知症の症状等の認知状況 43
（２）認知症への不安 45
（３）認知症の疑いが見られたときの相談先 46
（４）認知症になったときの近隣の方との関係性について 47
（５）認知症の人が地域で暮らすために必要だと思うこと 48
（６）認知症の人が地域で暮らすためにあなたができそうなこと 50

７．今後の生活について 52
（１）今後の生活の中で不安に思うこと..... 52
（２）介護が必要になった場合、どこで生活したいか..... 54
８．保健・福祉サービスや介護に対するお考えについて 56
（１）地域包括支援センター（高齢者サポートセンター）の認知度..... 56
（２）介護や保健、医療等に関する情報の入手方法..... 57
（３）介護や保健、医療等に関する情報のニーズ..... 59
（４）今後の介護サービスと介護保険料について..... 61
９．看取り（みとり）について 63
（１）最期の過ごし方について 63
（２）エンディングノートの認知度..... 66
（３）人生の最期を迎えたい場所 66
（４）病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望するか..... 68
（５）病院以外での最期を迎えるために、整える必要があると思うこと..... 69

資料編　調査票

１．調査概要

調査目的	ひらかた高齢者保健福祉計画 21（第９期）の策定に向け、高齢者の介護予防や健康づくり、地域への関わりや社会参加の状況等について聴取を行うことにより、枚方市の各地域の高齢者にはどのような課題やニーズがあるのかを把握し、今後の介護保険制度及び高齢者保健福祉施策の適正な運営に資することを目的としています。
調査対象	市内に在住している要支援・要介護認定を受けていない 65 歳以上の人 1,300 名 ※本市の日常生活圏域 13 圏域ごとに 100 名ずつ無作為抽出・無記名調査
調査方法	調査票による本人記入方式（本人が記入できない場合は家族等による）。 郵送による発送、返送は郵送または WEB による。
調査期間	令和５年(2023 年) 1 月
回収状況	有効回答数　839 件（有効回答率　64.5%）
回答者の主な属性	性別：女性 50.9%、男性 46.7%、不明　2.3% 年齢：65～69 歳 22.4%、70～74 歳 28.4%、75～79 歳 24.3%、 80～84 歳 14.2%、85～89 歳　7.7%、90 歳以上　1.5%、無回答　1.4%

【調査結果について】

※ アンケート調査結果における各設問の n（number of case の略）は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※ 各選択肢の構成比（%）は小数点第 2 位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が 100%を超える場合があります。

※ グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は%です。

※ グラフ中の SA は択一式の単数回答、MA は複数回答を示しています。

※ 性別、年齢別、圏域別、前回調査との比較は、統計的検定により有意差が認められた場合のみコメントを記載しています。グラフの見た目上は差があっても、検定による有意差があるとは言えない場合はコメントを記載していません。

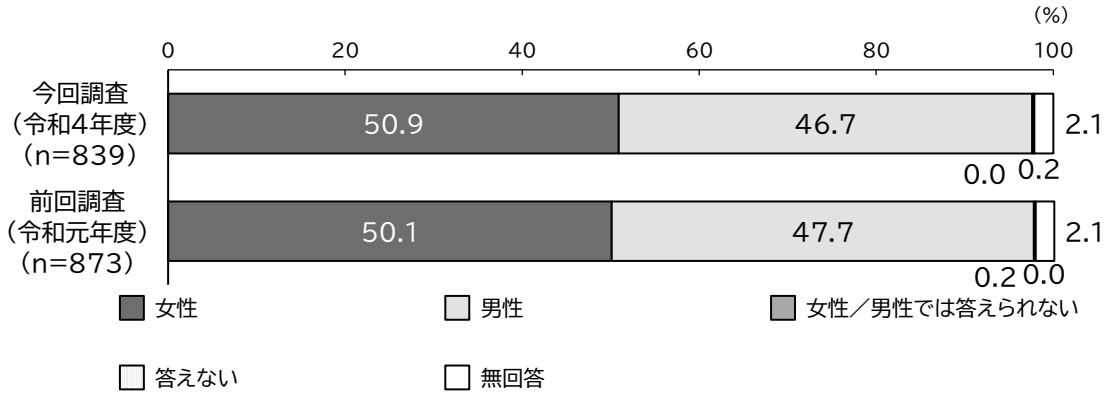
2．調査結果

1．回答者の属性

（1）性別

・ 「女性」が 50.9%、「男性」が 46.7%などとなっています。

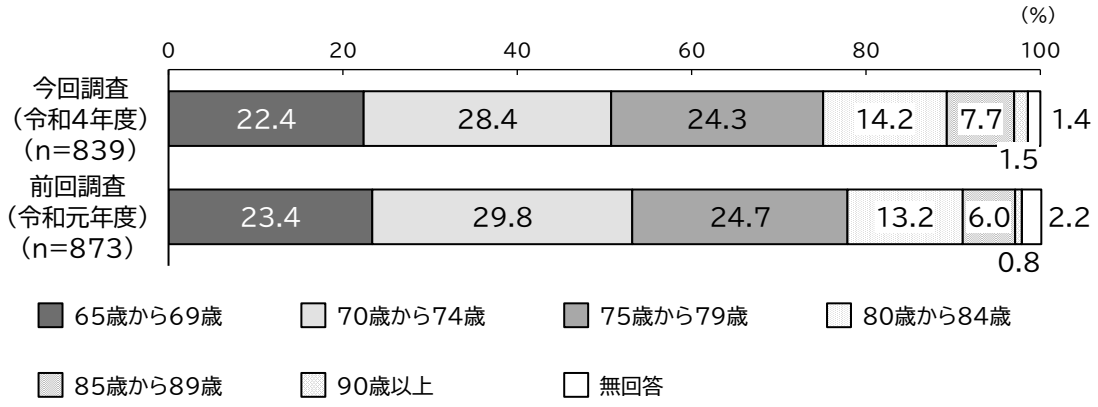
性別(SA)



（2）年齢

・ 「70 歳から 74 歳」が最も多く 28.4%、次いで「75 歳から 79 歳」が 24.3%、「65 歳から 69 歳」が 22.4%などとなっています。

年齢(SA)



（3）圏域

・ 圏域ごとの内訳は、以下のようになっています。

圏域

（上段：件、下段：%）

	n	第1圏域	第2圏域	第3圏域	第4圏域	第5圏域	第6圏域	第7圏域	第8圏域	第9圏域	第10圏域	第11圏域	第12圏域	第13圏域
全体	839	67	71	68	72	59	60	62	57	61	66	63	73	60
	100.0	8.0	8.5	8.1	8.6	7.0	7.2	7.4	6.8	7.3	7.9	7.5	8.7	7.2
女性	427	32	34	33	37	29	31	34	26	31	38	30	38	34
	100.0	7.5	8.0	7.7	8.7	6.8	7.3	8.0	6.1	7.3	8.9	7.0	8.9	8.0
男性	392	35	36	34	32	26	27	28	29	29	26	32	34	24
	100.0	8.9	9.2	8.7	8.2	6.6	6.9	7.1	7.4	7.4	6.6	8.2	8.7	6.1
無回答	20	0	1	1	3	4	2	0	2	1	2	1	1	2
	100.0	0.0	5.0	5.0	15.0	20.0	10.0	0.0	10.0	5.0	10.0	5.0	5.0	10.0
65～74歳	426	36	36	36	32	27	28	34	29	33	33	30	40	32
	100.0	8.5	8.5	8.5	7.5	6.3	6.6	8.0	6.8	7.7	7.7	7.0	9.4	7.5
75～84歳	323	25	27	24	32	25	22	23	23	20	26	26	27	23
	100.0	7.7	8.4	7.4	9.9	7.7	6.8	7.1	7.1	6.2	8.0	8.0	8.4	7.1
85歳以上	78	6	6	8	7	7	7	5	3	8	5	6	6	4
	100.0	7.7	7.7	10.3	9.0	9.0	9.0	6.4	3.8	10.3	6.4	7.7	7.7	5.1
無回答	12	0	2	0	1	0	3	0	2	0	2	1	0	1
	100.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3

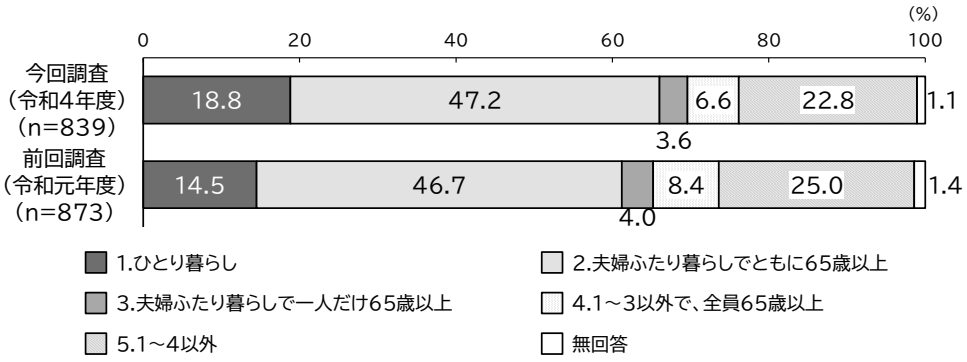
2．家族構成とお住まいについて

（1）家族構成

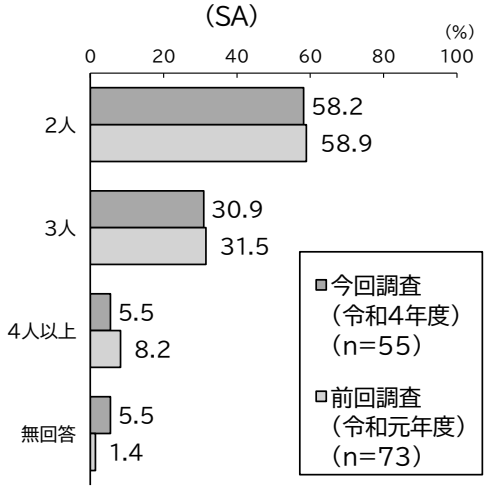
問1　あなたの家族構成について、あてはまるものはどれですか。（あてはまるもの１つに○）

- 「夫婦ふたり暮らしでともに 65 歳以上」が最も多く 47.2%、次いで「1～4 以外」が 22.8%、「ひとり暮らし」が 18.8%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
- 女性、男性ともに「夫婦ふたり暮らしでともに 65 歳以上」が最も多く、女性は 43.3%、男性は 51.8%となっています。
- 女性は男性と比較して、「ひとり暮らし」が多く、男性は「夫婦ふたり暮らしでともに 65 歳以上」「夫婦ふたり暮らしで一人だけが 65 歳以上」が多くなっています。
- すべての年齢で「夫婦ふたり暮らしでともに 65 歳以上」が最も多く、65～74 歳は 47.7%、75～84 歳は 47.4%、85 歳以上は 43.6%となっています。
- 65～74 歳は、他の年齢と比較して、「ひとり暮らし」が少なくなっています。
- すべての圏域で「夫婦ふたり暮らしでともに 65 歳以上」が最も多くなっています。圏域別による傾向に違いはありません。

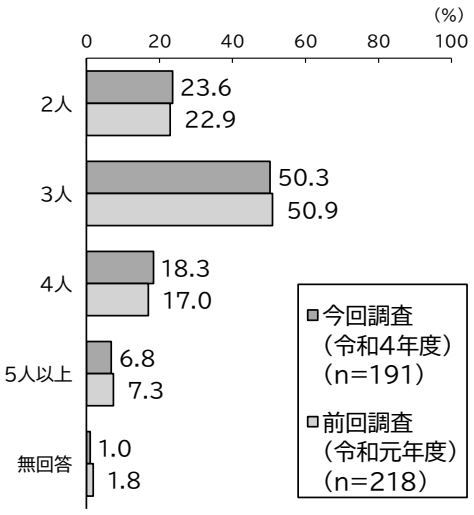
家族構成(SA)



1～3以外で、全員65歳以上の世帯人数(SA)

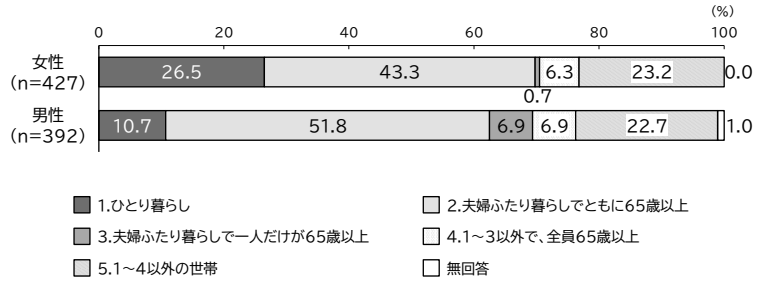


1～4以外の世帯人数(SA)



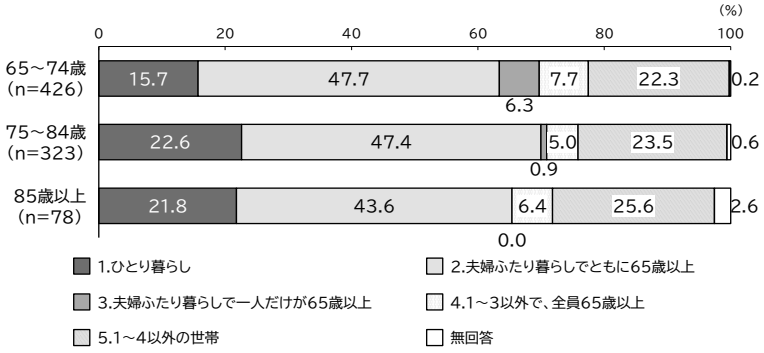
【性別】

家族構成（SA）



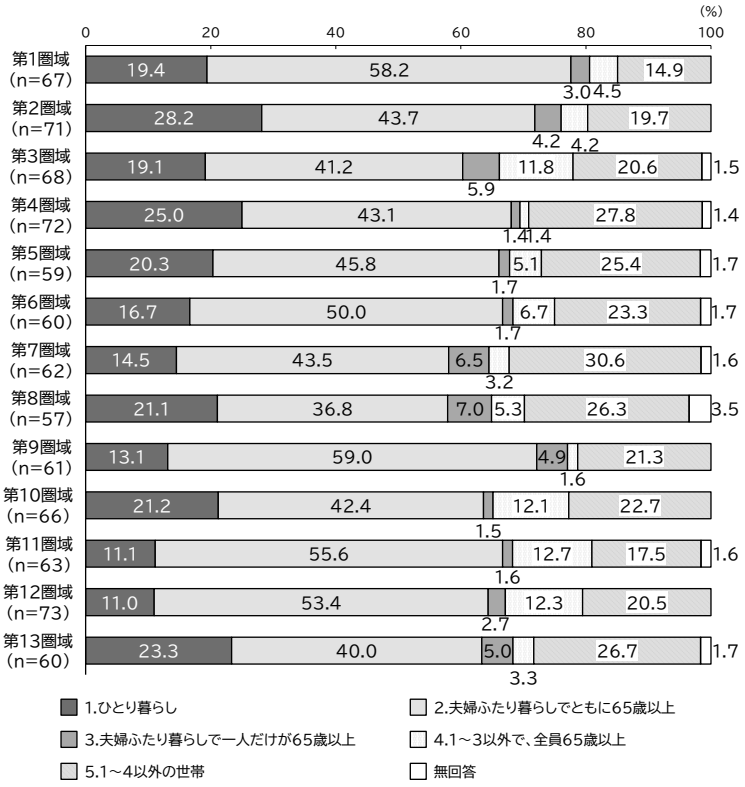
【年齢別】

家族構成（SA）



【圏域別】

家族構成（SA）

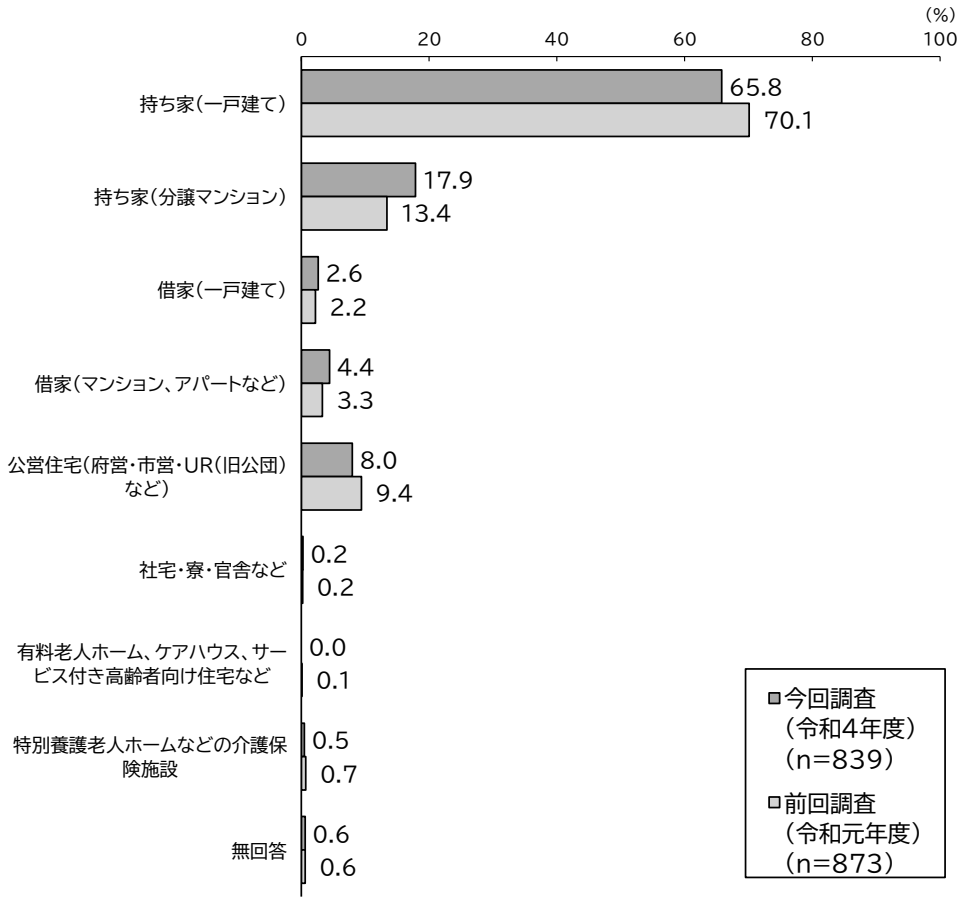


（2）住まいの状況

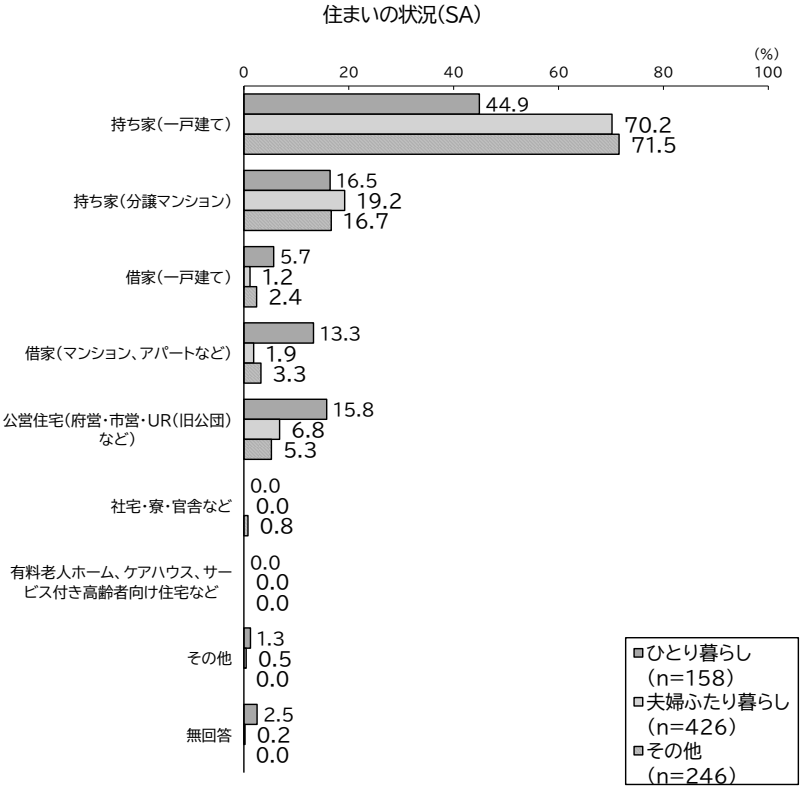
問 2　あなたのお住まいの状況について、あてはまるものはどれですか。
（あてはまるもの１つに○）

- 「持ち家（一戸建て）が最も多く 65.8%、次いで「持ち家（分譲マンション）」が最も多く 17.9%、「公営住宅（府営・市営・UR（旧公団）など）」が 8.0%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
- すべての家族構成で「持ち家（一戸建て）」が最も多く、ひとり暮らしは 44.9%、夫婦ふたり暮らしは 70.2%、その他は 71.5%となっています。
- ひとり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「借家（一戸建て）」「借家（マンション、アパートなど）」「公営住宅(府営・市営・UR（旧公団）など)」が多く、「持ち家（一戸建て）」が少なくなっています。
- すべての圏域で「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっています。
- 第 1 圏域、第 6 圏域、第 11 圏域では、他の圏域と比較して、「持ち家（一戸建て）」が多くなっています。第 2 圏域、第 7 圏域、第 9 圏域では、他の圏域と比較して、「持ち家（分譲マンション）」が多くなっています。第 5 圏域、第 9 圏域、第 10 圏域では、他の圏域と比較して、「公営住宅(府営・市営・UR（旧公団）など)」が多くなっています。

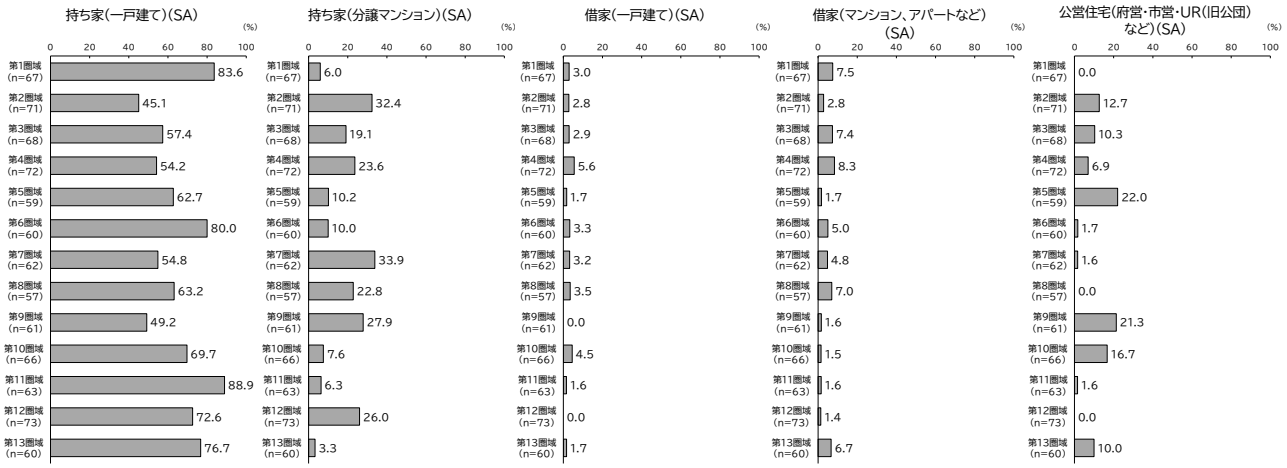
住まいの状況(SA)



【家族構成別】


住まいの状況(SA)
(%)
0
20
40
60
80
100
持ち家(一戸建て)
44.9
70.2
71.5
持ち家(分譲マンション)
16.5
19.2
16.7
借家(一戸建て)
5.7
1.2
2.4
借家(マンション、アパートなど)
13.3
1.9
3.3
公営住宅(府営・市営・UR(旧公団)など)
15.8
6.8
5.3
社宅・寮・官舎など
0.0
0.0
0.8
有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅など
0.0
0.0
0.0
その他
1.3
0.5
0.0
無回答
2.5
0.2
0.0
ひとり暮らし（n=158）
夫婦ふたり暮らし（n=426）
その他（n=246）

【圏域別】


持ち家(一戸建て)(SA)
持ち家(分譲マンション)(SA)
借家(一戸建て)(SA)
借家(マンション、アパートなど)(SA)
公営住宅(府営・市営・UR(旧公団)など)(SA)
(%)
第1圏域(n=67) 83.6 6.0 3.0 7.5 0.0
第2圏域(n=71) 45.1 32.4 2.8 2.8 12.7
第3圏域(n=68) 57.4 19.1 2.9 7.4 10.3
第4圏域(n=72) 54.2 23.6 5.6 8.3 6.9
第5圏域(n=59) 62.7 10.2 1.7 1.7 22.0
第6圏域(n=60) 80.0 10.0 3.3 5.0 1.7
第7圏域(n=62) 54.8 33.9 3.2 4.8 1.6
第8圏域(n=57) 63.2 22.8 3.5 7.0 0.0
第9圏域(n=61) 49.2 27.9 0.0 1.6 21.3
第10圏域(n=66) 69.7 7.6 4.5 1.5 16.7
第11圏域(n=63) 88.9 6.3 1.6 1.6 1.6
第12圏域(n=73) 72.6 26.0 0.0 1.4 0.0
第13圏域(n=60) 76.7 3.3 1.7 6.7 10.0

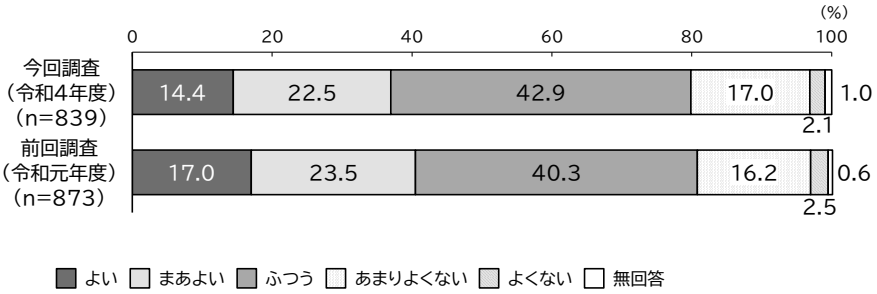
3．健康状態などについて

（1）健康状態

問 3　あなたは、自分の健康状態をどう思いますか。（あてはまるもの１つに○）

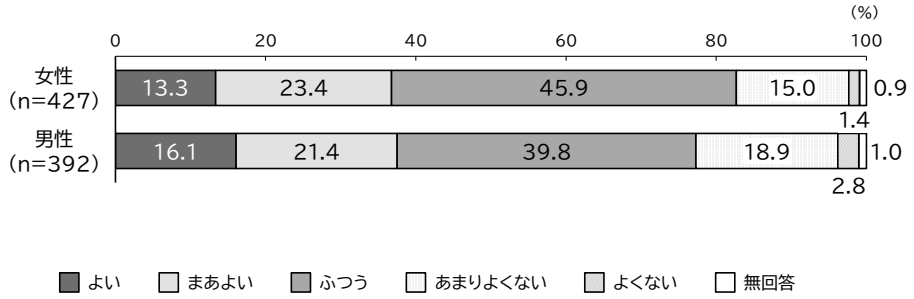
・ 「ふつう」が最も多く 42.9%、次いで「まあよい」が 22.5%、「あまりよくない」が 17.0%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
・ 女性、男性ともに「ふつう」が最も多く、女性は 45.9%、男性は 39.8%となっています。
・ すべての年齢で「ふつう」が最も多く、65～74 歳は 43.4%、75～84 歳は 42.4%、85 歳以上は 42.3%となっています。
・ 性別、年齢別による傾向に違いはありません。

健康状態(SA)



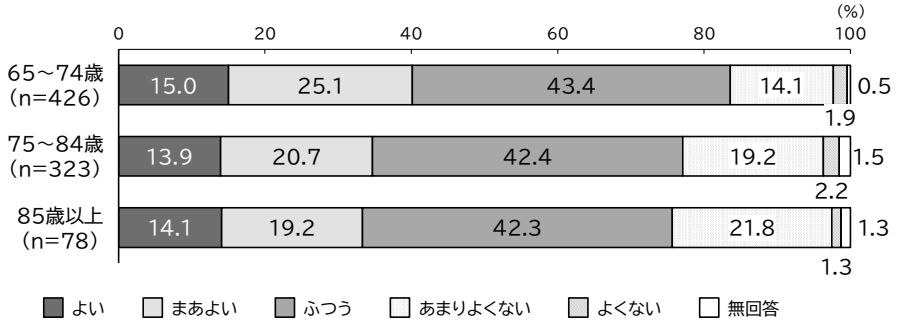
【性別】

健康状態(SA)



【年齢別】

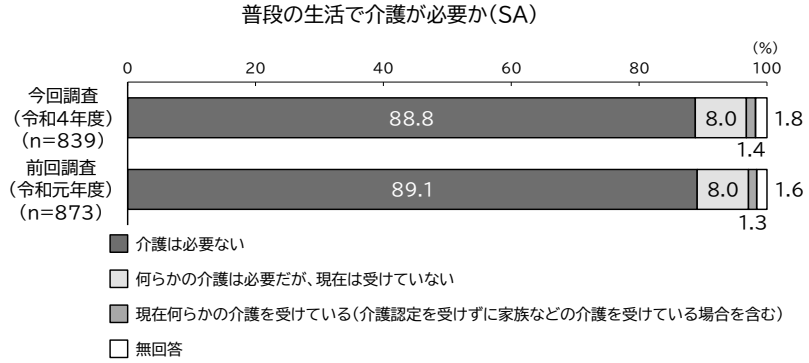
健康状態(SA)



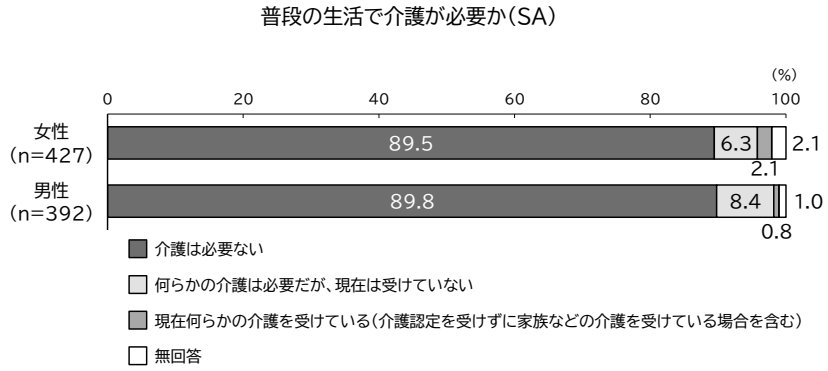
（2）普段の生活で介護が必要か

問 4　あなたは、普段の生活でどなたかの介護が必要ですか。（あてはまるもの１つに○）

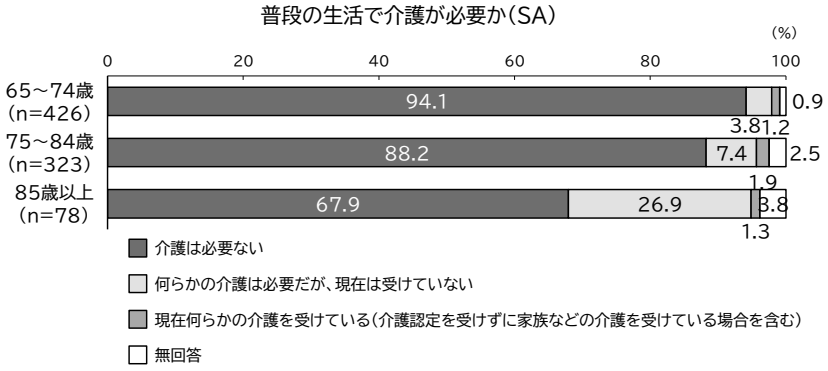
・「介護は必要ない」が 88.8%、「何らかの介護は必要だが、現在は受けていない」が 8.0%、「現在何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合を含む）」が 1.4%となっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
・女性、男性ともに「介護は必要ない」が最も多く、女性は 89.5%、男性は 89.8%となっています。
・すべての年齢で「介護は必要ない」が最も多く、65～74 歳は 94.1%、75～84 歳は 88.2%、85 歳以上は 67.9%となっています。
・性別、年齢別による傾向に違いはありません。



【性別】



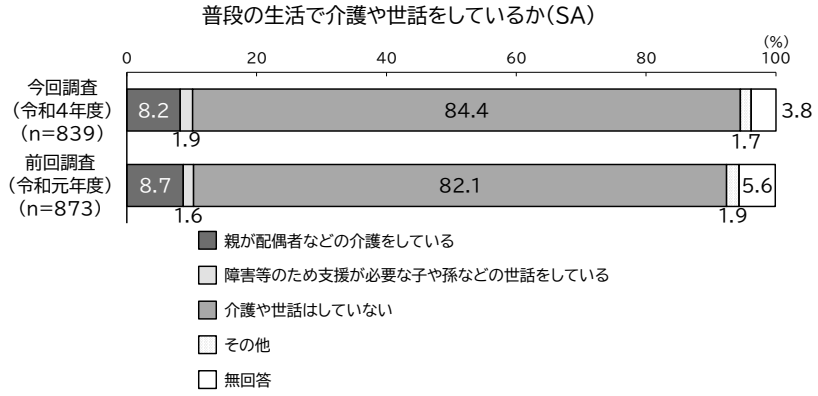
【年齢別】



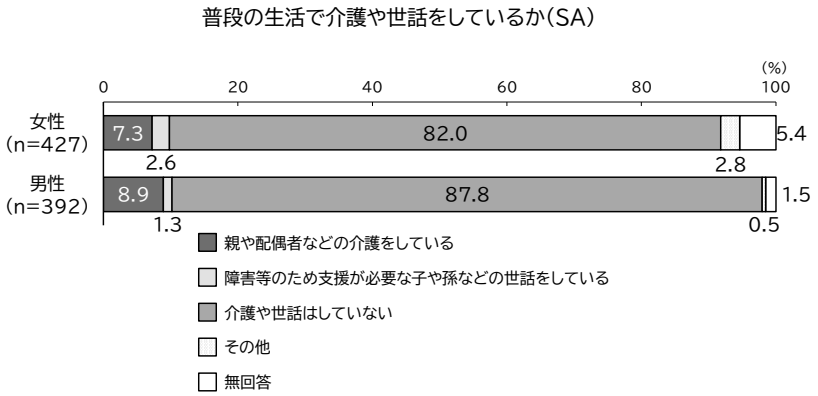
（3）普段の生活で介護や世話をしているか

問５　あなたは、普段の生活でどなたかの介護や世話をしていますか。
（あてはまるもの１つに○）

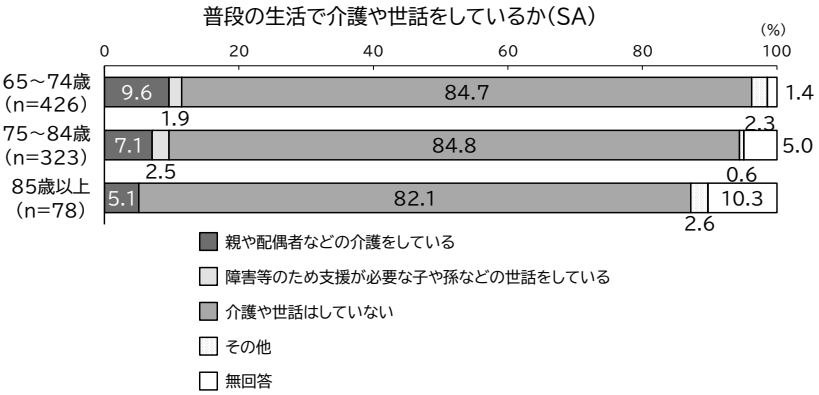
・「介護や世話はしていない」が最も多く 84.4%、次いで「親が配偶者などの介護をしている」が 8.2%、「障害等のため支援が必要な子や孫などの世話をしている」が 1.9%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
・女性、男性ともに「介護や世話はしていない」が最も多く、女性は 82.0%、男性は 87.8%となっています。
・すべての年齢で「介護や世話はしていない」が最も多く、65～74 歳は 84.7%、75～84 歳は 84.8%、85 歳以上は 82.1%となっています。
・性別、年齢別による傾向に違いはありません。



【性別】



【年齢別】

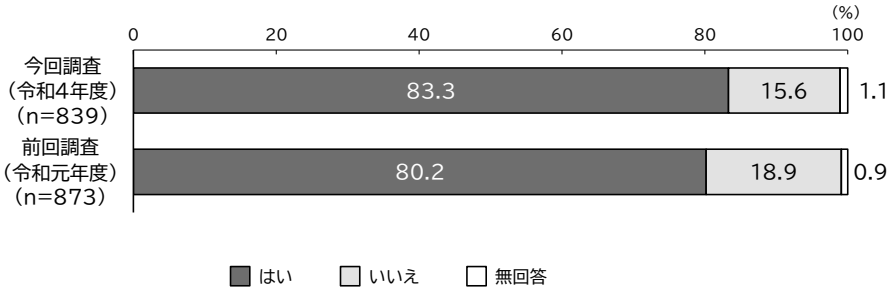


（4）病院・医院（診療所・クリニック）への通院状況

問 6　現在、病院・医院（診療所・クリニック）に通院していますか。（いずれかに○）

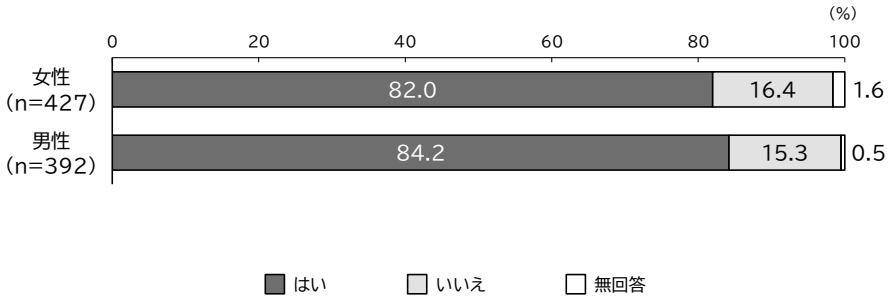
- 「はい」が 83.3%、「いいえ」が 15.6%となっています。
- 前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
- 女性、男性ともに「はい」が多く、女性は 82.0%、男性は 84.2%となっています。性別による傾向に違いはありません。
- すべての年齢で「はい」が多く、65～74 歳は 78.9%、75～84 歳は 87.3%、85 歳以上は 88.5%となっています。

病院・医院（診療所・クリニック）への通院状況（SA）



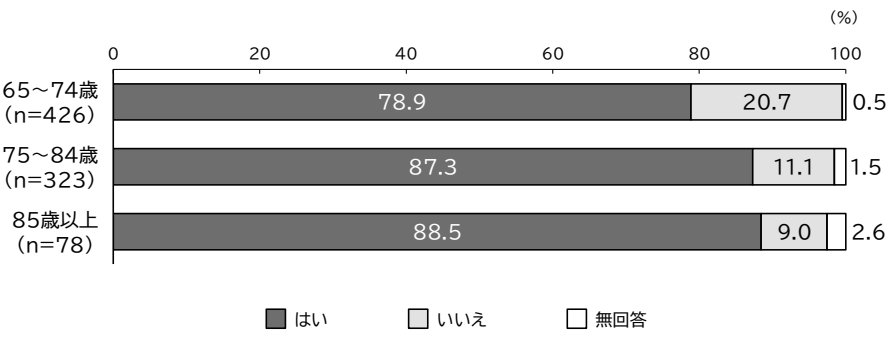
【性別】

病院・医院（診療所・クリニック）への通院状況（SA）



【年齢別】

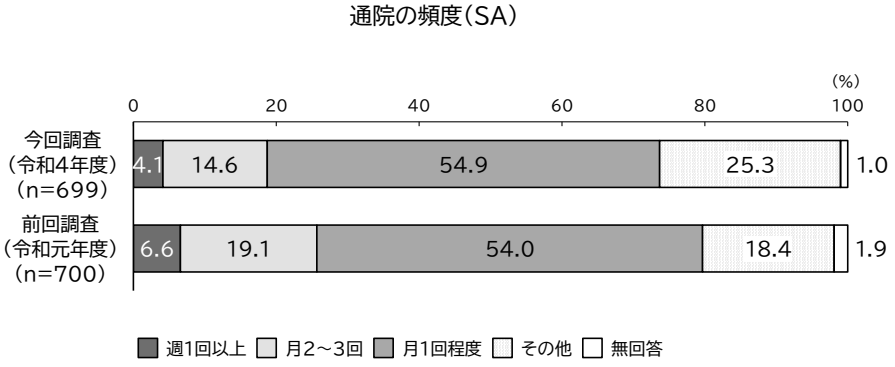
病院・医院（診療所・クリニック）への通院状況（SA）



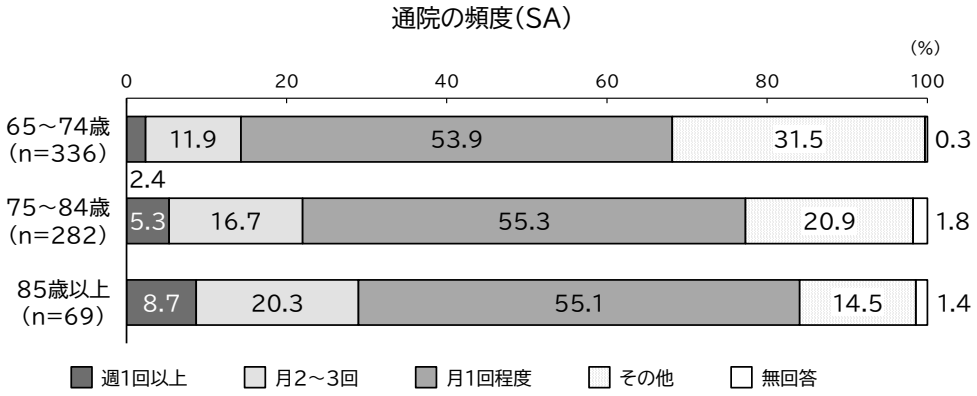
（5）通院の頻度

問 6-1　前問で「1．はい」（通院している）と回答された方におたずねします。
どのぐらいの頻度で通院していますか。（あてはまるもの１つに○）

- 「週 1 回以上」が 4.1%、「月 2～3 回」が 14.6%、「月 1 回程度」が 54.9%などとなっています。「その他」の記述をみると、「2 か月に 1 回」「3 か月に 1 回」など、「月 1 回程度」より少ない頻度の回答が大半であり、前回調査と比較して、通院の頻度が少なくなっています。
- 前回調査と比較して、「その他」が多く、「週 1 回以上」「月 2～3 回」が少なくなっています 。
- すべての年齢で「月 1 回程度」が多く、65～74 歳は 53.9%、75～84 歳は 55.3%、85 歳以上は 55.1%となっています。
- 年齢が高くなるほど「週 1 回以上」が多く、「その他」が少なくなっており、通院の頻度が多くなっています。



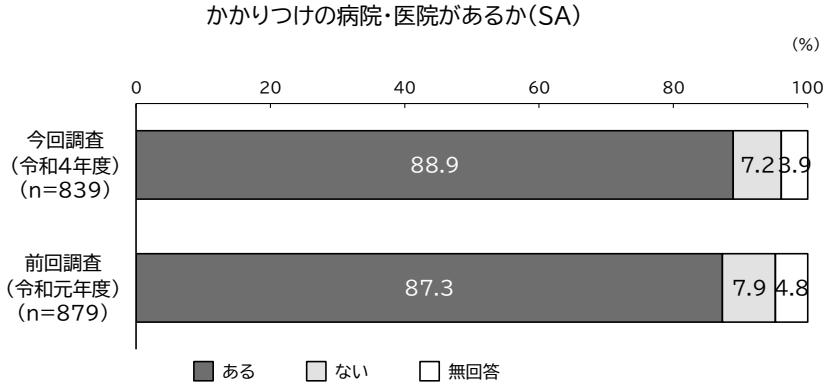
【年齢別】

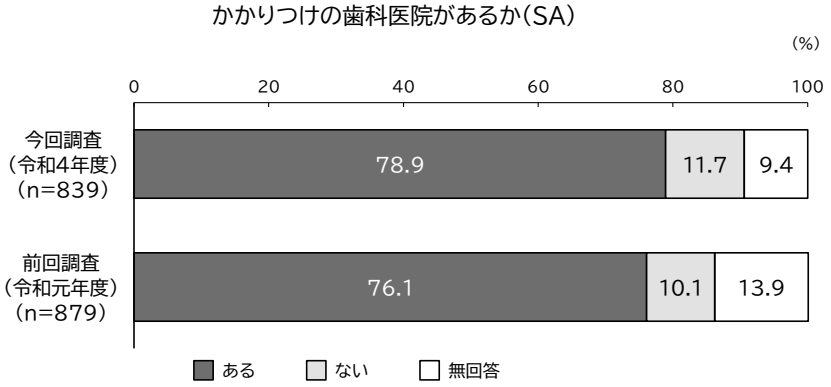


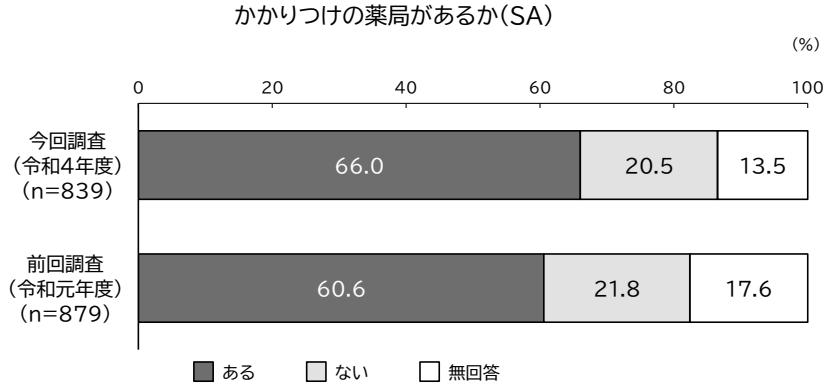
（6）かかりつけの病院・医院等があるか

問７　あなたには、かかりつけの病院・医院（診療所・クリニック）・かかりつけの歯科医院・かかりつけ薬局がありますか。（それぞれいずれかに○）

・「かかりつけの病院・医院があるか」について、「ある」が 88.9%、「ない」が 7.2%となっています。「かかりつけの歯科医院があるか」について、「ある」が 78.9%、「ない」が 11.7%となっています。「かかりつけの薬局があるか」について、「ある」が 66.0%、「ない」が 20.5%となっています。いずれも前回調査と比較して、傾向に違いはありません。





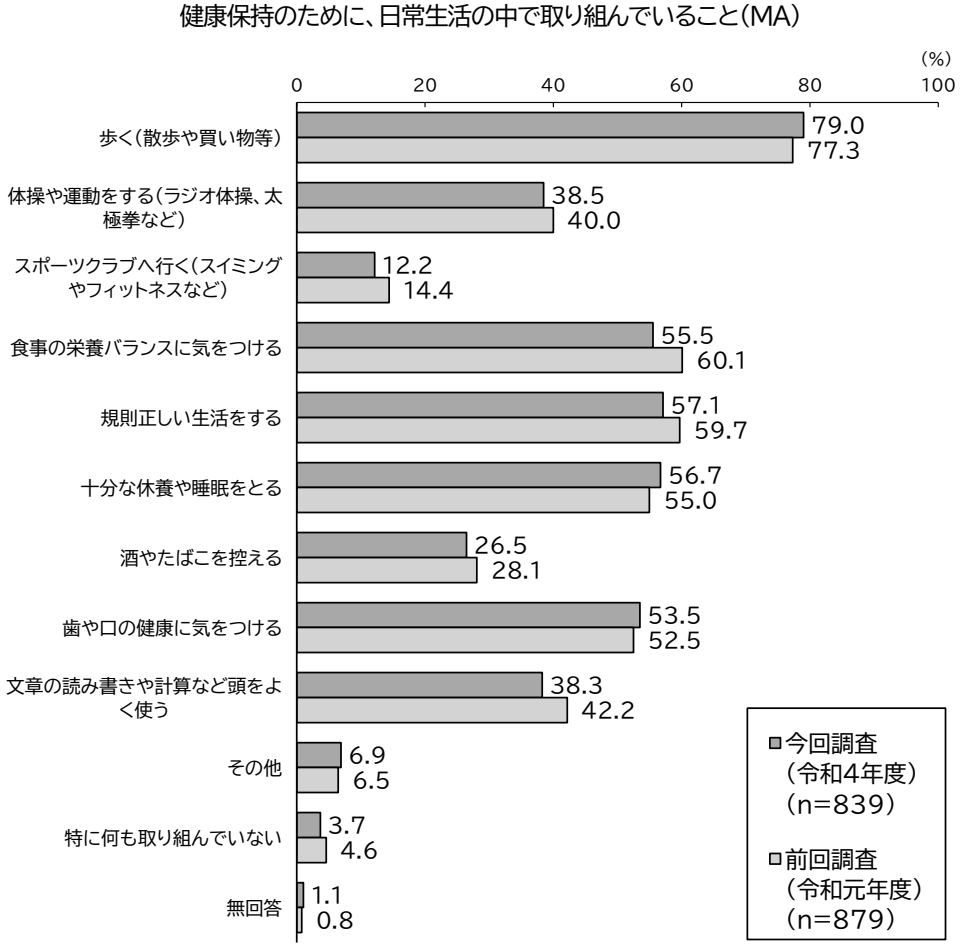


（7）健康保持のために、日常生活の中で取り組んでいることについて

① 健康保持のために、日常生活の中で取り組んでいること

問 8　健康保持のために、日常生活の中で取り組んでいることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 「歩く（散歩や買い物等）」が最も多く 79.0%、次いで「規則正しい生活をする」が 57.1%、「十分な休養や睡眠をとる」が 56.7%などとなっています。
- 前回調査と比較して、傾向に違いはありません。



・ 女性、男性ともに「歩く（散歩や買い物等）」が最も多く、女性は 81.0%、男性は 76.8%となっています。
・ 女性は男性と比較して、「食事の栄養バランスに気をつける」「規則正しい生活をする」「歯や口の健康に気をつける」が多く、男性は「酒やたばこを控える」が多くなっています。
・ すべての年齢で「歩く（散歩や買い物等）」が最も多く、65～74 歳は 77.5%、75～84 歳は 82.4%、85 歳以上は 75.6%となっています。
・ 年齢が高くなるほど「食事の栄養バランスに気をつける」が多くなっています。65～74 歳で「文章の読み書きや計算など頭をよく使う」が少なくなっています。

健康保持のために、日常生活の中で取り組んでいること（ＭＡ）

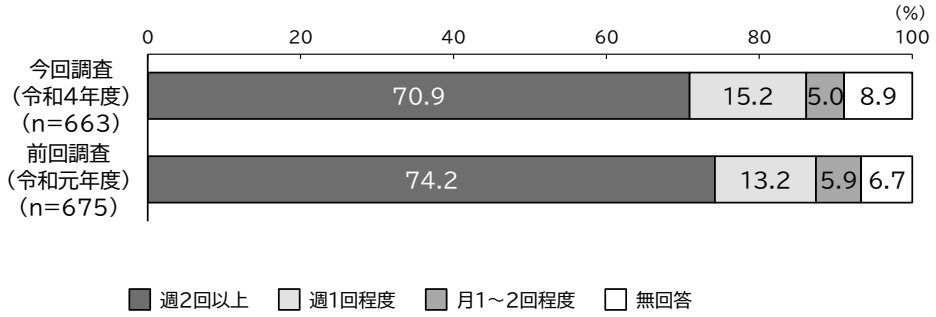
（上段：件、下段：%）

	n	歩く（散歩や買い物等）	体操や運動をする（ラジオ体操、太極拳など）	スポーツクラブへ行く（スイミングやフィットネスなど）	食事の栄養バランスに気をつける	規則正しい生活をする	十分な休養や睡眠をとる	酒やたばこを控える	歯や口の健康に気をつける	文章の読み書きや計算など頭をよく使う	その他	特に何も取り組んでいない	無回答
女性	427	346	176	61	266	266	249	98	251	176	26	10	5
	100.0	81.0	41.2	14.3	62.3	62.3	58.3	23.0	58.8	41.2	6.1	2.3	1.2
男性	392	301	141	40	193	204	217	117	189	136	28	20	4
	100.0	76.8	36.0	10.2	49.2	52.0	55.4	29.8	48.2	34.7	7.1	5.1	1.0
65～74歳	426	330	162	54	222	231	236	108	222	141	26	18	2
	100.0	77.5	38.0	12.7	52.1	54.2	55.4	25.4	52.1	33.1	6.1	4.2	0.5
75～84歳	323	266	127	44	189	192	184	87	182	139	23	9	3
	100.0	82.4	39.3	13.6	58.5	59.4	57.0	26.9	56.3	43.0	7.1	2.8	0.9
85歳以上	78	59	31	4	51	51	52	24	42	36	8	3	3
	100.0	75.6	39.7	5.1	65.4	65.4	66.7	30.8	53.8	46.2	10.3	3.8	3.8

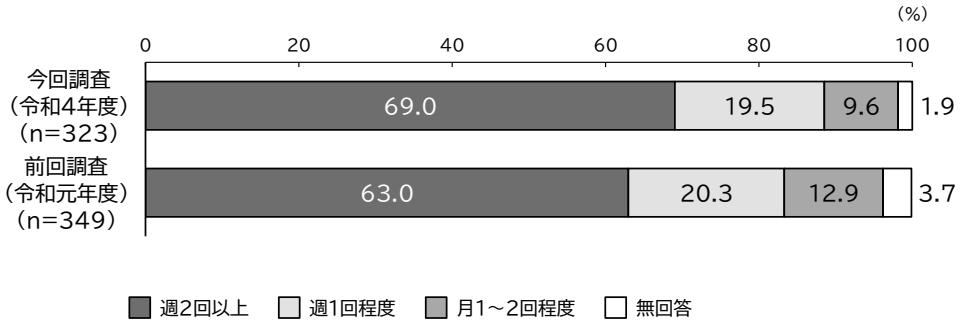
【「歩く」「体操や運動をする」「スポーツクラブへ行く」の頻度】

- 「歩く（散歩や買い物等）」について、「週 2 回以上」が 70.9%、「週 1 回程度」が 15.2%、「月 1～2 回程度」が 5.0%となっています。
- 「体操や運動をする（ラジオ体操、太極拳など）」について、「週 2 回以上」が 69.0%、「週 1 回程度」が 19.5%、「月 1～2 回程度」が 9.6%となっています。
- 「スポーツクラブへ行く（スイミングやフィットネスなど）」について、「週 2 回以上」が 66.7%、「週 1 回程度」が 24.5%、「月 1～2 回程度」が 6.9%となっています。

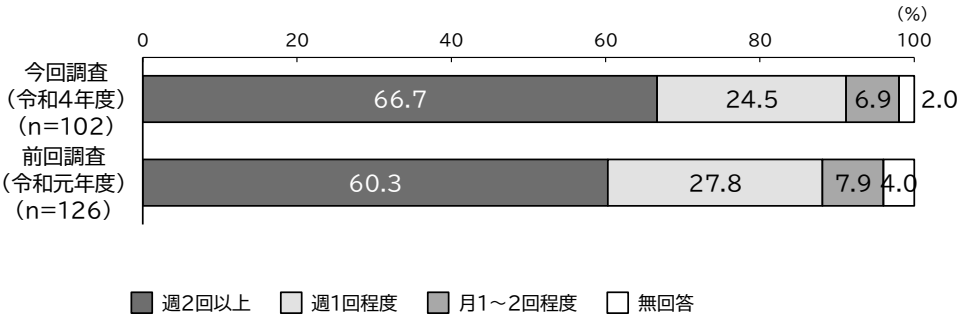
歩く(散歩や買い物等)の頻度(SA)



体操や運動の頻度(SA)



スポーツクラブの頻度(SA)

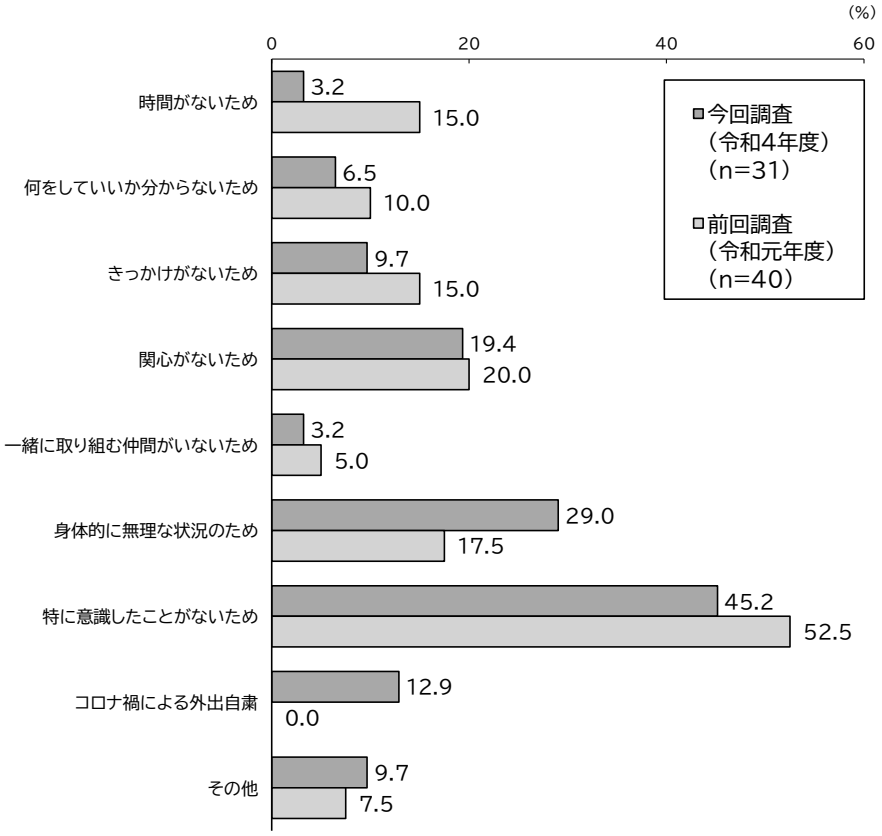


② 健康保持のために、日常生活の中で特に何も取り組んでいない理由

問 8-1　前問で「11. 特に何も取り組んでいない」と回答された方におたずねします。
その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 「特に意識したことがないため」が最も多く 45.2%、次いで「身体的に無理な状況のため」が 29.0%、「関心がないため」が 19.4%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
- 女性、男性ともに「特に意識したことがないため」が最も多く、女性は 40.0%、男性は 50.0%となっています。性別による傾向に違いはありません。

健康保持のために、日常生活の中で特に何も取り組んでいない理由(MA)



(上段：件、下段：%)

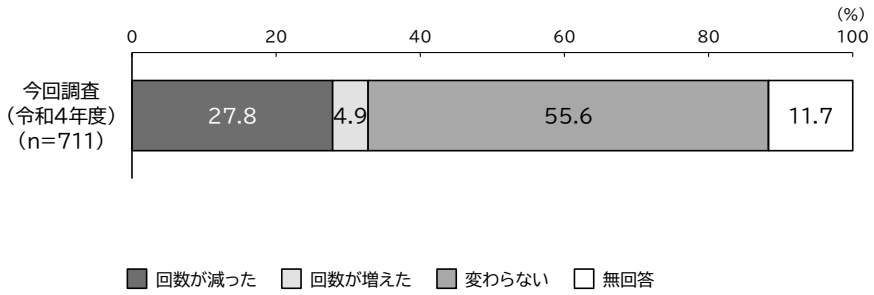
	n	時間がないため	何をしていいか分からないため	きっかけがないため	関心がないため	一緒に取り組む仲間がいないため	身体的に無理な状況のため	特に意識したことがないため	コロナ禍による外出自粛	その他	無回答
女性	10	1	1	1	1	1	2	4	2	0	0
	100.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0
男性	20	0	1	2	5	0	7	10	1	3	0
	100.0	0.0	5.0	10.0	25.0	0.0	35.0	50.0	5.0	15.0	0.0
65～74歳	18	1	2	3	3	1	5	9	1	2	0
	100.0	5.6	11.1	16.7	16.7	5.6	27.8	50.0	5.6	11.1	0.0
75～84歳	9	0	0	0	2	0	3	5	1	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	33.3	55.6	11.1	11.1	0.0
85歳以上	3	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

③ 健康保持について、コロナ流行前と比較して、取り組む回数の変化

問 8-2　問８で健康保持のために「１．歩く、２．体操や運動をする、３．スポーツクラブへ行く」に取り組んでいると回答された方におたずねします。
コロナ流行（令和２年）前と比較して、取り組む回数に変化はありましたか。
（あてはまるものに○）

・「回数が減った」が 27.8%、「回数が増えた」が 4.9%、「変わらない」が 55.6%となっています。

健康保持について、コロナ流行前と比べての回数の変化(SA)

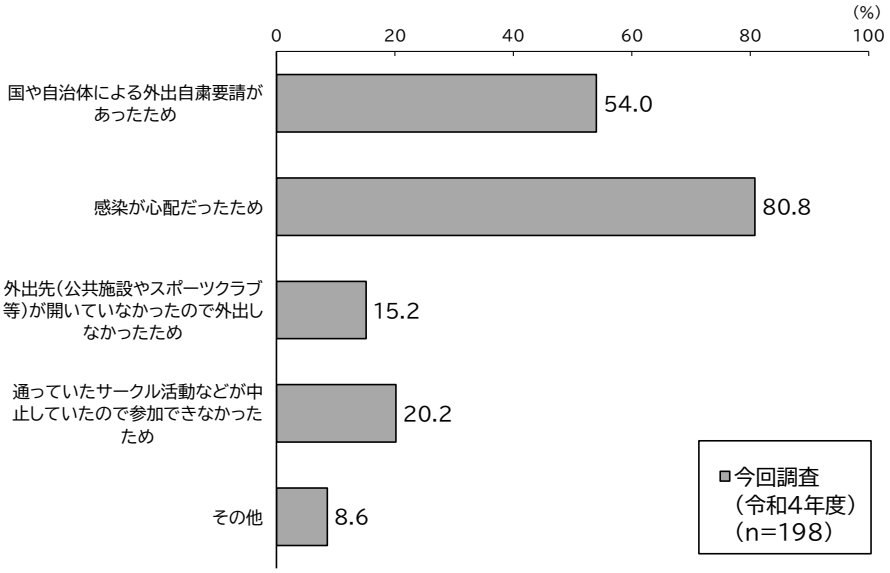


④ コロナ流行前と比較して、取り組む回数が減った理由

問 8-2　前問で「１．回数が減った」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

・「感染が心配だったため」が最も多く 80.8%、次いで「国や自治体による外出自粛要請があったため」が 54.0%、「通っていたサークル活動などが中止していたので参加できなかったため」が 20.2%などとなっています。

コロナ流行前と比べて、取り組む回数が減った理由(MA)



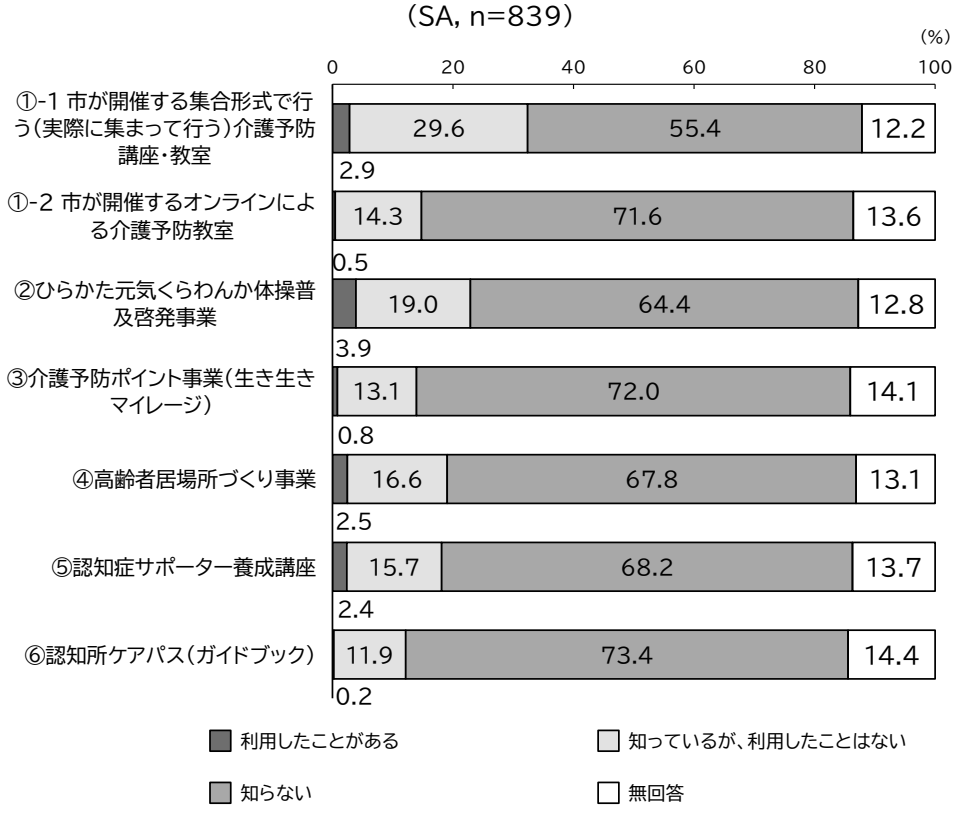
（8）市の介護予防や高齢者の地域生活を支援する取り組みについて

問 9　市では健康づくり教室の開催等、介護予防や高齢者の地域生活を支援する様々な取り組みを行っています。あなたは、次の教室等をご存じですか。また、今後利用してみたいと思いますか。（それぞれあてはまるもの１つに○）

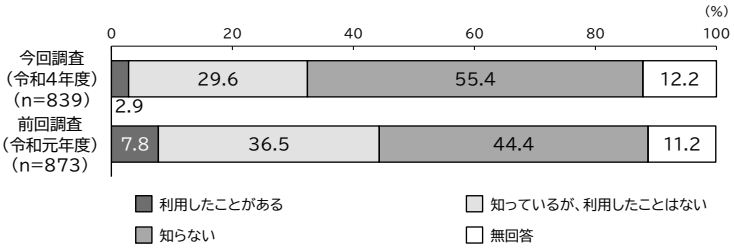
【健康づくり事業等の利用状況】

- どの取り組みも「知らない」が最も多くなっています。特に「①-2 市が開催するオンラインによる介護予防教室」「③介護予防ポイント事業（生き生きマイレージ）」「⑥認知症ケアパス（ガイドブック）」は 70%を超えています。
- 「利用したことがある」はについて、「②ひらかた元気くらわんか体操普及啓発事業」が最も多く 3.9%、次いで「①-1 市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室」が 2.9%、「④高齢者居場所づくり事業」が 2.5%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室」「ひらかた元気くらわんか体操普及啓発事業」で「利用したことがある」が少なくなっています。

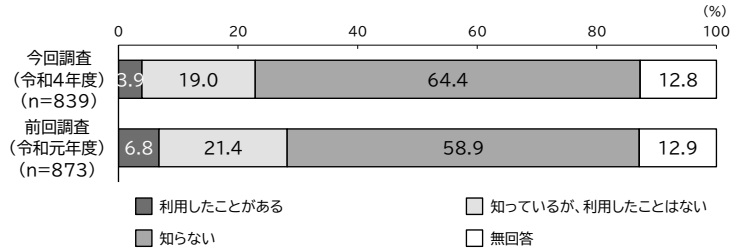
市の介護予防や高齢者の地域生活を支援する取り組みの利用状況
（SA, n=839）



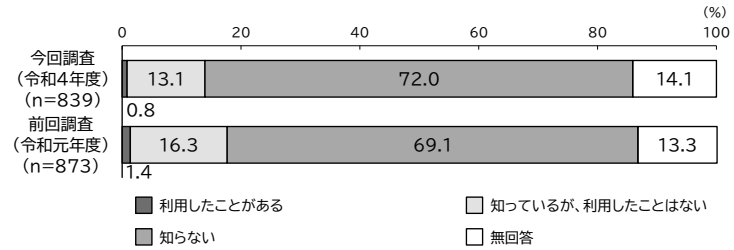
市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室の頻度（SA）



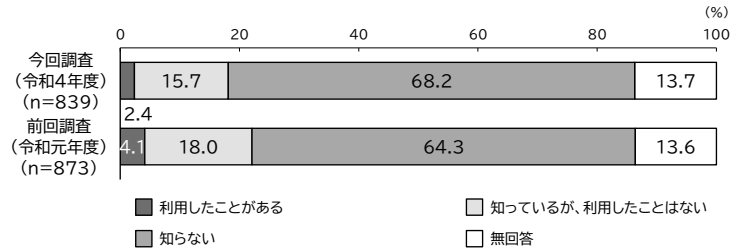
ひらかた元気くらわんか体操普及啓発事業の頻度（SA）



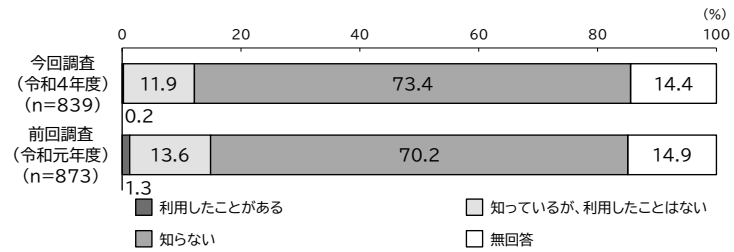
介護予防ポイント事業（生き生きマイレージ）の頻度（SA）



認知症サポーター養成講座の頻度（SA）



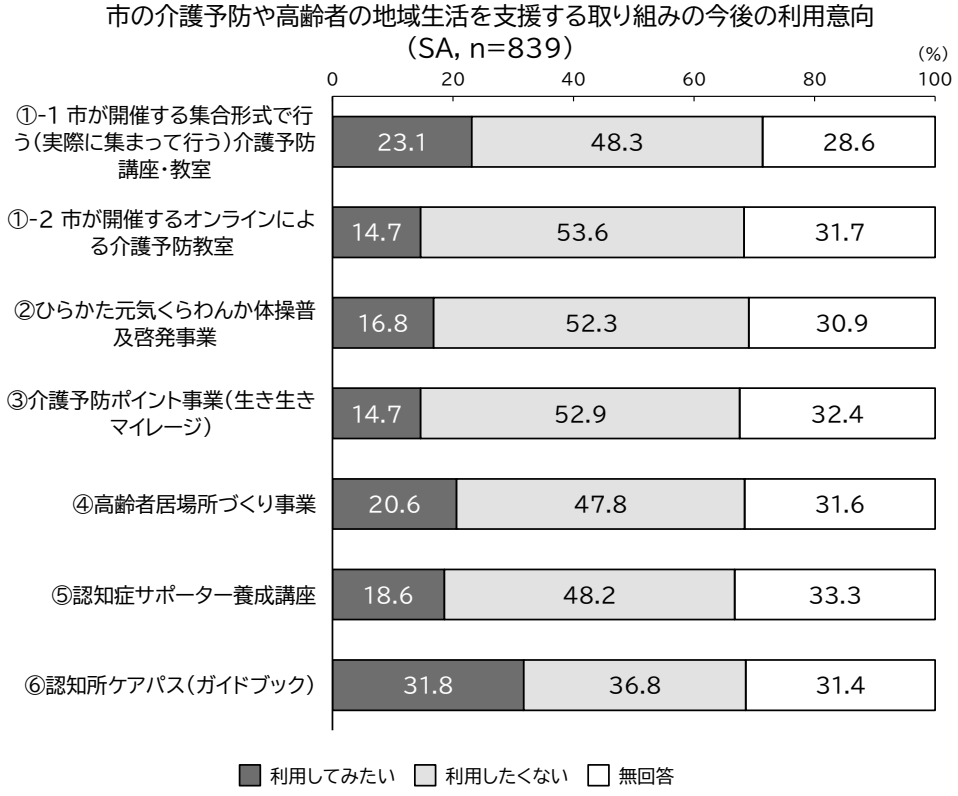
認知所ケアパス（ガイドブック）の頻度（SA）



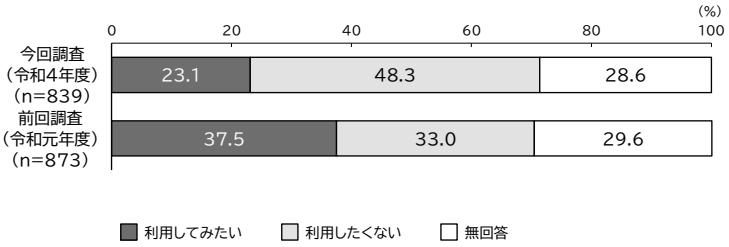
【健康づくり事業等の今後の利用意向】

・ 今後の利用意向について、すべての取り組みで「利用したくない」が「利用してみたい」を上回っています。特に「①-2 市が開催するオンラインによる介護予防教室」「②ひらかた元気くらわんか体操普及啓発事業」「③介護予防ポイント事業（生き生きマイレージ）」は 50%を超えています。
・ 「利用してみたい」について、「⑥認知所ケアパス（ガイドブック）」が最も多く 31.8%、次いで「①-1 市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室」が 23.1%、「④高齢者居場所づくり事業」が 20.6%などとなっています。
・ 前回調査と比較して、「市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室」「ひらかた元気くらわんか体操普及啓発事業」「介護予防ポイント事業（生き生きマイレージ）」「認知症サポーター養成講座」「認知症ケアパス（ガイドブック）」で「利用してみたい」が少なくなっています。

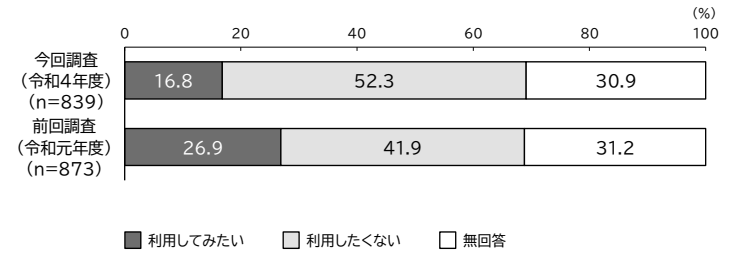
※ 前回調査では、「①-2 市が開催するオンラインによる介護予防教室」「④高齢者居場所づくり事業」は選択肢なし



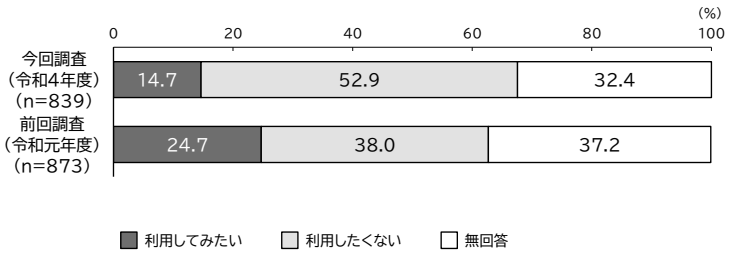
市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室の頻度（SA）



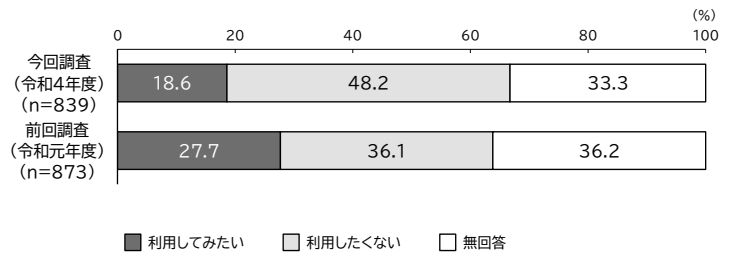
ひらかた元気くらわんか体操普及啓発事業の頻度（SA）



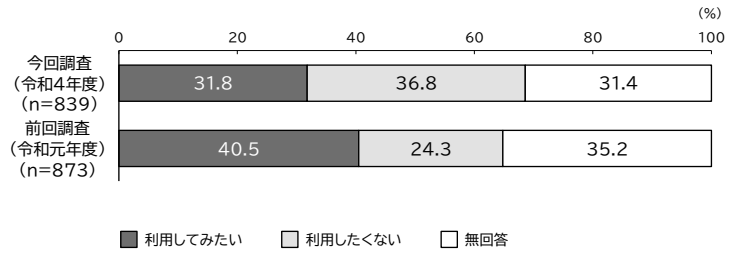
介護予防ポイント事業（生き生きマイレージ）の頻度（SA）



認知症サポーター養成講座の頻度（SA）



認知所ケアパス（ガイドブック）の頻度（SA）



4．仕事や生きがいについて

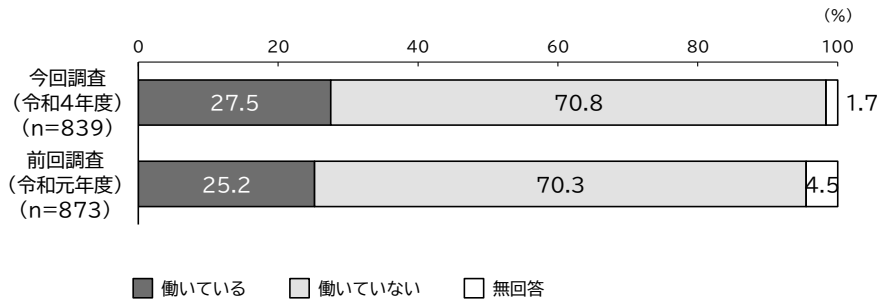
（1）仕事について

① 現在の仕事の状況

問 10　あなたは現在、仕事をしていますか。(いずれかに○)

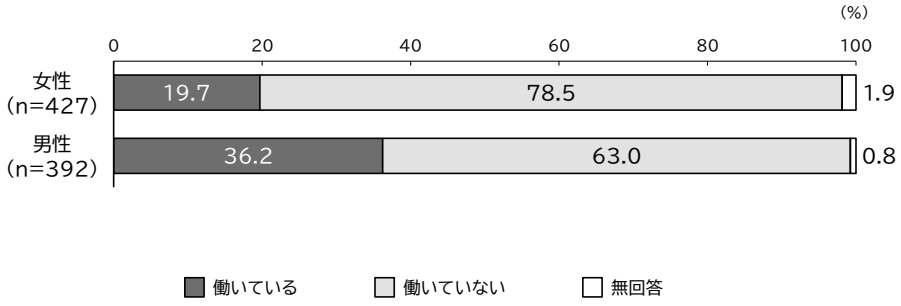
・「働いている」が 27.5%、「働いていない」が 70.8%となっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
・女性、男性ともに「働いていない」が多く、女性は 78.5%、男性は 63.0%となっています。女性は男性と比較して、「働いている」が少なくなっています。
・すべての年齢で「働いていない」が多く、65～74 歳は 58.0%、75～84 歳は 82.7%、85 歳以上は 91.0%となっています。年齢が高くなるほど「働いている」が少なくなっています。

現在の仕事の状況(SA)



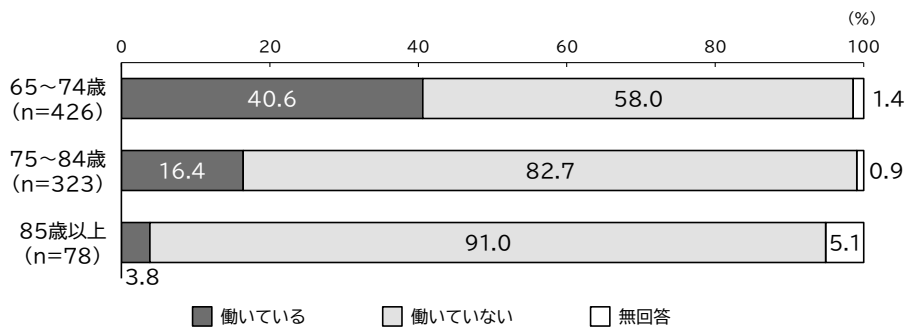
【性別】

現在の仕事の状況(SA)



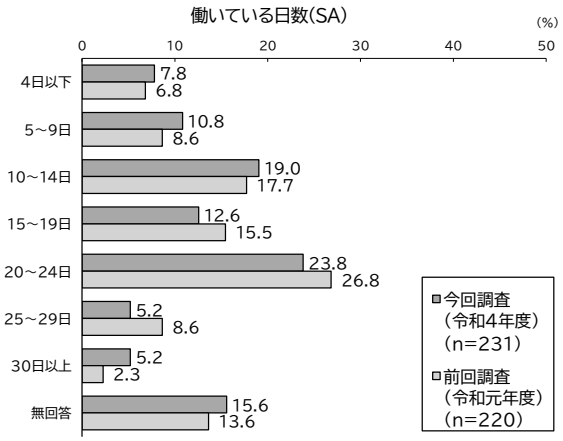
【年齢別】

現在の仕事の状況(SA)

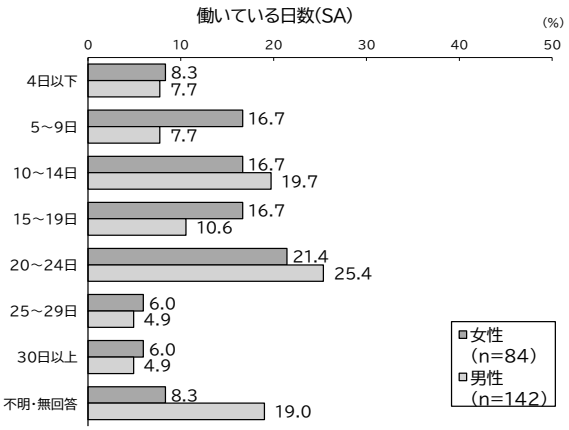


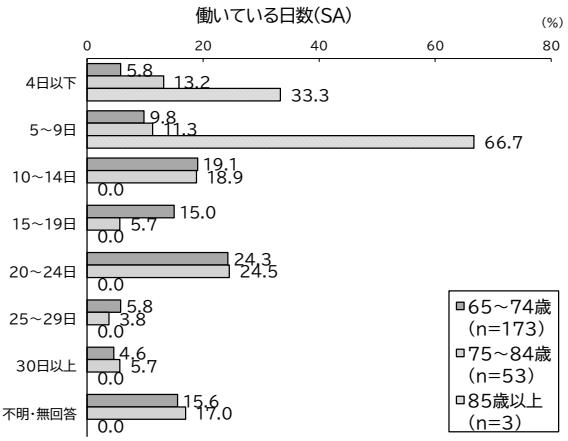
【働いている日数について】

・ 「20～24 日」が最も多く 23.8%、次いで「10～14 日」が 19.0%、「15～19 日」が 12.6%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
・ 女性、男性ともに「20～24 日」が多く、女性は 21.4%、男性は 25.4%となっています。女性は男性と比較して、平均日数が少なくなっています。
・ 65～74 歳、75～84 歳で「20～24 日」が最も多く、65～74 歳は 24.3%、75～84 歳は 24.5%となっています。



【性別・年齢別】

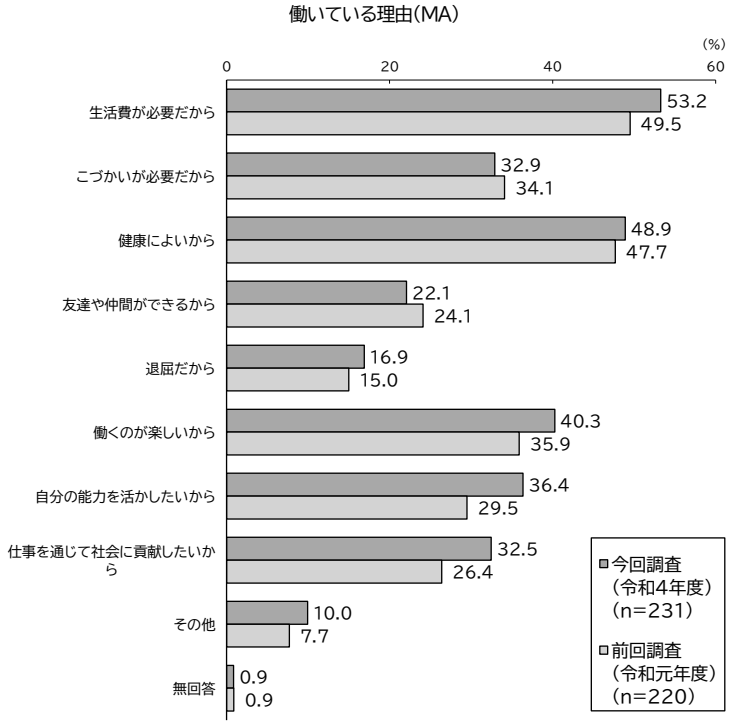




② 働いている理由

問 10-1　前問で「１．働いている」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

・ 「生活費が必要だから」が最も多く 53.2%、次いで「健康によいから」が 48.9%、「働くのが楽しいから」が 40.3%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。



・ 女性は「健康によいから」「働くのが楽しいから」が同数で最も多く 46.4%、男性は「生活費が必要だから」が最も多く 59.2%となっています。女性と比較して、男性は「生活費が必要だから」が多くなっています。

・ 65～74 歳は「生活費が必要だから」が最も多く 55.5%、75～84 歳は「健康によいから」が最も多く 60.4%となっています。

働いている理由（ＭＡ）

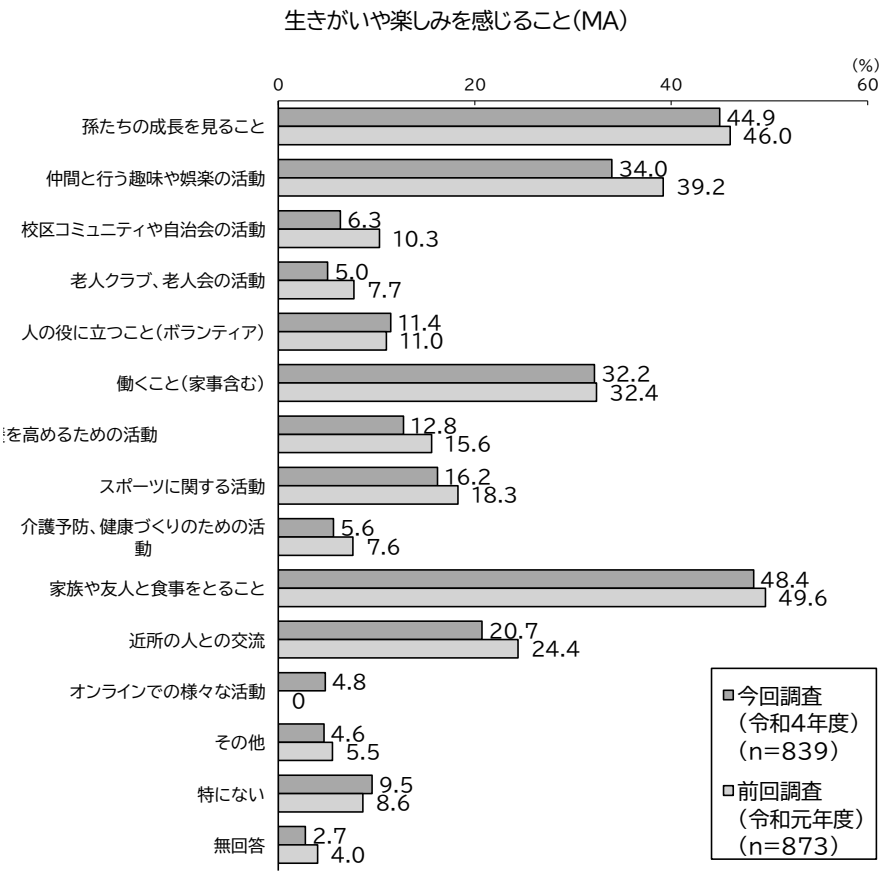
（上段：件、下段：%）

	n	生活費が必要だから	こづかいが必要だから	健康によいから	友達や仲間ができるから	退屈だから	働くのが楽しいから	自分の能力を活かしたいから	仕事を通じて社会に貢献したいから	その他	無回答
女性	84	37	24	39	21	11	39	32	26	4	2
	100.0	44.0	28.6	46.4	25.0	13.1	46.4	38.1	31.0	4.8	2.4
男性	142	84	50	71	29	26	51	52	48	17	0
	100.0	59.2	35.2	50.0	20.4	18.3	35.9	36.6	33.8	12.0	0.0
65～74歳	173	96	59	80	36	29	72	64	59	16	0
	100.0	55.5	34.1	46.2	20.8	16.8	41.6	37.0	34.1	9.2	0.0
75～84歳	53	24	16	32	15	9	20	18	15	7	1
	100.0	45.3	30.2	60.4	28.3	17.0	37.7	34.0	28.3	13.2	1.9
85歳以上	3	1	0	1	0	0	0	2	1	0	1
	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3

（2）生きがいや楽しみを感じること

問 11　あなたが現在やっていることで、生きがいや楽しみを感じるのはどんなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

- 「家族や友人と食事をとること」が最も多く 48.4%、次いで「孫たちの成長を見ること」が 44.9%、「仲間と行う趣味や娯楽の活動」が 34.0%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「仲間と行う趣味や娯楽の活動」「校区コミュニティや自治会の活動」「老人クラブ、老人会の活動」「近所の人との交流」が少なくなっています。



・ 女性は「家族や友人と食事をとること」が最も多く 59.3%、男性は「孫たちの成長を見ること」が最も多く 39.0%となっています。
・ 女性は男性と比較して、「孫たちの成長を見ること」「家族や友人と食事をとること」「近所の人との交流」が多く、男性は「学習や教養を高めるための活動」「スポーツに関する活動」「特にない」が多くなっています。
・ すべての年齢で「家族や友人と食事をとること」が最も多く、65～74 歳は 51.6%、75～84 歳は 45.8%、85 歳以上は 46.2%となっています。年齢が高くなるほど「孫たちの成長を見ること」が少なくなっています。

生きがいや楽しみを感じること（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

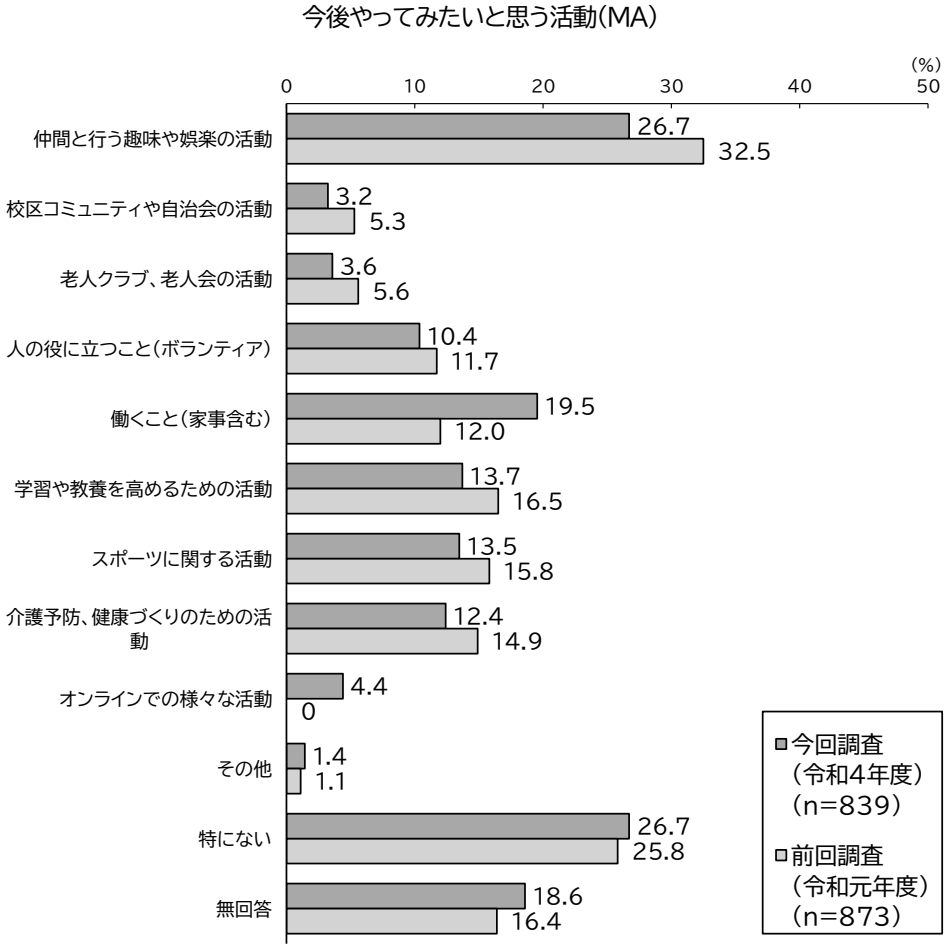
	n	孫たちの成長を見ること	仲間と行う趣味や娯楽の活動	校区コミュニティや自治会の活動	老人クラブ、老人会の活動	人の役に立つこと（ボランティア）	働くこと（家事含む）	学習や教養を高めるための活動	スポーツに関する活動	介護予防、健康づくりのための活動	家族や友人と食事をとること	近所の人との交流	オンラインでの様々な活動	その他	特にない	不明・無回答
女性	427	217	141	28	28	45	148	41	53	22	253	127	17	22	31	12
	100.0	50.8	33.0	6.6	6.6	10.5	34.7	9.6	12.4	5.2	59.3	29.7	4.0	5.2	7.3	2.8
男性	392	153	139	23	13	51	115	66	83	24	148	42	23	16	47	9
	100.0	39.0	35.5	5.9	3.3	13.0	29.3	16.8	21.2	6.1	37.8	10.7	5.9	4.1	12.0	2.3
65～74歳	426	211	134	21	6	49	153	65	73	25	220	63	27	20	41	5
	100.0	49.5	31.5	4.9	1.4	11.5	35.9	15.3	17.1	5.9	51.6	14.8	6.3	4.7	9.6	1.2
75～84歳	323	143	131	30	24	43	91	36	58	16	148	88	11	14	26	14
	100.0	44.3	40.6	9.3	7.4	13.3	28.2	11.1	18.0	5.0	45.8	27.2	3.4	4.3	8.0	4.3
85歳以上	78	18	17	2	11	4	21	6	4	5	36	20	2	5	12	4
	100.0	23.1	21.8	2.6	14.1	5.1	26.9	7.7	5.1	6.4	46.2	25.6	2.6	6.4	15.4	5.1

（3）今後やってみたいと思う活動について

① 今後やってみたいと思う活動

問 12　今後やってみたいと思う活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 「仲間と行う趣味や娯楽の活動」が最も多く 26.7%、次いで「働くこと（家事含む）」が 19.5%、「学習や教養を高めるための活動」が 13.7%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「働くこと（家事含む）」が多く、「仲間と行う趣味や娯楽の活動」が少なくなっています。



・ 女性は「仲間と行う趣味や娯楽の活動」が最も多く 28.6%、男性は「特にない」が最も多く 31.6%となっています。女性は男性と比較して、「仲間と行う趣味や娯楽の活動」「介護予防、健康づくりのための活動」が多く、男性は「特にない」が多くなっています。

・ 65～74 歳、75～84 歳で「仲間と行う趣味や娯楽の活動」が最も多く、65～74 歳は 28.9%、75～84 歳は 26.3%となっています。85 歳以上では「特にない」が最も多く、34.6%となっています。年齢が高くなるほど「働くこと（家事含む）」が少なくなっています。

今後やってみたいと思う活動（MA）

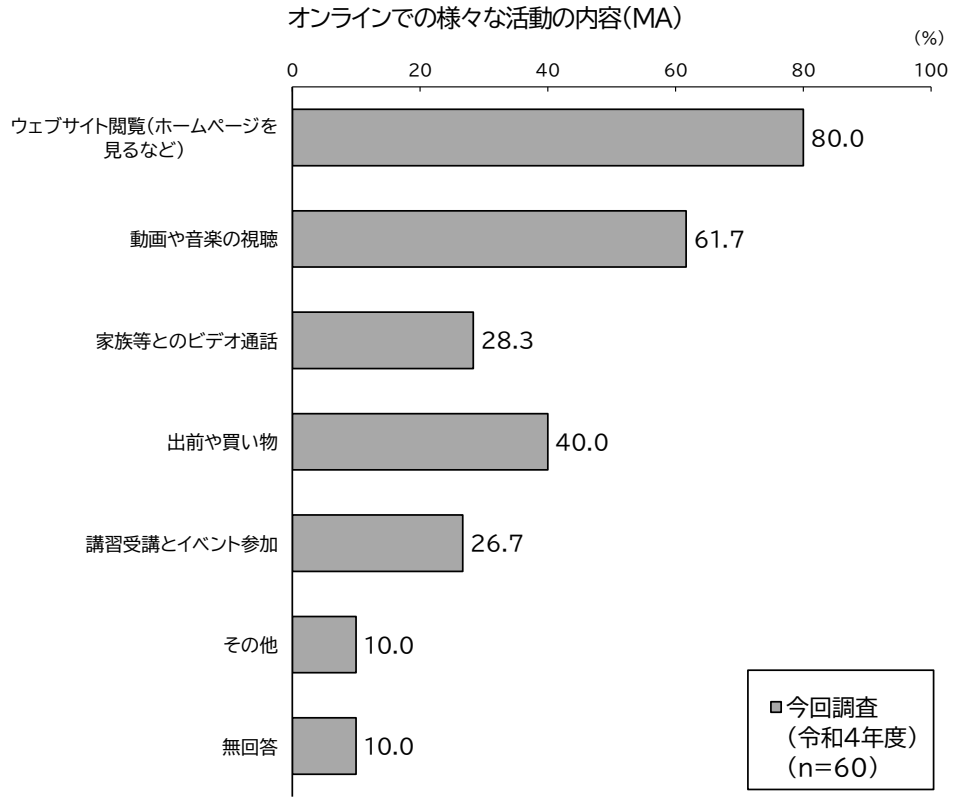
（上段：件、下段：%）

	n	仲間と行う趣味や娯楽の活動	校区コミュニティや自治会の活動	老人クラブ、老人会の活動	人の役に立つこと（ボランティア）	働くこと（家事含む）	学習や教養を高めるための活動	スポーツに関する活動	介護予防、健康づくりのための活動	オンラインでの様々な活動	その他	特にない	不明・無回答
女性	427	122	13	16	42	85	55	48	61	16	5	96	94
	100.0	28.6	3.0	3.7	9.8	19.9	12.9	11.2	14.3	3.7	1.2	22.5	22.0
男性	392	98	13	13	45	73	59	64	41	21	6	124	55
	100.0	25.0	3.3	3.3	11.5	18.6	15.1	16.3	10.5	5.4	1.5	31.6	14.0
65～74歳	426	123	13	9	48	102	80	66	53	29	6	114	54
	100.0	28.9	3.1	2.1	11.3	23.9	18.8	15.5	12.4	6.8	1.4	26.8	12.7
75～84歳	323	85	12	17	37	50	29	44	41	7	4	81	77
	100.0	26.3	3.7	5.3	11.5	15.5	9.0	13.6	12.7	2.2	1.2	25.1	23.8
85歳以上	78	13	2	4	2	9	6	3	8	1	2	27	22
	100.0	16.7	2.6	5.1	2.6	11.5	7.7	3.8	10.3	1.3	2.6	34.6	28.2

② オンラインでの様々な活動の内容

問 12-2　問 11 及び問 12 で「オンラインでの様々な活動」を回答された方におたずねします。
主にどのような活動を行っていますか（行いたいですか）。
（あてはまるものすべてに〇）

・ 「ウェブサイト閲覧（ホームページを見るなど)」が最も多く 80.0%、次いで「動画や音楽の視聴」が 61.7%、「出前や買い物」が 40.0%などとなっています。



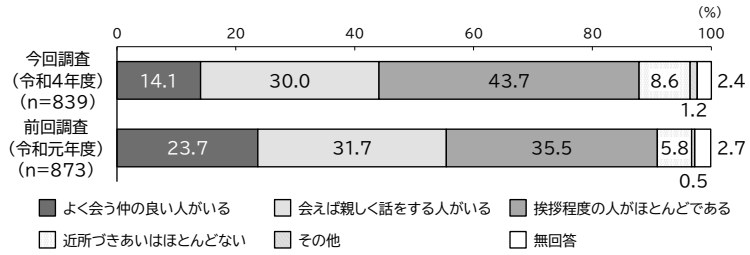
5．地域とのかかわり等について

（1）近所づきあいの程度

問 13　近所づきあいをどの程度していますか。（あてはまるもの１つに○）

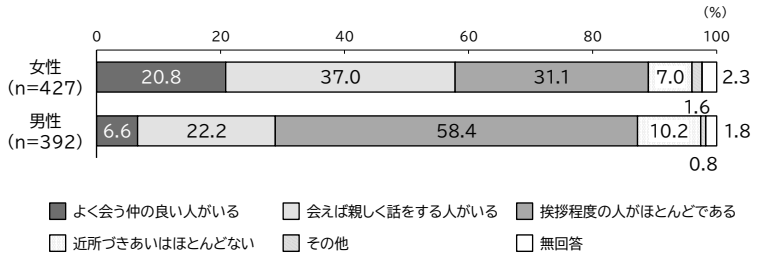
- 「挨拶程度の人がほとんどである」が最も多く 43.79%、次いで「会えば親しく話をする人がいる」が 30.0%、「よく会う仲の良い人がいる」が 14.1%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「挨拶程度の人がほとんどである」「近所づきあいはほとんどない」が多く、「よく会う仲の良い人がいる」が少なくなっています。
- 女性は「会えば親しく話をする人がいる」が最も多く 37.0%、男性は「挨拶程度の人がほとんどである」が最も多く 58.4%となっています。女性は男性と比較して、「よく会う仲の良い人がいる」「会えば親しく話をする人がいる」が多く、男性は「挨拶程度の人がほとんどである」が多くなっています。
- すべての年齢で「挨拶程度の人がほとんどである」が最も多く、65～74 歳は 50.7%、75～84 歳は 37.2%、85 歳以上は 33.3%となっています。年齢が高くなるほど「よく会う仲の良い人がいる」が多く、「挨拶程度の人がほとんどである」が少なくなっています。

近所づきあいの程度(SA)



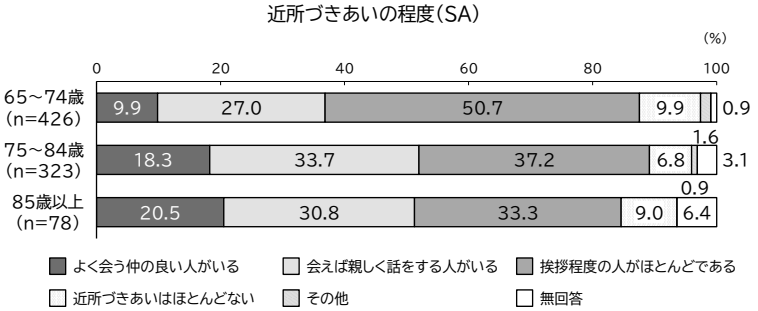
【性別】

近所づきあいの程度(SA)



【年齢別】

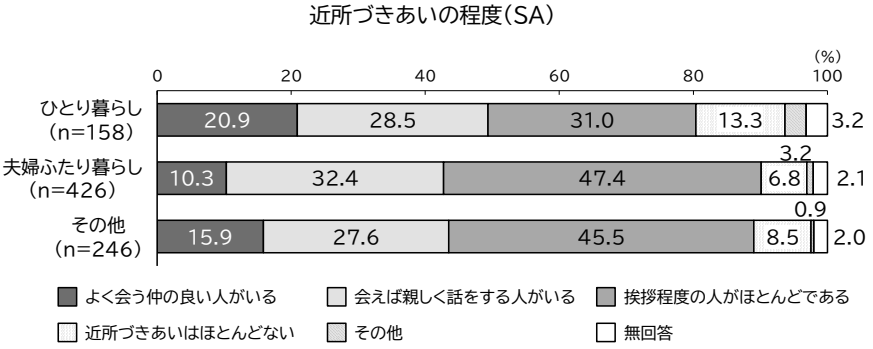
近所づきあいの程度(SA)



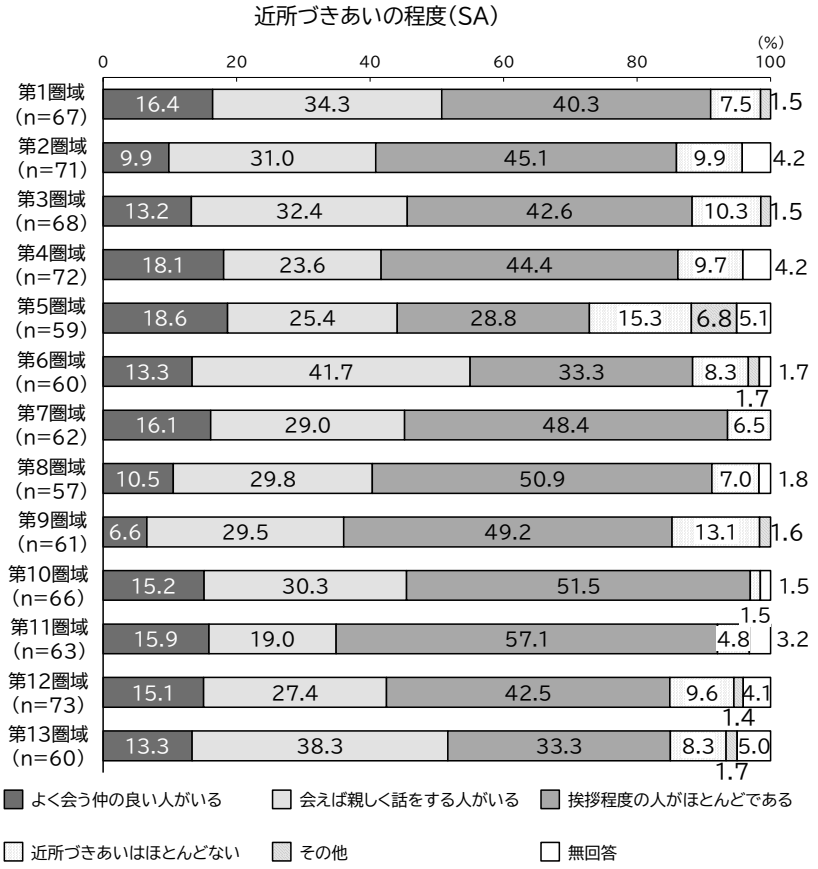
・ すべての家族構成で「挨拶程度の人がほとんどである」が最も多く、ひとり暮らしで 31.0%、夫婦ふたり暮らしで 47.4%、その他で 45.5%となっています。ひとり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「よく会う仲の良い人がいる」「近所づきあいはほとんどない」が多く、「挨拶程度の人がほとんどである」が少なくなっています。夫婦ふたり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「挨拶程度の人がほとんどである」が多く、「よく会う仲の良い人がいる」が少なくなっています。

・ 第 6 圏域、第 13 圏域では「会えば親しく話をする人がいる」が最も多く、第 6 圏域が 41.7%、第 13 圏域が 38.3%となっています。その他の圏域は「挨拶程度の人がほとんどである」が最も多くなっています。圏域別による傾向に違いはありません。

【家族構成別】



【圏域別】

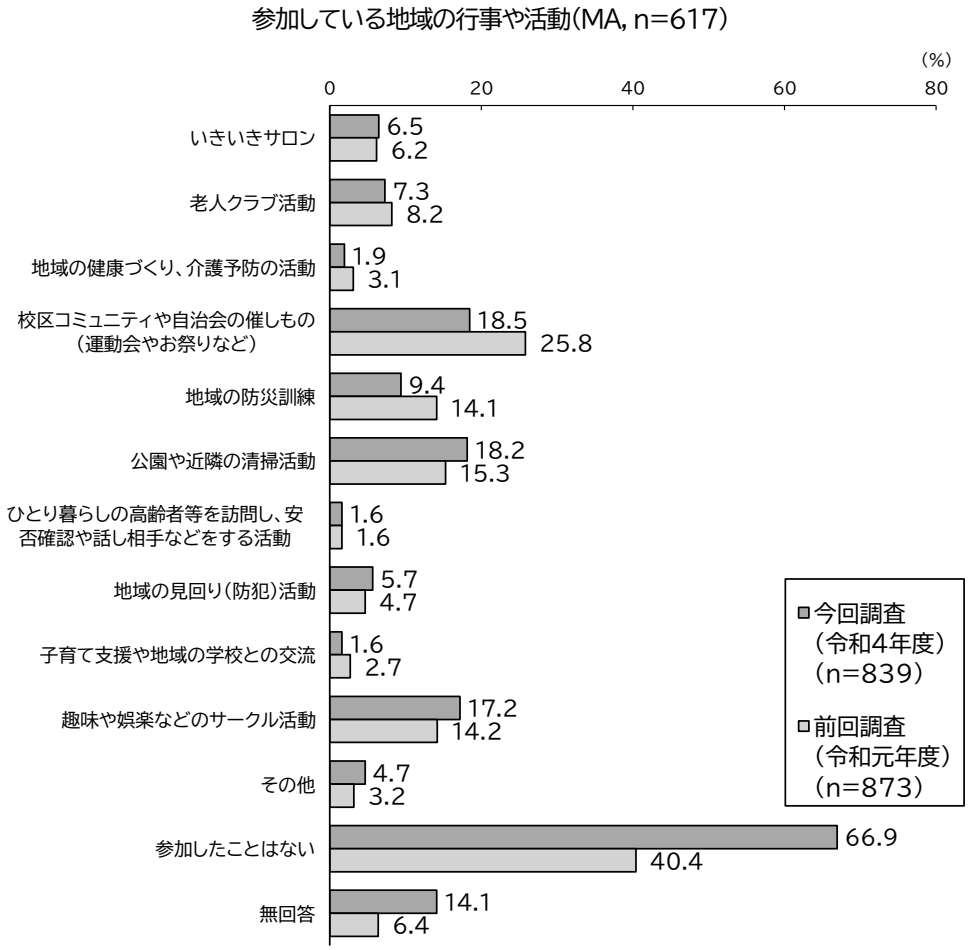


（2）地域の行事や活動について

① 参加している地域の行事や活動

問 14　あなたが参加している地域の行事や活動について教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

・「校区コミュニティや自治会の催しもの（運動会やお祭りなど）」が最も多く 18.5%、次いで「公園や近隣の清掃活動」が 18.2%、「趣味や娯楽などのサークル活動」が 17.2%などとなっています。
・前回調査と比較して、「参加したことはない」が多く、「校区コミュニティや自治会の催しもの（運動会やお祭りなど）」「地域の防災訓練」が少なくなっています。



・ 女性、男性ともに「参加したことはない」が最も多く、女性は 46.1%、男性は 53.1%となっています。女性と比較して、男性は「参加したことはない」が多くなっています。
・ すべての年齢で「参加したことはない」が最も多く、65～74 歳は 53.5%、75～84 歳は 45.5%、85 歳以上は 42.3%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。

参加している地域の行事や活動（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

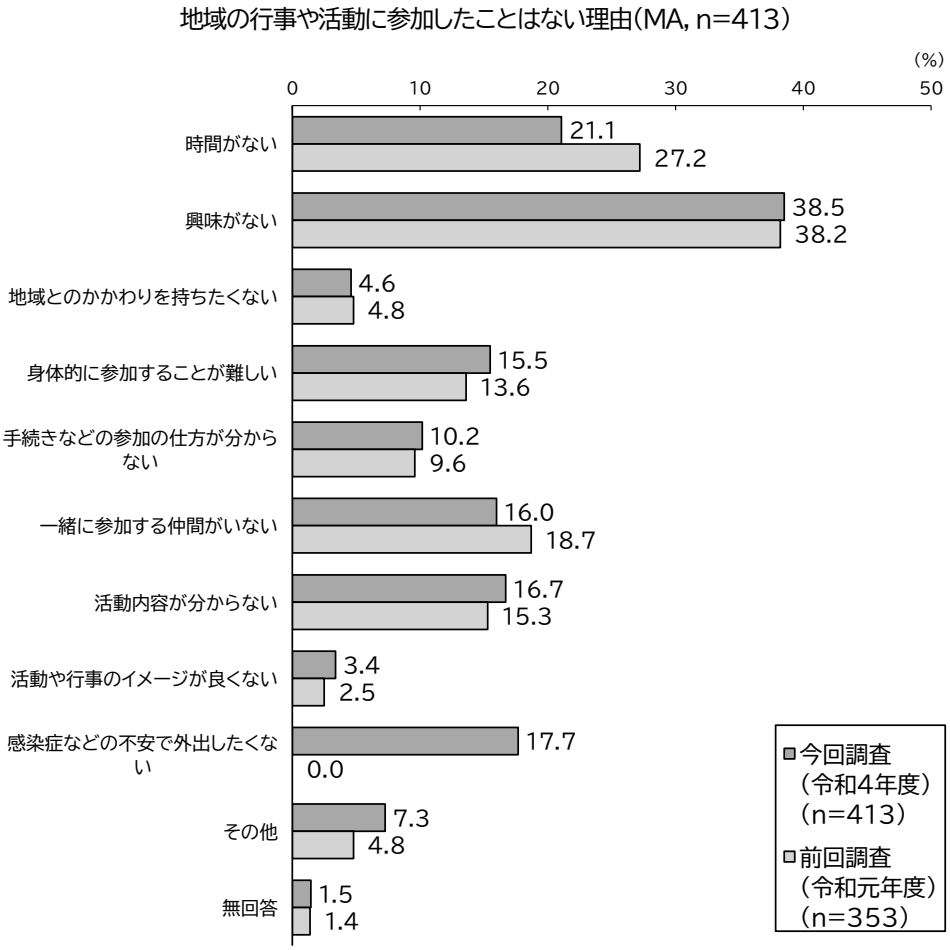
	n	いきいきサロン	老人クラブ活動	地域の健康づくり、介護予防の活動	校区コミュニティや自治会の催しもの（運動会やお祭りなど）	地域の防災訓練	公園や近隣の清掃活動	ひとり暮らしの高齢者等を訪問し、安否確認や話し相手などをする活動	地域の見回り（防犯）活動	子育て支援や地域の学校との交流	趣味や娯楽などのサークル活動	その他	参加したことはない	無回答
女性	427	32	26	6	56	24	61	5	15	5	63	15	197	44
	100.0	7.5	6.1	1.4	13.1	5.6	14.3	1.2	3.5	1.2	14.8	3.5	46.1	10.3
男性	392	7	18	6	54	33	46	4	19	4	41	13	208	39
	100.0	1.8	4.6	1.5	13.8	8.4	11.7	1.0	4.8	1.0	10.5	3.3	53.1	9.9
65～74歳	426	13	10	1	62	28	61	6	20	2	44	10	228	25
	100.0	3.1	2.3	0.2	14.6	6.6	14.3	1.4	4.7	0.5	10.3	2.3	53.5	5.9
75～84歳	323	21	26	9	44	29	41	4	13	8	53	17	147	43
	100.0	6.5	8.0	2.8	13.6	9.0	12.7	1.2	4.0	2.5	16.4	5.3	45.5	13.3
85歳以上	78	6	8	2	7	1	8	0	2	0	8	2	33	16
	100.0	7.7	10.3	2.6	9.0	1.3	10.3	0.0	2.6	0.0	10.3	2.6	42.3	20.5

② 地域の行事や活動に参加したことはない理由

問 14-1　前問で「12. 参加したことはない」と回答された方におたずねします。
その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

・ 「興味がない」が最も多く 38.5%、次いで「時間がない」が 21.1%、「活動内容が分からない」が 16.7%などとなっています。

・ 前回調査と比較して、「時間がない」が少なくなっています。



・ 女性、男性ともに「興味がない」が最も多く、女性は 29.4%、男性は 47.1%となっています。女性と比較して、男性は「興味がない」が多くなっています。
・ 65～74 歳、75～84 歳で「興味がない」が最も多く、65～74 歳は 44.7%、75～84 歳は 35.4%となっています。85 歳以上では「身体的に参加することが難しい」が最も多く、54.5%となっています。
・ 年齢が高くなるほど「身体的に参加することが難しい」が多く、「時間がない」「興味がない」が少なくなっています。

地域の行事や活動に参加したことはない理由（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

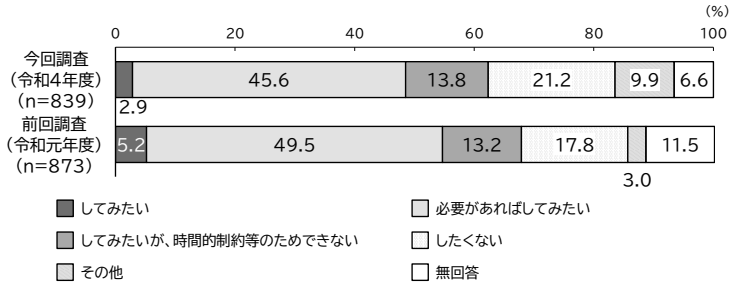
	n	時間がない	興味がない	地域とのかかわりを持ちたくない	身体的に参加することが難しい	手続きなどの参加の仕方が分からない	一緒に参加する仲間がいない	活動内容が分からない	活動や行事のイメージが良くない	感染症などの不安で外出したくない	その他	無回答
女性	197	40	58	9	30	14	35	29	5	40	20	4
	100.0	20.3	29.4	4.6	15.2	7.1	17.8	14.7	2.5	20.3	10.2	2.0
男性	208	44	98	10	32	27	28	39	9	31	9	2
	100.0	21.2	47.1	4.8	15.4	13.0	13.5	18.8	4.3	14.9	4.3	1.0
65～74歳	228	64	102	12	24	23	33	42	8	35	11	1
	100.0	28.1	44.7	5.3	10.5	10.1	14.5	18.4	3.5	15.4	4.8	0.4
75～84歳	147	20	52	7	20	15	25	24	5	28	17	5
	100.0	13.6	35.4	4.8	13.6	10.2	17.0	16.3	3.4	19.0	11.6	3.4
85歳以上	33	2	4	0	18	4	6	3	1	9	2	0
	100.0	6.1	12.1	0.0	54.5	12.1	18.2	9.1	3.0	27.3	6.1	0.0

（3）高齢者同士の支え合いによる生活支援活動について

問 15　住みなれた地域で生活を続けるために、今後高齢者同士の支え合いによる生活支援活動（掃除・洗濯・ごみ出し等）が重要になってくると考えられます。あなたは、この活動についてどのように思いますか。（あてはまるもの１つに○）

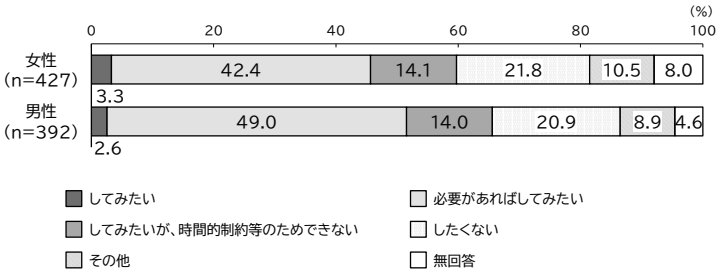
- 「必要があればしてみたい」が最も多く 45.6%、次いで「したくない」が 21.2%、「してみたいが、時間的制約等のためできない」が 13.8%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「その他」が多く、「必要があればしてみたい」が少なくなっています。
- 「その他」の記述をみると、高齢による体力不足や疾病、障害など、時間的制約以外の理由でできないという回答が多くみられます。
- 女性、男性ともに「必要があればしてみたい」が最も多く、女性は 42.4%、男性は 49.0%となっています。性別による傾向に違いはありません。
- すべての年齢で「必要があればしてみたい」が最も多く、65～74 歳は 47.9%、75～84 歳は 46.4%、85 歳以上は 32.1%となっています。年齢が高くなるほど「その他」が多くなっています。

高齢者同士の支え合いによる生活支援活動について(SA)



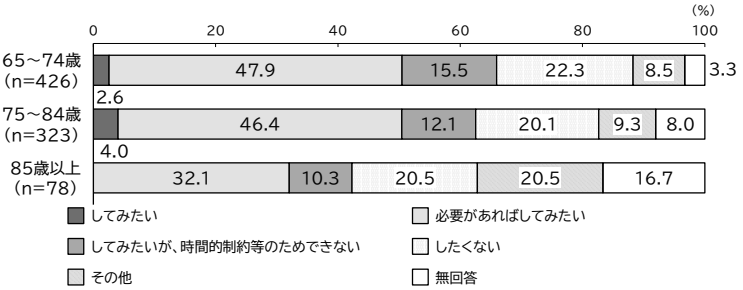
【性別】

高齢者同士の支え合いによる生活支援活動について(SA)



【年齢別】

高齢者同士の支え合いによる生活支援活動について(SA)

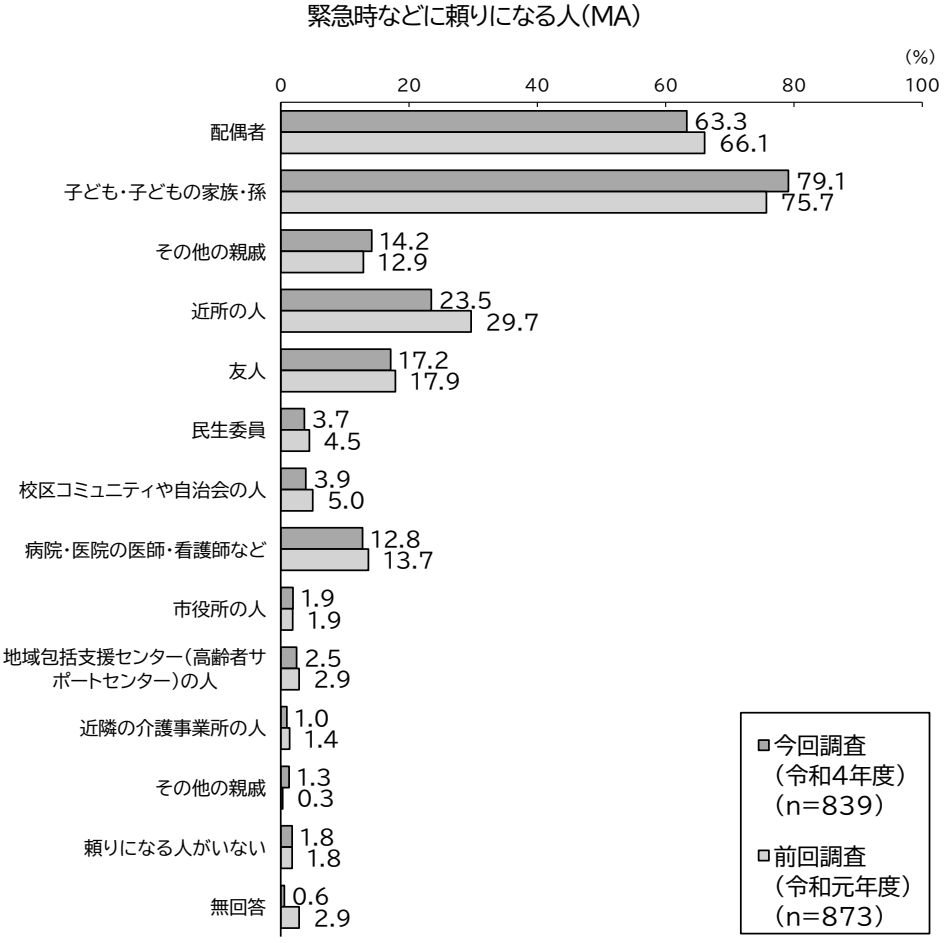


（4）緊急時などに頼りになる人

問 16　緊急時など、何かあったときに頼りになる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

・　「子ども・子どもの家族・孫」が最も多く 79.1%、次いで「配偶者」が 63.3%、「近所の人」が 23.5%などとなっています。

・　前回調査と比較して、「近所の人」が少なくなっています。



・ 女性は「子ども・子どもの家族・孫」が最も多く 83.6%、男性が「配偶者」が最も多く 75.5%となっています。女性は男性と比較して、「子ども・子どもの家族・孫」「近所の人」「友人」が多く、男性は「配偶者」が多くなっています。
・ すべての年齢で「子ども・子どもの家族・孫」が最も多く、65～74 歳は 79.1%、75～84 歳は 80.2%、85 歳以上は 76.9%となっています。年齢が高くなるほど「配偶者」「友人」が少なくなっています。
・ 夫婦ふたり暮らしでは、「配偶者」が最も多く 86.6%となっています。ひとり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「頼りになる人がいない」が多く、「配偶者」「子ども・子どもの家族・孫」が少なくなっています。
・ 夫婦ふたり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「配偶者」が多くなっています。その他では、他の家族構成と比較して、「子ども・子どもの家族・孫」が多くなっています。

緊急時などに頼りになる人（MA）

	n	配偶者	子ども・子どもの家族・孫	その他の親戚	近所の人	友人	民生委員	校区コミュニティや自治会の人	病院・医院の医師・看護師など	市役所の人	地域包括支援センター（高齢者サポートセンター）の人	近隣の介護事業所の人	その他の親戚	頼りになる人がいない	無回答
女性	427	224	357	56	114	89	17	18	53	8	11	3	5	3	2
	100.0	52.5	83.6	13.1	26.7	20.8	4.0	4.2	12.4	1.9	2.6	0.7	1.2	0.7	0.5
男性	392	296	295	62	76	51	13	15	50	6	9	5	5	12	3
	100.0	75.5	75.3	15.8	19.4	13.0	3.3	3.8	12.8	1.5	2.3	1.3	1.3	3.1	0.8
65～74歳	426	295	337	62	89	89	9	13	52	9	8	2	3	10	3
	100.0	69.2	79.1	14.6	20.9	20.9	2.1	3.1	12.2	2.1	1.9	0.5	0.7	2.3	0.7
75～84歳	323	196	259	49	88	46	18	18	40	4	11	6	7	3	1
	100.0	60.7	80.2	15.2	27.2	14.2	5.6	5.6	12.4	1.2	3.4	1.9	2.2	0.9	0.3
85歳以上	78	35	60	7	17	6	4	2	13	2	2	0	1	2	1
	100.0	44.9	76.9	9.0	21.8	7.7	5.1	2.6	16.7	2.6	2.6	0.0	1.3	2.6	1.3
ひとり暮らし	158	7	114	25	39	33	11	7	17	7	2	2	7	8	0
	100.0	4.4	72.2	15.8	24.7	20.9	7.0	4.4	10.8	4.4	1.3	1.3	4.4	5.1	0.0
夫婦ふたり暮らし	426	369	332	59	104	66	14	18	64	4	12	4	2	3	3
	100.0	86.6	77.9	13.8	24.4	15.5	3.3	4.2	15.0	0.9	2.8	0.9	0.5	0.7	0.7
その他	246	151	212	35	51	44	6	8	24	4	7	2	2	4	2
	100.0	61.4	86.2	14.2	20.7	17.9	2.4	3.3	9.8	1.6	2.8	0.8	0.8	1.6	0.8

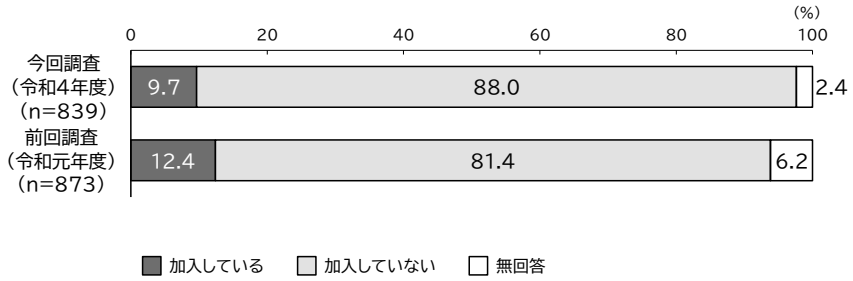
（5）老人クラブについて

① 老人クラブへの加入状況

問 17　老人クラブに加入されていますか。（いずれかに○）

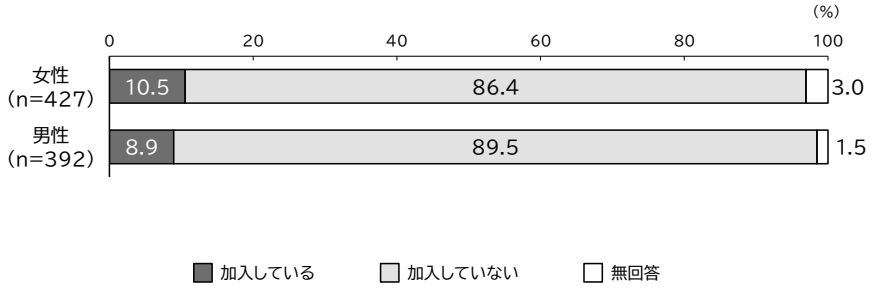
・「加入している」が 9.7%、「加入していない」が 88.0%となっています。前回調査と比較して、「加入している」が少なくなっています。
・女性、男性ともに「加入していない」が多く、女性は 86.4%、男性は 89.5%となっています。性別による傾向に違いはありません。
・すべての年齢で「加入していない」が多く、65～74 歳は 94.1%、75～84 歳は 83.6%、85 歳以上は 71.8%となっています。年齢が高くなるほど「加入している」が多くなっています。

老人クラブへの加入状況(SA)



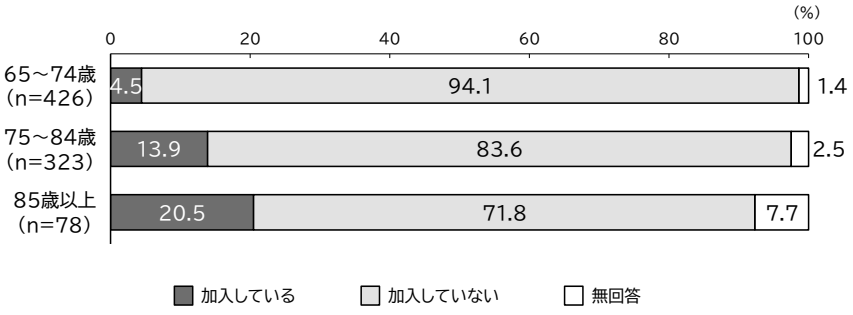
【性別】

老人クラブへの加入状況(SA)



【年齢別】

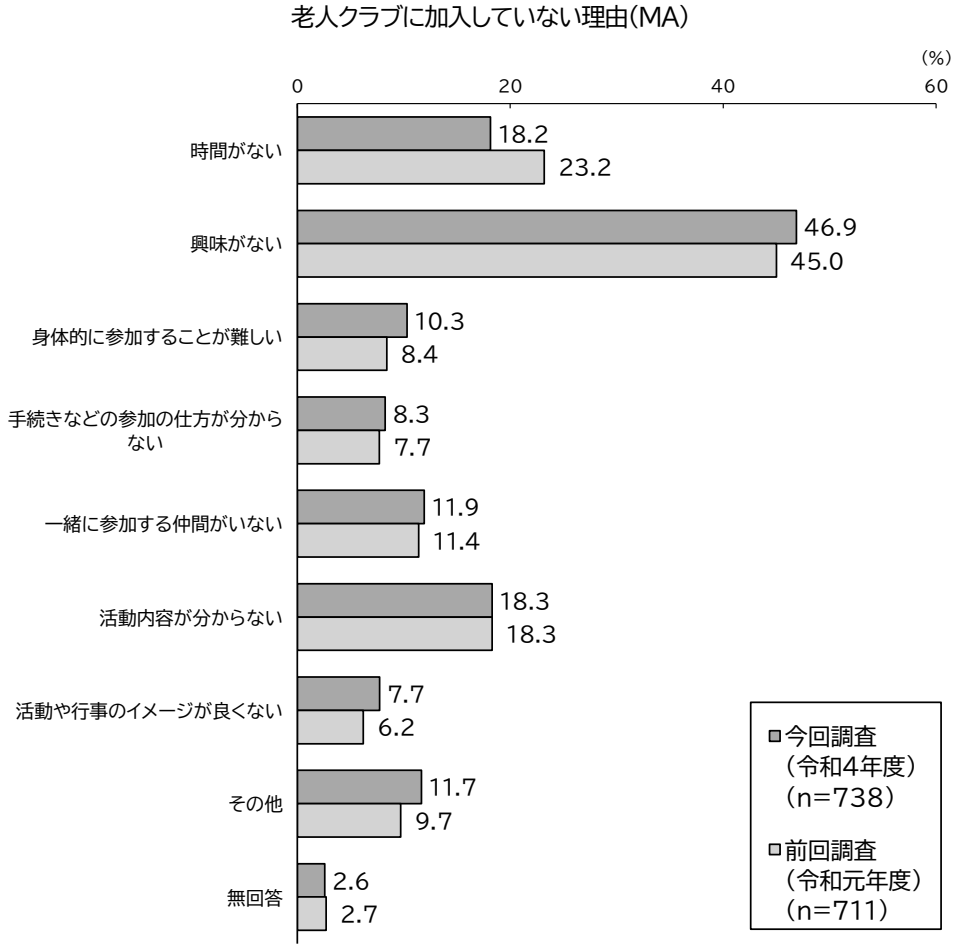
老人クラブへの加入状況(SA)



② 老人クラブに加入していない理由

問 17-1　前問で「２．加入していない」と回答された方におたずねします。
その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

・「興味がない」が最も多く 46.9%、次いで「活動内容が分からない」が 18.3%、「時間がない」が 18.2 などとなっています。前回調査と比較して、「時間がない」が少なくなっています。



・ 女性、男性ともに「興味がない」が最も多く、女性は 42.5%、男性は 51.6%となっています。女性と比較して、男性は「興味がない」が多くなっています。
・ 65～74 歳、75～84 歳では「興味がない」が最も多く、65～74 歳は 49.4%、75～84 歳は 47.0%となっています。85 歳以上では「身体的に参加することが難しい」が最も多く、33.9%となっています。
・ 年齢が高くなるほど「身体的に参加することが難しい」が多く、「時間がない」が少なくなっています。

老人クラブに加入していない理由（MA）

（上段：件、下段：%）

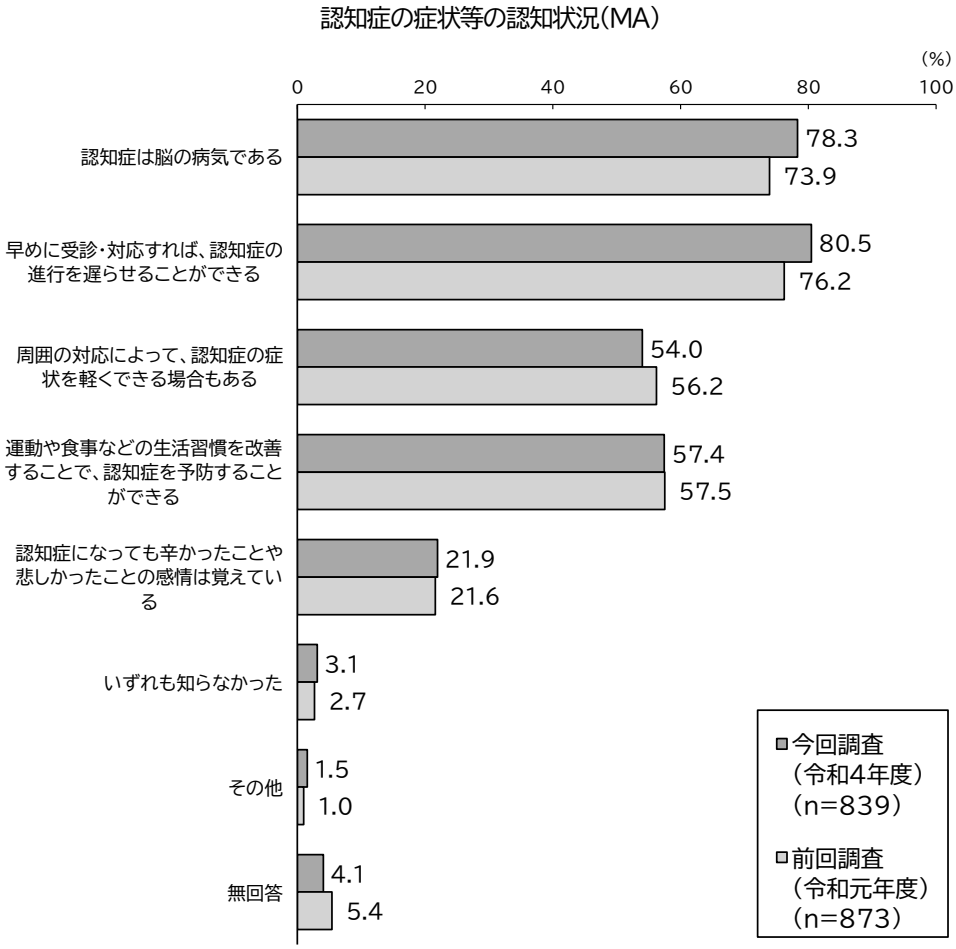
	n	時間がない	興味がない	身体的に参加することが難しい	手続きなどの参加の仕方が分からない	一緒に参加する仲間がいない	活動内容が分からない	活動や行事のイメージが良くない	その他	無回答
女性	369	63	157	32	26	47	60	28	46	14
	100.0	17.1	42.5	8.7	7.0	12.7	16.3	7.6	12.5	3.8
男性	351	65	181	39	34	38	73	28	38	3
	100.0	18.5	51.6	11.1	9.7	10.8	20.8	8.0	10.8	0.9
65～74歳	401	91	198	20	32	38	84	24	51	6
	100.0	22.7	49.4	5.0	8.0	9.5	20.9	6.0	12.7	1.5
75～84歳	270	36	127	33	25	41	42	27	25	10
	100.0	13.3	47.0	12.2	9.3	15.2	15.6	10.0	9.3	3.7
85歳以上	56	4	15	19	3	7	7	5	10	2
	100.0	7.1	26.8	33.9	5.4	12.5	12.5	8.9	17.9	3.6

6．認知症について

（1）認知症の症状等の認知状況

問 18　認知症には以下のような症状等がありますが、知っていることはありましたか。
（あてはまるものすべてに○）

・　「早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる」が最も多く 80.5%、次いで「認知症は脳の病気である」が 78.3%、「運動や食事などの生活習慣を改善することで、認知症を予防することができる」が 57.4%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。



・ 女性は「早めに受診･対応すれば､認知症の進行を遅らせることができる」が最も多く 84.8%、男性が「認知症は脳の病気である」が最も多く 79.6%となっています。女性は男性と比較して、「早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる」「周囲の対応によって、認知症の症状を軽くできる場合もある」「認知症になっても辛かったことや悲しかったことの感情は覚えている」が多くなっています。

・ すべての年齢で「早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる」が最も多く、65～74 歳は 84.5%、75～84 歳は 79.3%、85 歳以上は 66.7%となっています。年齢が高くなるほど「認知症は脳の病気である」「運動や食事などの生活習慣を改善することで、認知症を予防することができる」が少なくなっています。

認知症の症状等の認知状況（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

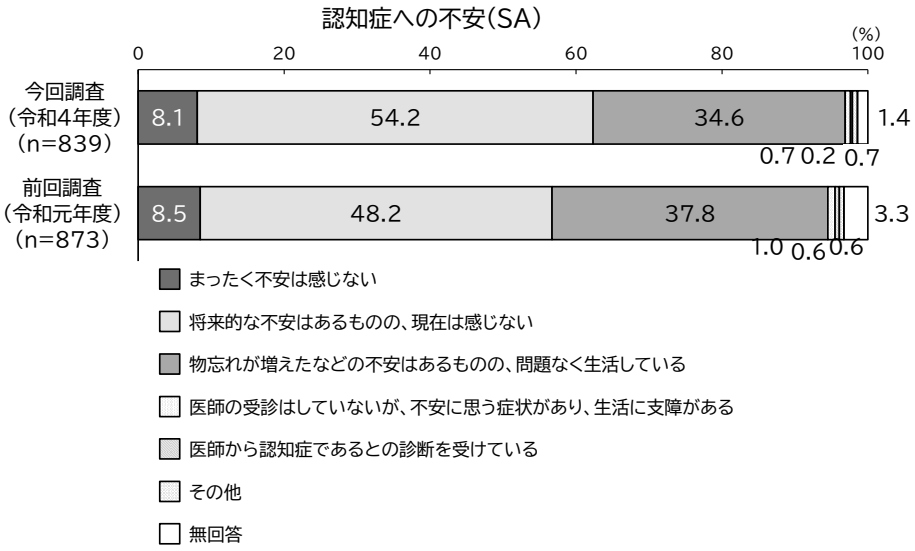
	n	認知症は脳の病気である	早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる	周囲の対応によって、認知症の症状を軽くできる場合もある	運動や食事などの生活習慣を改善することで、認知症を予防することができる	認知症になっても辛かったことや悲しかったことの感情は覚えている	いずれも知らなかった	その他	無回答
女性	427	333	362	261	240	119	7	8	18
	100.0	78.0	84.8	61.1	56.2	27.9	1.6	1.9	4.2
男性	392	312	301	184	232	62	18	3	15
	100.0	79.6	76.8	46.9	59.2	15.8	4.6	0.8	3.8
65～74歳	426	351	360	249	269	108	13	4	10
	100.0	82.4	84.5	58.5	63.1	25.4	3.1	0.9	2.3
75～84歳	323	253	256	168	177	66	10	8	11
	100.0	78.3	79.3	52.0	54.8	20.4	3.1	2.5	3.4
85歳以上	78	45	52	33	32	9	3	1	12
	100.0	57.7	66.7	42.3	41.0	11.5	3.8	1.3	15.4

（2）認知症への不安

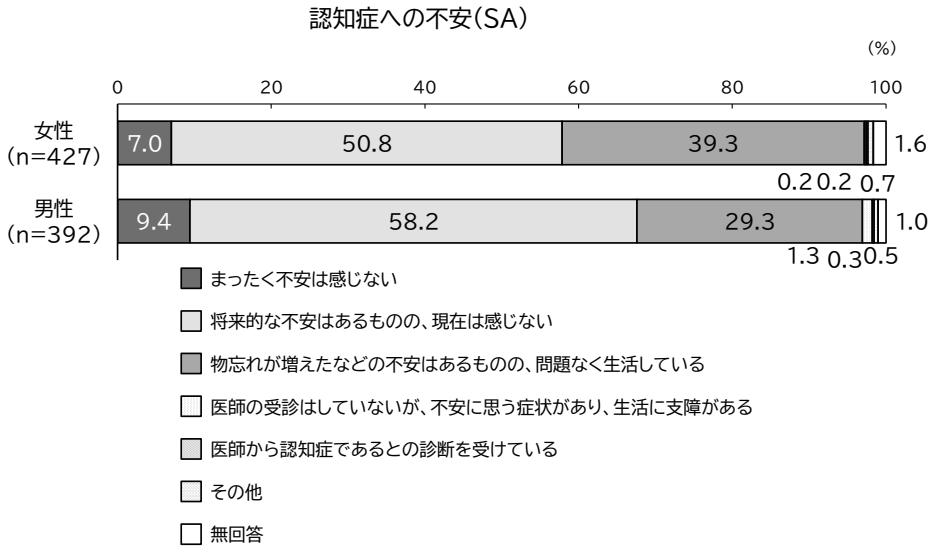
問 19　普段の生活で、認知症に関して不安を感じたことがありますか。
（あてはまるもの１つに○）

・　「将来的な不安はあるものの、現在は感じない」が最も多く 54.2%、次いで「物忘れが増えたなどの不安はあるものの、問題なく生活している」が 34.6%、「まったく不安は感じない」が 8.1%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。

・　女性、男性ともに「将来的な不安はあるものの、現在は感じない」が最も多く、女性は 50.8%、男性は 58.2%となっています。女性は男性と比較して、「物忘れが増えたなどの不安はあるものの、問題なく生活している」が多く、男性では「将来的な不安はあるものの、現在は感じない」が多くなっています。

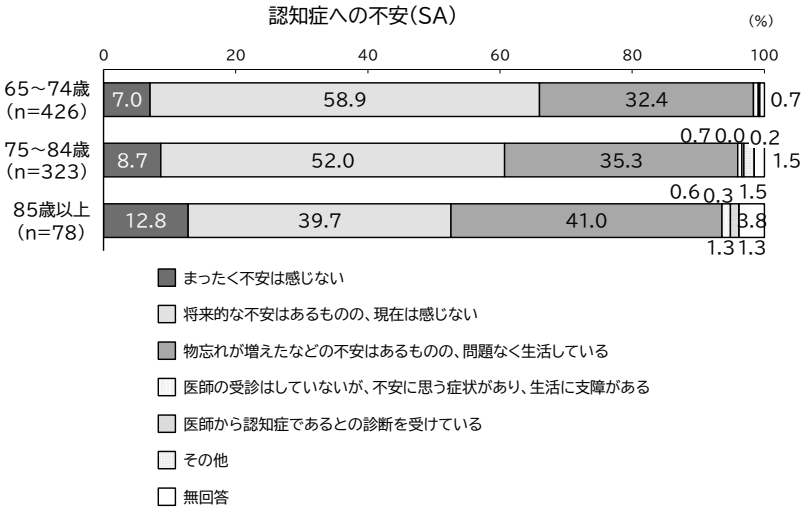


【性別】



・ 65～74 歳、75～84 歳では「将来的な不安はあるものの、現在は感じない」が最も多く、65～74 歳は 58.9%、75～84 歳は 52.0%となっています。85 歳以上では「物忘れが増えたなどの不安はあるものの、問題なく生活している」が最も多く、41.0%となっています。年齢が高くなるほど「将来的な不安はあるものの、現在は感じない」が少なくなっています。

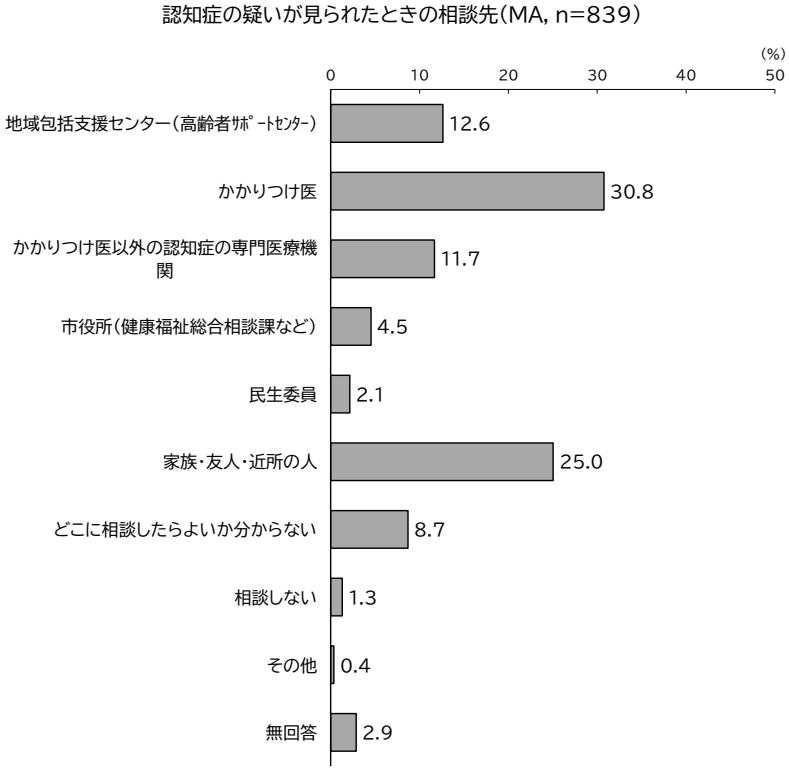
【年齢別】



（3）認知症の疑いが見られたときの相談先

問 20　あなたやまわりの方に認知症の疑いが見られたとき、まず初めにどこに相談しようと思いますか。(あてはまるもの１つに○)

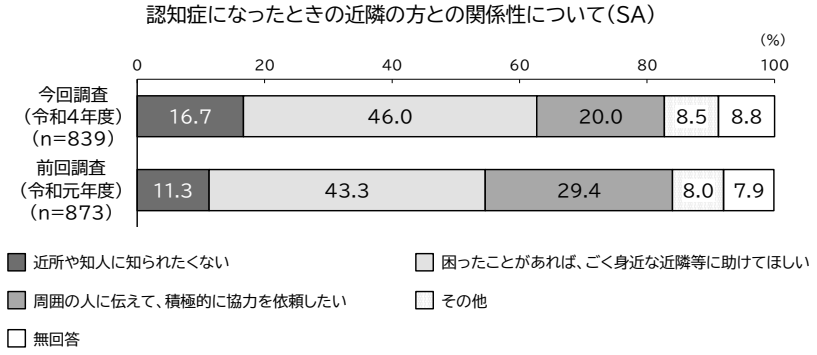
・ 「かかりつけ医」が最も多く 30.8%、次いで「家族・友人・近所の人」が 25.0%、「地域包括支援センター（高齢者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ)」が 12.6%などとなっています。



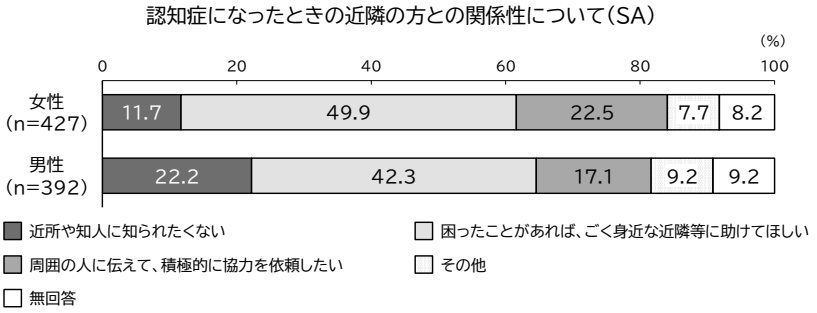
（4）認知症になったときの近隣の方との関係性について

問 21　あなたや家族が認知症になった（わかった）とき、近隣の方との関係性はどうしたいと思いますか。（あてはまるもの１つに○）

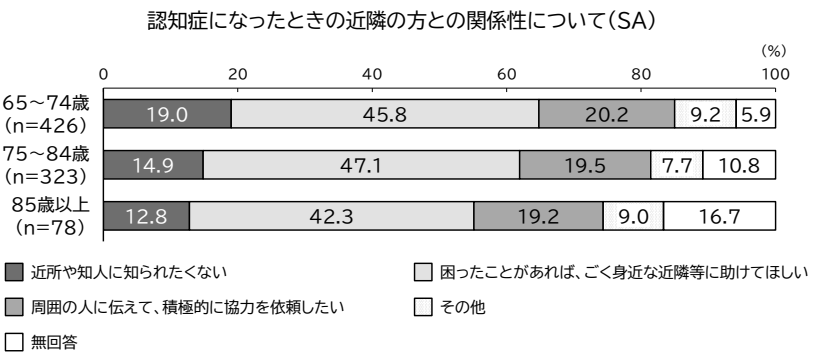
・「困ったことがあれば、ごく身近な近隣等に助けてほしい」が最も多く 46.0%、次いで「周囲の人に伝えて、積極的に協力を依頼したい」が 20.0%、「近所や知人に知られたくない」が 16.7%などとなっています。
・前回調査と比較して、「近所や知人に知られたくない」が多く、「周囲の人に伝えて、積極的に協力を依頼したい」が少なくなっています。
・女性、男性ともに「困ったことがあれば、ごく身近な近隣等に助けてほしい」が最も多く、女性は 49.9%、男性は 42.3%となっています。女性は男性と比較して、「困ったことがあれば、ごく身近な近隣等に助けてほしい」が多く、男性では「近所や知人に知られたくない」が多くなっています。
・すべての年齢で「困ったことがあれば、ごく身近な近隣等に助けてほしい」が最も多く、65～74 歳は 45.8%、75～84 歳は 47.1%、85 歳以上は 42.3%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。



【性別】



【年齢別】



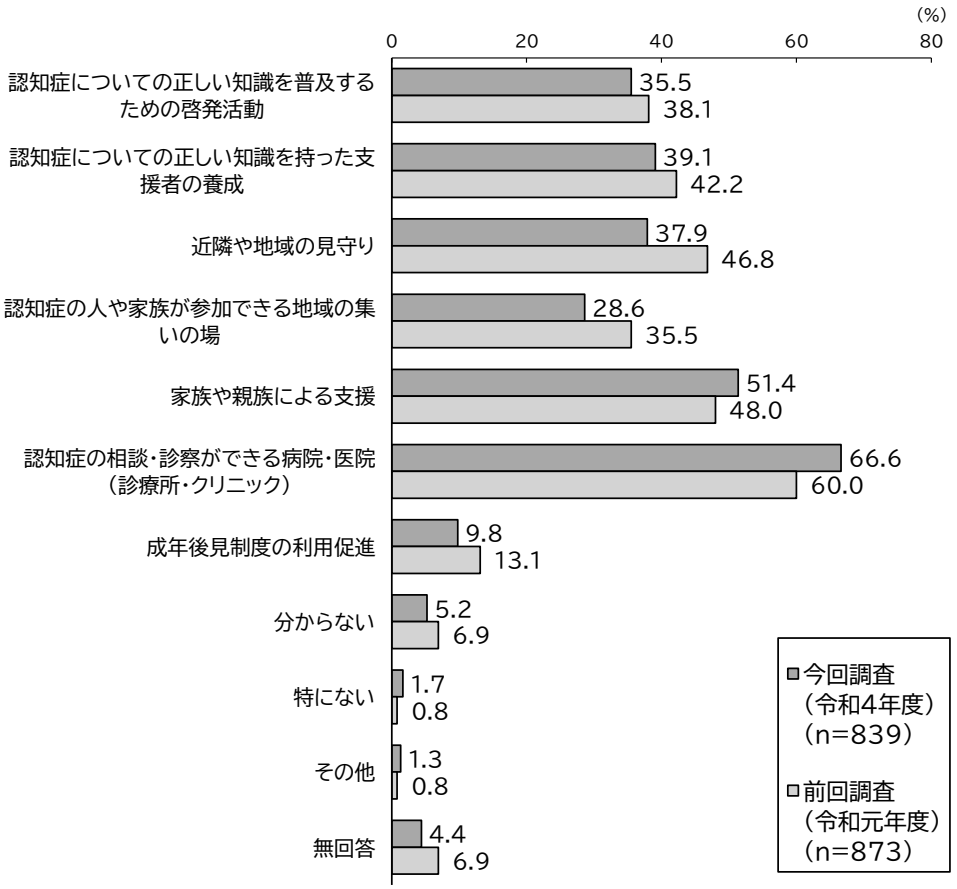
（5）認知症の人が地域で暮らすために必要だと思うこと

問 22　認知症の人が地域で暮らすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

・ 「認知症の相談・診察ができる病院・医院（診療所・クリニック）」が最も多く 66.6%、次いで「家族や親族による支援」が 51.4%、「認知症についての正しい知識を持った支援者の養成」が 39.1%などとなっています。

・ 前回調査と比較して、「認知症の相談・診察ができる病院・医院（診療所・クリニック）」が多く、「近隣や地域の見守り」「認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場」「成年後見制度の利用促進」が少なくなっています。

認知症の人が地域で暮らすために必要だと思うこと(MA)



・ 女性、男性ともに「認知症の相談・診察ができる病院・医院（診療所・クリニック）」が最も多く、女性は 68.9%、男性は 64.5%となっています。女性は男性と比較して、「認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場」が多くなっています。
・ すべての年齢で「認知症の相談・診察ができる病院・医院（診療所・クリニック）」が最も多く、65～74 歳は 68.3%、75～84 歳は 63.8%、85 歳以上は 69.2%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。

認知症の人が地域で暮らすためにあなたができそうなこと（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

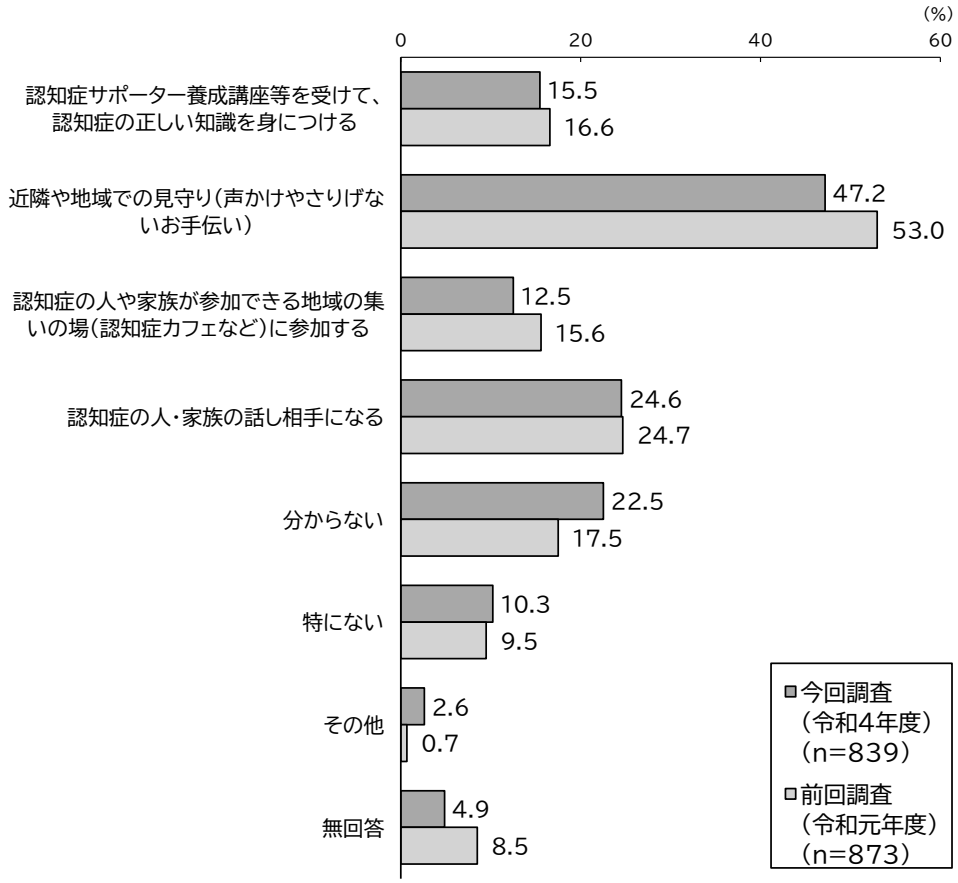
	n	認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動	認知症についての正しい知識を持った支援者の養成	近隣や地域の見守り	認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場	家族や親族による支援	認知症の相談・診察ができる病院・医院（診療所・クリニック）	成年後見制度の利用促進	分からない	特にない	その他	無回答
女性	427	146	164	174	139	223	294	44	16	4	4	22
	100.0	34.2	38.4	40.7	32.6	52.2	68.9	10.3	3.7	0.9	0.9	5.2
男性	392	146	159	140	97	198	253	37	26	9	6	14
	100.0	37.2	40.6	35.7	24.7	50.5	64.5	9.4	6.6	2.3	1.5	3.6
65～74歳	426	167	184	176	136	225	291	50	19	9	6	7
	100.0	39.2	43.2	41.3	31.9	52.8	68.3	11.7	4.5	2.1	1.4	1.6
75～84歳	323	100	113	113	81	162	206	25	22	4	4	20
	100.0	31.0	35.0	35.0	25.1	50.2	63.8	7.7	6.8	1.2	1.2	6.2
85歳以上	78	29	28	26	21	38	54	7	2	1	1	9
	100.0	37.2	35.9	33.3	26.9	48.7	69.2	9.0	2.6	1.3	1.3	11.5

（6）認知症の人が地域で暮らすためにあなたができそうなこと

問 23　認知症の人が地域で暮らすために、あなたができそうなことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

・「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い)」が最も多く 47.2%、次いで「認知症の人・家族の話し相手になる」が 24.6%、「分からない」が 22.5%などとなっています。
・前回調査と比較して、「分からない」が多く、「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い)」「認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場（認知症カフェなど）に参加する」が少なくなっています。

認知症の人が地域で暮らすためにあなたができそうなこと(MA)



・ 女性、男性ともに「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」が最も多く、女性は 53.9%、男性は 40.8%となっています。女性は男性と比較して、「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」「認知症の人・家族の話し相手になる」が多く、男性では「特にない」が多くなっています。

・ 65～74 歳、75～84 歳では「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」が最も多く、65～74 歳は 51.2%、75～84 歳は 47.4%となっています。85 歳以上では「分からない」が最も多く、26.9%となっています。年齢が高くなるほど「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」が少なくなっています。

認知症の人が地域で暮らすためにあなたができそうなこと（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

	n	認知症サポーター養成講座等を受けて、認知症の正しい知識を身につける	近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）	認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場（認知症カフェなど）に参加する	認知症の人・家族の話し相手になる	分からない	特にない	その他	無回答
女性	427	56	230	54	131	88	31	8	23
	100.0	13.1	53.9	12.6	30.7	20.6	7.3	1.9	5.4
男性	392	71	160	48	72	96	52	12	16
	100.0	18.1	40.8	12.2	18.4	24.5	13.3	3.1	4.1
65～74歳	426	70	218	56	100	93	43	10	6
	100.0	16.4	51.2	13.1	23.5	21.8	10.1	2.3	1.4
75～84歳	323	50	153	42	87	73	30	8	22
	100.0	15.5	47.4	13.0	26.9	22.6	9.3	2.5	6.8
85歳以上	78	8	20	6	17	21	11	4	11
	100.0	10.3	25.6	7.7	21.8	26.9	14.1	5.1	14.1

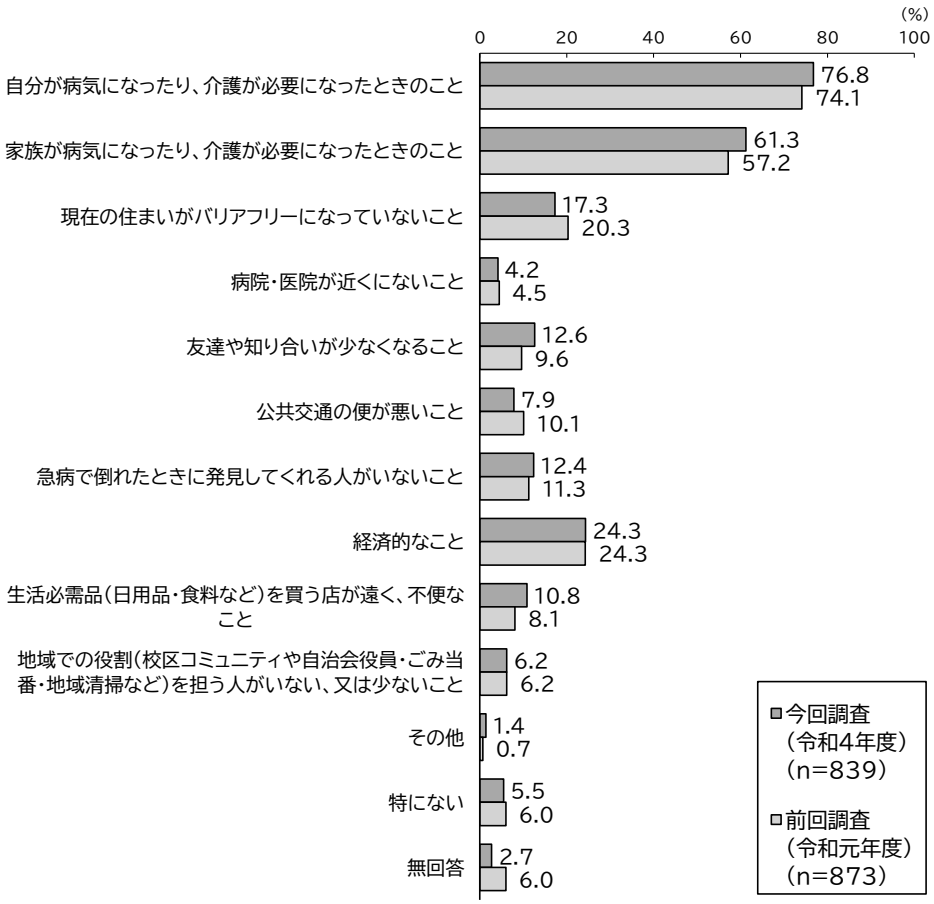
7．今後の生活について

（1）今後の生活の中で不安に思うこと

問 24　今後の生活の中で不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

・　「自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が最も多く 76.8%、次いで「家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が 61.3%、「経済的なこと」が 24.3%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。

今後の生活の中で不安に思うこと（MA）



・ 女性、男性ともに「自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が最も多く、女性は 78.7%、男性は 75.3%となっています。女性は男性と比較して、「公共交通の便が悪いこと」「急病で倒れたときに発見してくれる人がいないこと」が多く、男性では「家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が多くなっています。
・ すべての年齢で「自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が最も多く、65～74 歳は 79.6%、75～84 歳は 76.2%、85 歳以上は 64.1%となっています。65～74 歳は、他の年齢と比較して、「家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと」「経済的なこと」が多くなっています。
・ すべての家族構成で「自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が最も多く、ひとり暮らしで 78.5%、夫婦ふたり暮らしで 79.8%、その他で 70.7%となっています。
・ ひとり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「急病で倒れたときに発見してくれる人がいないこと」が多く、「家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が少なくなっています。
・ 夫婦ふたり暮らしでは、他の家族構成と比較して、「家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと」が多く、「急病で倒れたときに発見してくれる人がいないこと」が少なくなっています。
・ その他では、他の家族構成と比較して、「自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと」「急病で倒れたときに発見してくれる人がいないこと」「生活必需品（日用品・食料など）を買う店が遠く、不便なこと」が少なくなっています。

今後の生活の中で不安に思うこと（MA）

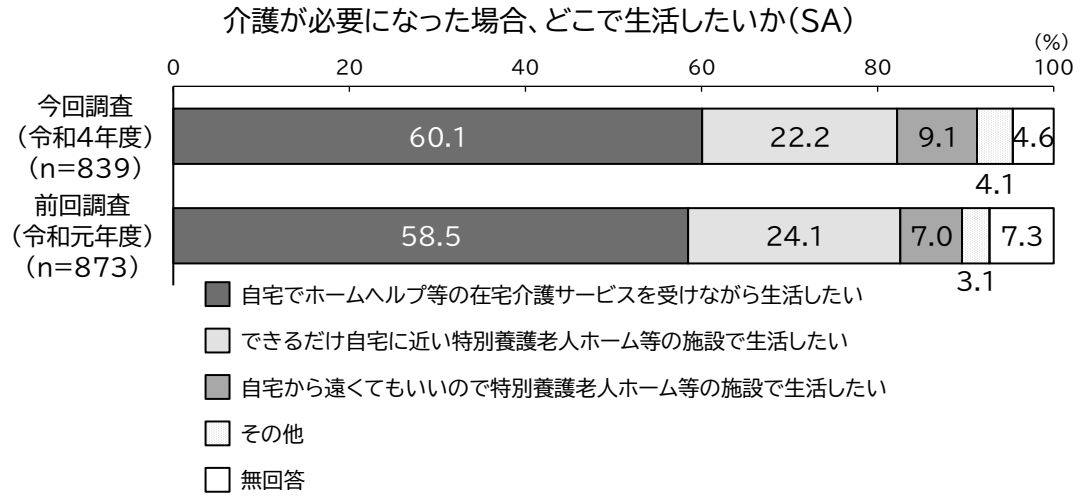
	n	自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと	家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと	現在の住まいがバリアフリーになっていないこと	病院・医院が近くにないこと	友達や知り合いが少なくなること	公共交通の便が悪いこと	急病で倒れたときに発見してくれる人がいないこと	経済的なこと	生活必需品（日用品・食料など）を買う店が遠く、不便なこと	地域での役割（校区コミュニティや自治会役員・ごみ当番・地域清掃など）を担う人がいない、又は少ないこと	その他	特にない	無回答
女性	427	336	225	75	21	56	43	64	95	55	21	4	25	13
	100.0	78.7	52.7	17.6	4.9	13.1	10.1	15.0	22.2	12.9	4.9	0.9	5.9	3.0
男性	392	295	278	65	14	46	23	37	105	36	26	8	19	8
	100.0	75.3	70.9	16.6	3.6	11.7	5.9	9.4	26.8	9.2	6.6	2.0	4.8	2.0
65～74歳	426	339	283	68	19	53	37	46	119	47	23	7	17	5
	100.0	79.6	66.4	16.0	4.5	12.4	8.7	10.8	27.9	11.0	5.4	1.6	4.0	1.2
75～84歳	323	246	180	58	13	41	22	46	69	32	23	5	22	11
	100.0	76.2	55.7	18.0	4.0	12.7	6.8	14.2	21.4	9.9	7.1	1.5	6.8	3.4
85歳以上	78	50	43	17	3	10	6	10	12	12	5	0	6	7
	100.0	64.1	55.1	21.8	3.8	12.8	7.7	12.8	15.4	15.4	6.4	0.0	7.7	9.0
ひとり暮らし	158	124	21	22	5	24	13	74	42	21	7	1	6	9
	100.0	78.5	13.3	13.9	3.2	15.2	8.2	46.8	26.6	13.3	4.4	0.6	3.8	5.7
夫婦ふたり暮らし	426	340	328	72	22	49	35	17	104	54	30	7	26	8
	100.0	79.8	77.0	16.9	5.2	11.5	8.2	4.0	24.4	12.7	7.0	1.6	6.1	1.9
その他	246	174	159	47	7	32	18	12	55	16	14	4	14	6
	100.0	70.7	64.6	19.1	2.8	13.0	7.3	4.9	22.4	6.5	5.7	1.6	5.7	2.4

（2）介護が必要になった場合、どこで生活したいか

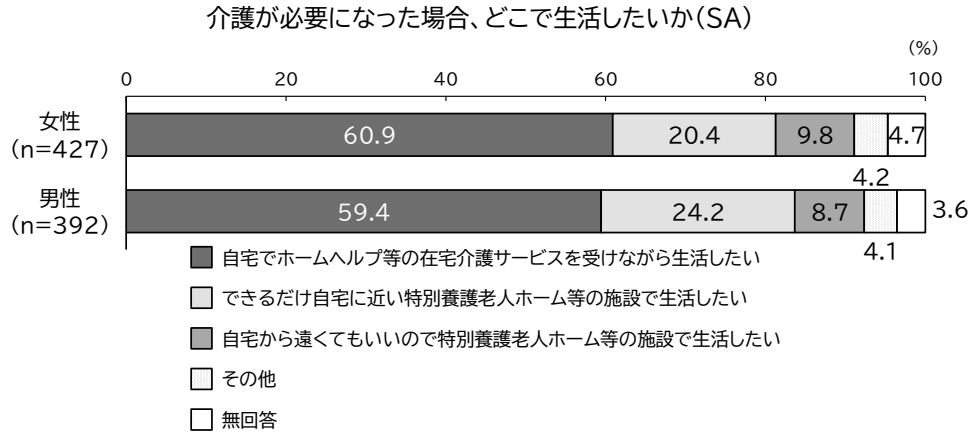
問 25　あなたは、介護が必要となった場合、どこで生活したいと考えますか。
（あてはまるもの１つに○）

・「自宅でホームヘルプ等の在宅介護サービスを受けながら生活したい」が 60.1%、「できるだけ自宅に近い特別養護老人ホーム等の施設で生活したい」が 22.2%、「自宅から遠くてもいいので特別養護老人ホーム等の施設で生活したい」が 9.1%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。

・女性、男性ともに「自宅でホームヘルプ等の在宅介護サービスを受けながら生活したい」が最も多く、女性は 60.9%、男性は 59.4%となっています。性別による傾向に違いはありません。



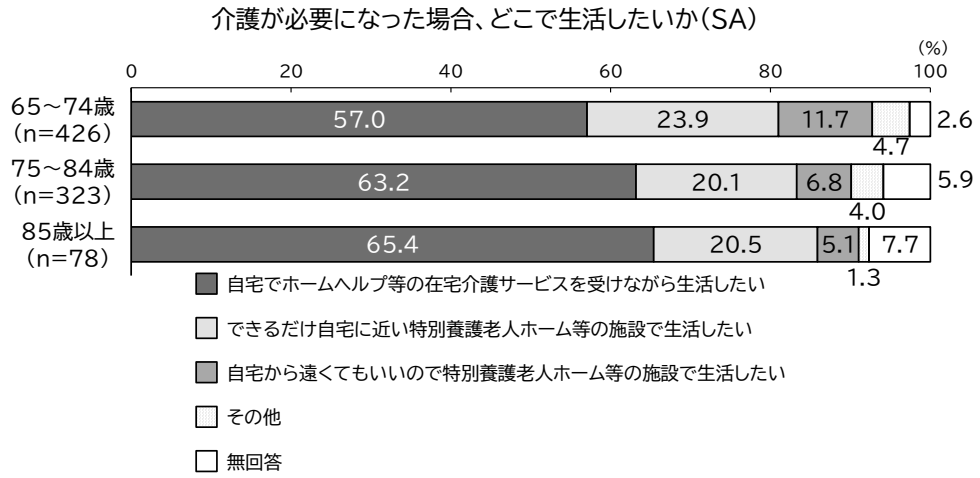
【性別】



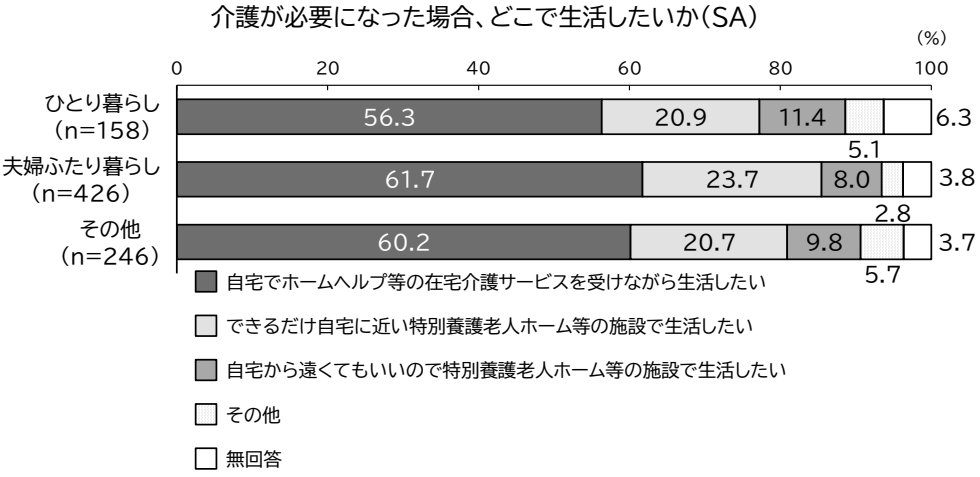
・ すべての年齢で「自宅でホームヘルプ等の在宅介護サービスを受けながら生活したい」が最も多く、65～74 歳は 57.0%、75～84 歳は 63.2%、85 歳以上は 65.4%となっています。65～74 歳は、他の年齢と比較して、「自宅から遠くてもいいので特別養護老人ホーム等の施設で生活したい」が多くなっています。

・ すべての家族構成で「自宅でホームヘルプ等の在宅介護サービスを受けながら生活したい」が最も多く、ひとり暮らしで 56.3%、夫婦ふたり暮らしで 61.7%、その他で 60.2%となっています。家族構成別による傾向に違いはありません。

【年齢別】



【家族構成別】



8．保健・福祉サービスや介護に対するお考えについて

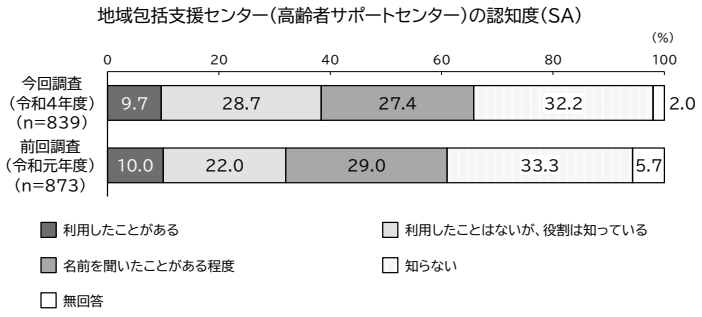
（1）地域包括支援センター（高齢者サポートセンター）の認知度

問 26　あなたは高齢者の相談窓口である地域包括支援センター（高齢者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ）を知っていますか。（あてはまるもの１つに○）

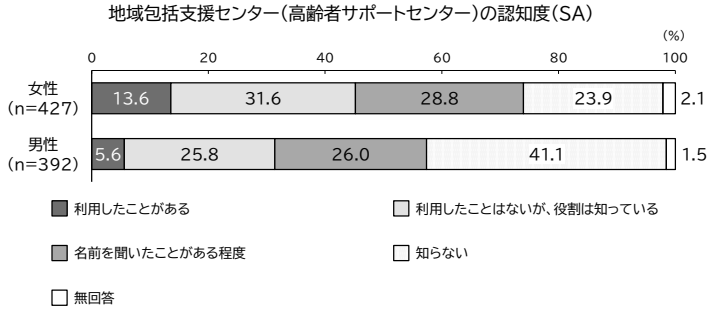
・　「知らない」が最も多く 32.2%、次いで「利用したことはないが、役割は知っている」が 28.7%、「名前を聞いたことがある程度」が 27.4%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。

・　女性は「利用したことはないが、役割は知っている」が最も多く 31.6%、男性は「知らない」が最も多く 41.1%となっています。女性は男性と比較して、「利用したことがある」が多く、男性では「知らない」が多くなっています。

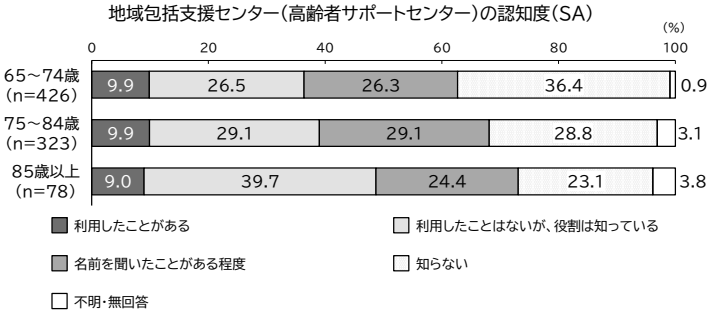
・　65～74 歳は「知らない」が最も多く 36.4%、75～84 歳は「利用したことはないが、役割は知っている」「名前を聞いたことがある程度」が同数で最も多く 29.1%、85 歳以上は「利用したことはないが、役割は知っている」が最も多く 39.7%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。



【性別】



【年齢別】

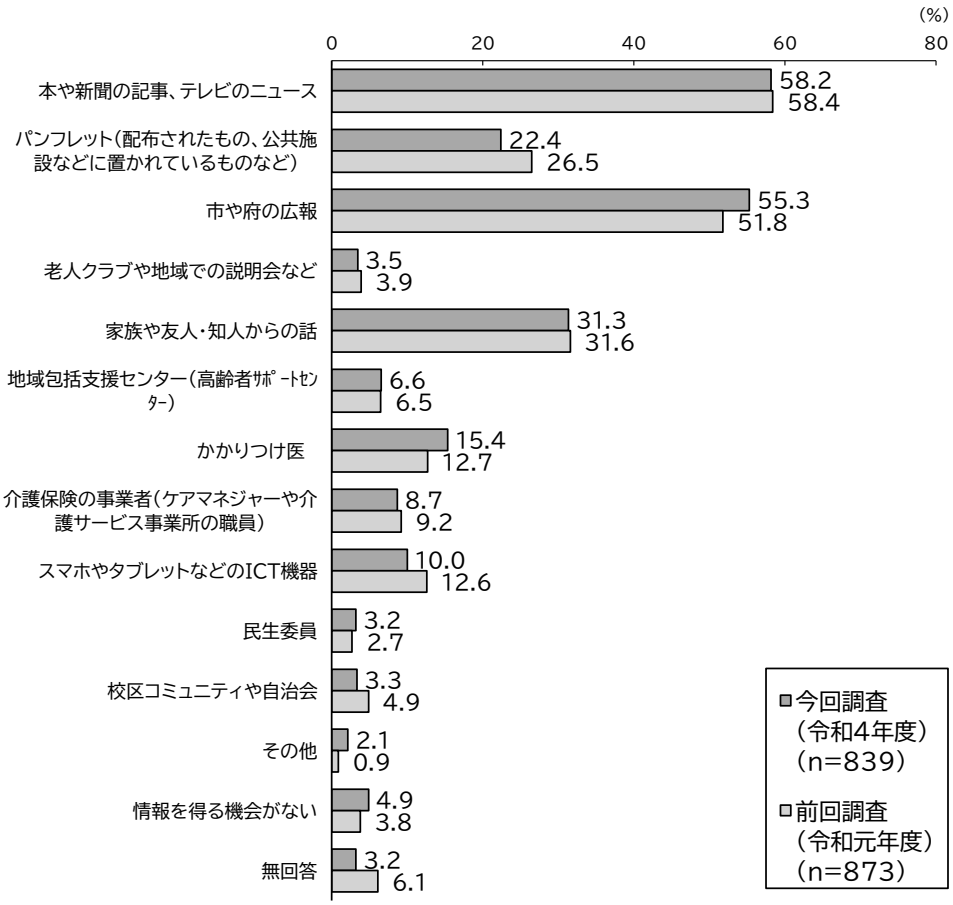


（2）介護や保健、医療等に関する情報の入手方法

問 27　あなたは、介護や保健、医療等に関する情報を、どのような手段で得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 「本や新聞の記事、テレビのニュース」が最も多く 58.2%、次いで「市や府の広報」が 55.3%、「家族や友人・知人からの話」が 31.3%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「パンフレット（配布されたもの、公共施設などに置かれているものなど）」が少なくなっています。

介護や保健、医療等に関する情報の入手方法(MA)



・ 女性は「市や府の広報」が最も多く 59.7%、男性は「本や新聞の記事、テレビのニュース」が最も多く 60.2%となっています。女性は男性と比較して、「市や府の広報」「家族や友人・知人からの話」が多く、男性では「スマホやタブレットなどの ICT 機器」が多くなっています。

・ 65～74 歳は「本や新聞の記事、テレビのニュース」が最も多く 59.2%、75～84 歳、85 歳以上は「市や府の広報」が最も多く、75～84 歳は 57.9%、85 歳以上は 57.7%となっています。年齢が高くなるほど、「かかりつけ医」が多く、「スマホやタブレットなどの ICT 機器」が少なくなっています。

介護や保健、医療等に関する情報の入手方法（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

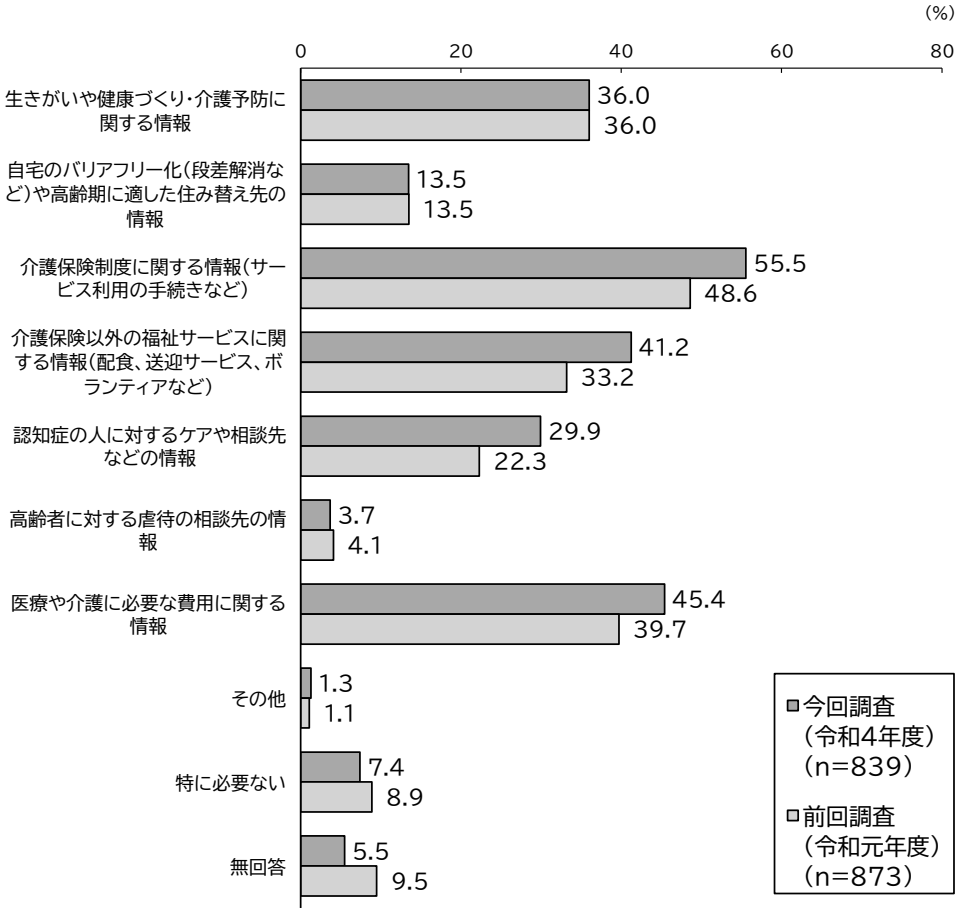
	n	本や新聞の記事、テレビのニュース	パンフレット（配布されたものや、公共施設などに置かれているものなど）	市や府の広報	老人クラブや地域での説明会など	家族や友人・知人からの話	地域包括支援センター（高齢者サポートセンター）	かかりつけ医	介護保険の事業者（ケアマネジャーや介護サービス事業所の職員）	スマホやタブレットなどのICT機器	民生委員	校区コミュニティや自治会	その他	情報を得る機会がない	無回答
女性	427	244	99	255	18	156	34	58	39	34	18	15	13	14	11
	100.0	57.1	23.2	59.7	4.2	36.5	8.0	13.6	9.1	8.0	4.2	3.5	3.0	3.3	2.6
男性	392	236	85	201	10	98	19	70	34	47	9	12	3	26	13
	100.0	60.2	21.7	51.3	2.6	25.0	4.8	17.9	8.7	12.0	2.3	3.1	0.8	6.6	3.3
65～74歳	426	252	94	227	6	118	26	57	45	59	10	14	9	29	7
	100.0	59.2	22.1	53.3	1.4	27.7	6.1	13.4	10.6	13.8	2.3	3.3	2.1	6.8	1.6
75～84歳	323	186	76	187	15	115	23	52	22	22	13	12	6	11	14
	100.0	57.6	23.5	57.9	4.6	35.6	7.1	16.1	6.8	6.8	4.0	3.7	1.9	3.4	4.3
85歳以上	78	44	16	45	8	23	5	19	5	2	4	2	3	0	5
	100.0	56.4	20.5	57.7	10.3	29.5	6.4	24.4	6.4	2.6	5.1	2.6	3.8	0.0	6.4

（3）介護や保健、医療等に関する情報のニーズ

問 28　あなたは、介護や保健、医療等に関することで、どのような情報がほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 「介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）」が最も多く 55.5%、次いで「医療や介護に必要な費用に関する情報」が 45.4%、「介護保険以外の福祉サービスに関する情報（配食、送迎サービス、ボランティアなど）」が 41.2%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）」「介護保険以外の福祉サービスに関する情報（配食、送迎サービス、ボランティアなど）」「認知症の人に対するケアや相談先などの情報」が多くなっています。

介護や保健、医療等に関する情報のニーズ（MA）



・ 女性、男性ともに「介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）」が最も多く、女性は 54.1%、男性 58.2%となっています。女性は男性と比較して、「介護保険以外の福祉サービスに関する情報（配食、送迎サービス、ボランティアなど）」が多くなっています。
・ すべての年齢で「介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）」が最も多く、65～74 歳は 58.2%、75～84 歳は 52.0%、85 歳以上は 59.0%となっています。85 歳以上の「認知症の人に対するケアや相談先などの情報」が少なくなっています。

介護や保健、医療等に関する情報のニーズ（ＭＡ）

（上段：件、下段：%）

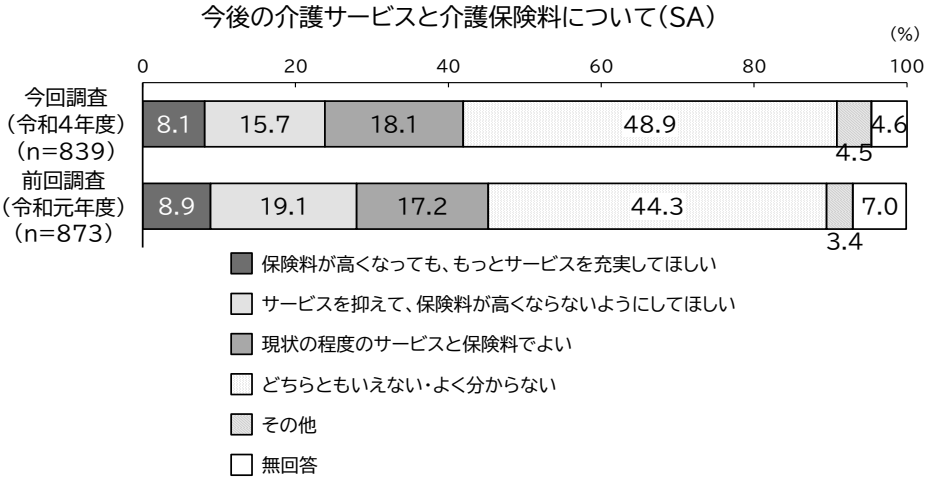
	n	生きがいや健康づくり・介護予防に関する情報	自宅のバリアフリー化（段差解消など）や高齢期に適した住み替え先の情報	介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）	介護保険以外の福祉サービスに関する情報（配食、送迎サービス、ボランティアなど）	認知症の人に対するケアや相談先などの情報	高齢者に対する虐待の相談先の情報	医療や介護に必要な費用に関する情報	その他	特に必要ない	無回答
女性	427	150	55	231	197	132	22	200	6	25	27
	100.0	35.1	12.9	54.1	46.1	30.9	5.2	46.8	1.4	5.9	6.3
男性	392	146	55	228	145	114	8	172	5	35	16
	100.0	37.2	14.0	58.2	37.0	29.1	2.0	43.9	1.3	8.9	4.1
65～74歳	426	160	60	248	183	133	16	204	4	34	15
	100.0	37.6	14.1	58.2	43.0	31.2	3.8	47.9	0.9	8.0	3.5
75～84歳	323	117	41	168	131	102	9	142	7	22	20
	100.0	36.2	12.7	52.0	40.6	31.6	2.8	44.0	2.2	6.8	6.2
85歳以上	78	23	10	46	31	13	6	28	0	5	8
	100.0	29.5	12.8	59.0	39.7	16.7	7.7	35.9	0.0	6.4	10.3

（4）今後の介護サービスと介護保険料について

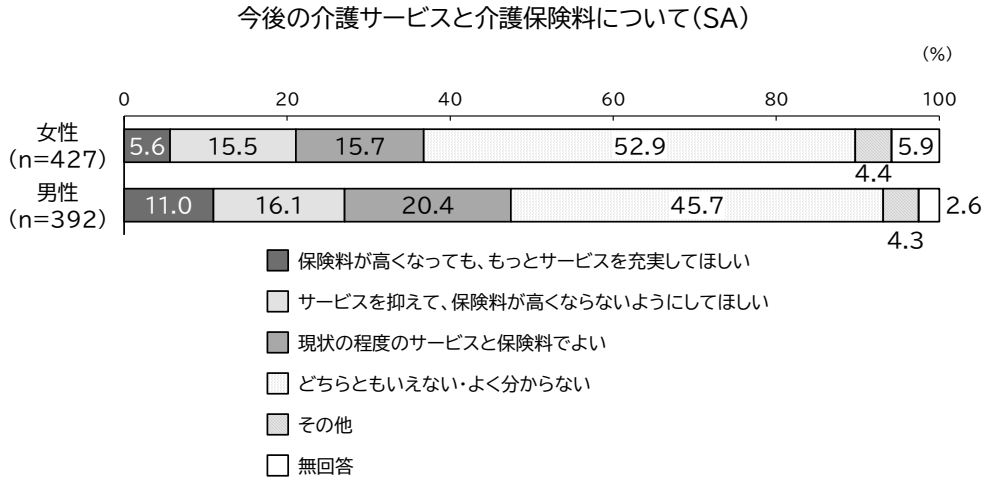
問 29　介護保険は、入所施設を増やしたり、サービスの利用が多くなるなど、サービスが充実すると、介護保険料も高くなります。あなたは、今後の介護サービスと介護保険料についてどのように考えますか。（あてはまるもの１つに○）

・　「どちらともいえない・よく分からない」が最も多く 48.9%、次いで「現状の程度のサービスと保険料でよい」が 18.1%、「サービスを抑えて、保険料が高くならないようにしてほしい」が 15.7%などとなっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。

・　女性、男性ともに「どちらともいえない・よく分からない」が最も多く、女性は 52.9%、男性 45.7%となっています。女性は男性と比較して、「どちらともいえない・よく分からない」が多く、男性では「保険料が高くなっても、もっとサービスを充実してほしい」が多くなっています。

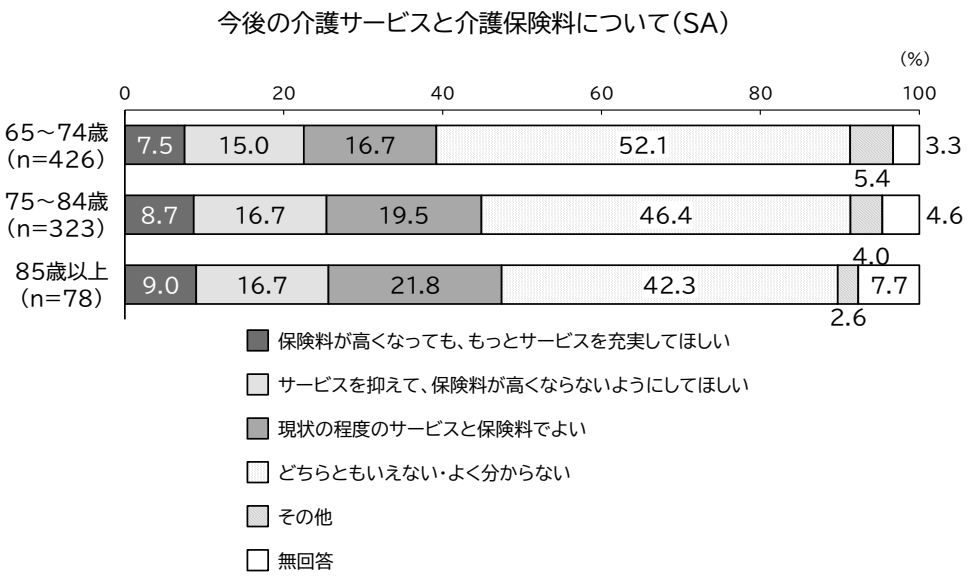


【性別】



・ すべての年齢で「どちらともいえない・よく分からない」が最も多く、65～74 歳は 52.1%、75～84 歳は 46.4%、85 歳以上は 42.3%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。

【年齢別】



9．看取り（みとり）について

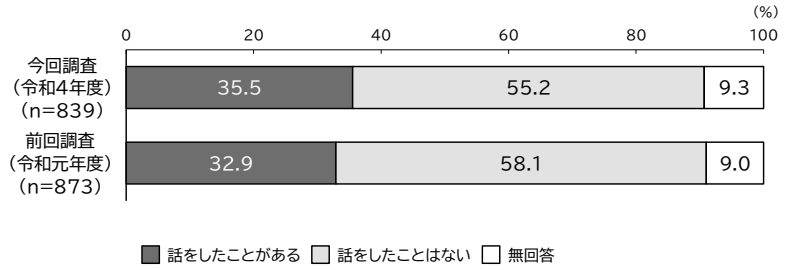
（1）最期の過ごし方について

① 最期の過ごし方について、話をしたことがあるか

問 30　あなたは最期（さいご）の過ごし方について、家族や身近な友人、医療や介護のスタッフ等と話をしたことがありますか。（あてはまるもの１つに○）

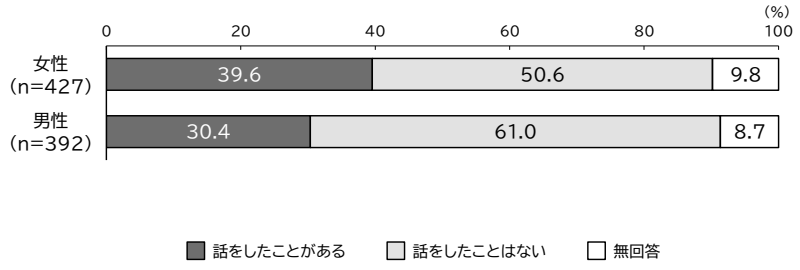
- 「話をしたことがある」が 35.5%、「話をしたことはない」が 55.2%となっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
- 女性、男性ともに「話をしたことはない」が最も多く、女性は 50.6%、男性 61.0%となっています。女性は男性と比較して、「話をしたことがある」が多くなっています。
- 65～74 歳、75～84 歳は「話をしたことはない」が多く、65～74 歳は 60.6%、75～84 歳は 51.7%となっています。85 歳以上は「話をしたことがある」が多く、44.9%となっています。年齢が高くなるほど、「話をしたことがある」が多くなっています。

最期の過ごし方について、話をしたことがあるか(SA)



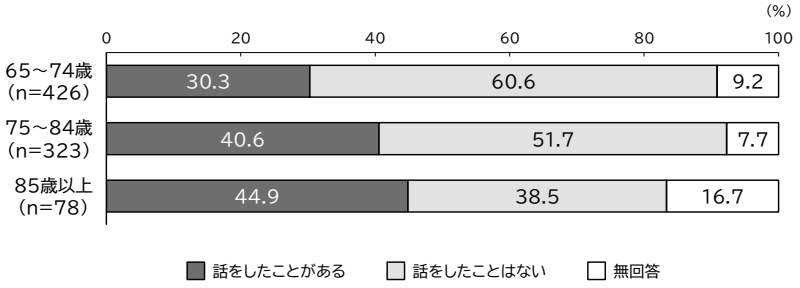
【性別】

最期の過ごし方について、話をしたことがあるか(SA)



【年齢別】

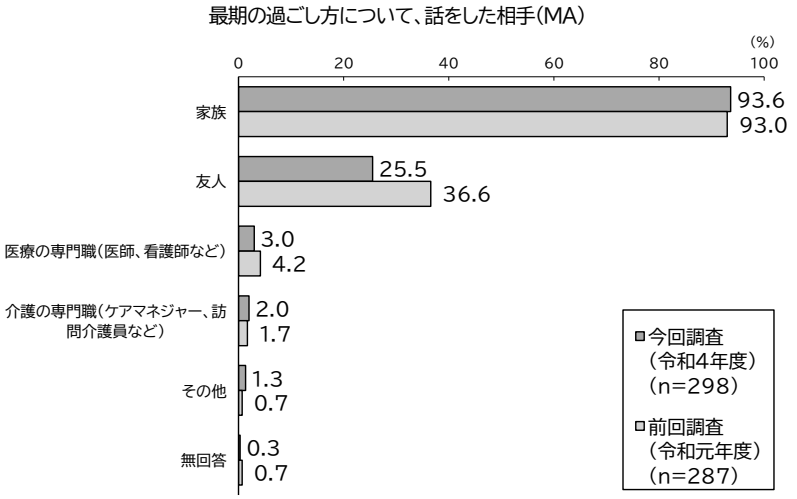
最期の過ごし方について、話をしたことがあるか(SA)



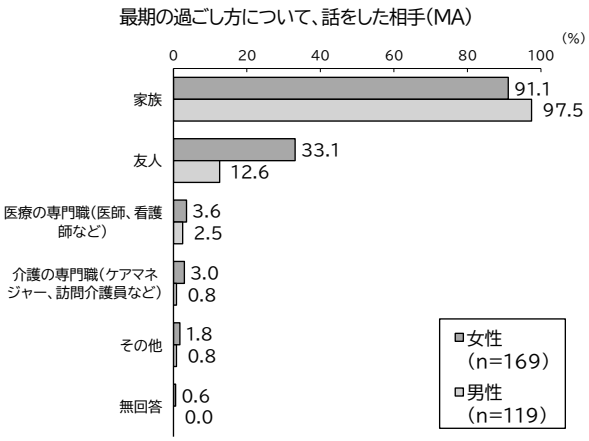
② 最期の過ごし方について、話をした相手

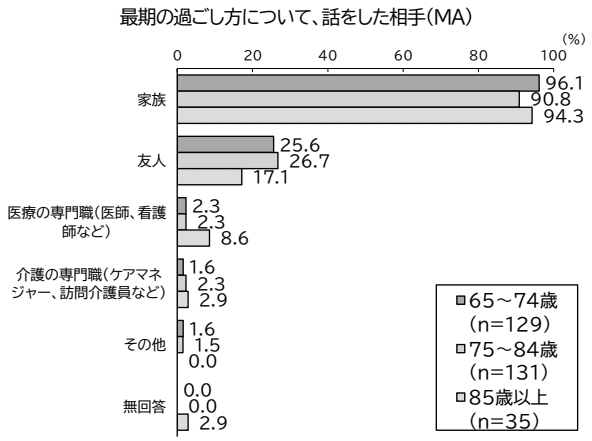
誰と話をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 「家族」が最も多く 93.6%、次いで「友人」が 25.5%、「医療の専門職（医師、看護師など)」が 3.0%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「友人」が少なくなっています。
- 女性、男性ともに「家族」が最も多く、女性は 91.1%、男性 97.5%となっています。女性は男性と比較して、「友人」が多く、男性は「家族」が多くなっています。
- すべての年齢で「家族」が最も多く、65～74 歳は 96.1%、75～84 歳は 90.8%、85 歳以上は 94.3%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。



【性別・年齢別】



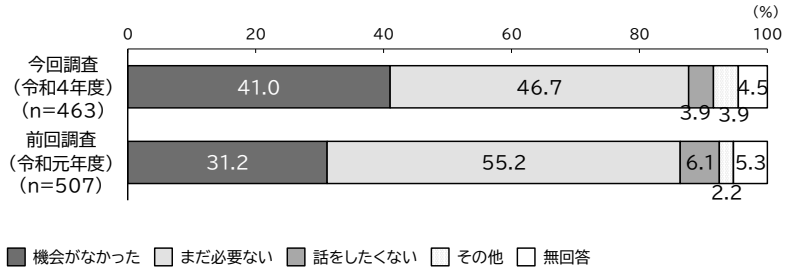


③ 最期の過ごし方について、話をしたことはない理由

どのような理由ですか。（あてはまるもの１つに○）

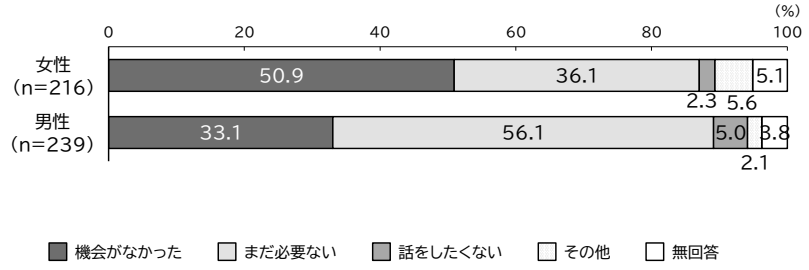
- 「機会がなかった」が 41.0%、「まだ必要ない」が 46.7%、「話をしたくない」が 3.9%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「機会がなかった」が多く、「まだ必要ない」が少なくなっています。
- 女性は「機会がなかった」が最も多く 50.9%、男性が「まだ必要ない」が最も多く 56.1%となっています。女性は男性と比較して、「機会がなかった」が多く、男性では「まだ必要ない」が多くなっています。
- 65～74 歳は「まだ必要ない」が最も多く、51.2%となっています。75～84 歳、85 歳以上は「機会がなかった」が最も多く、75～84 歳は 46.7%、85 歳以上は 43.3%となっています。年齢別による傾向に違いはありません。

最期の過ごし方について、話をしたことはない理由(SA)



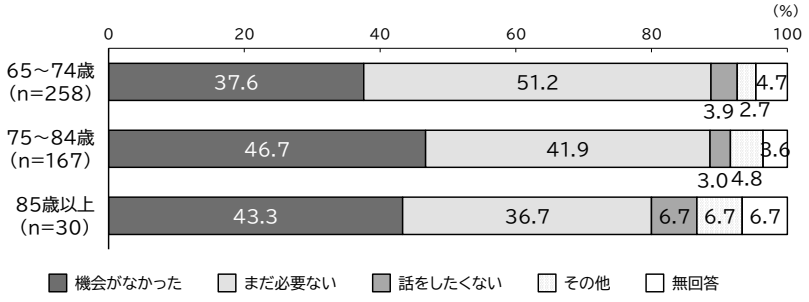
【性別】

最期の過ごし方について、話をしたことはない理由(SA)



【年齢別】

最期の過ごし方について、話をしたことはない理由(SA)

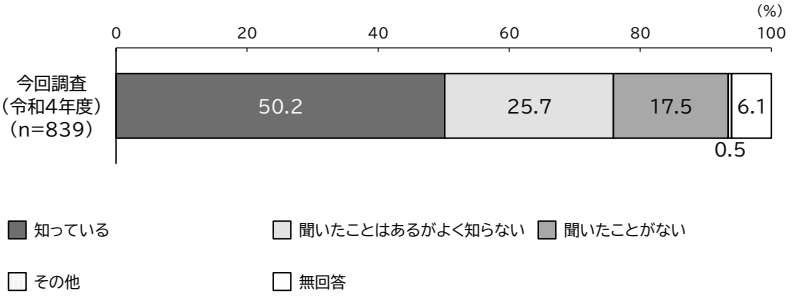


（2）エンディングノートの認知度

問 31　エンディングノートを知っていますか。（あてはまるもの１つに○）

・　「知っている」が 50.2%、「聞いたことはあるがよく知らない」が 25.7%、「聞いたことがない」が 17.5%などとなっています。

エンディングノートの認知度(SA)



（3）人生の最期を迎えたい場所

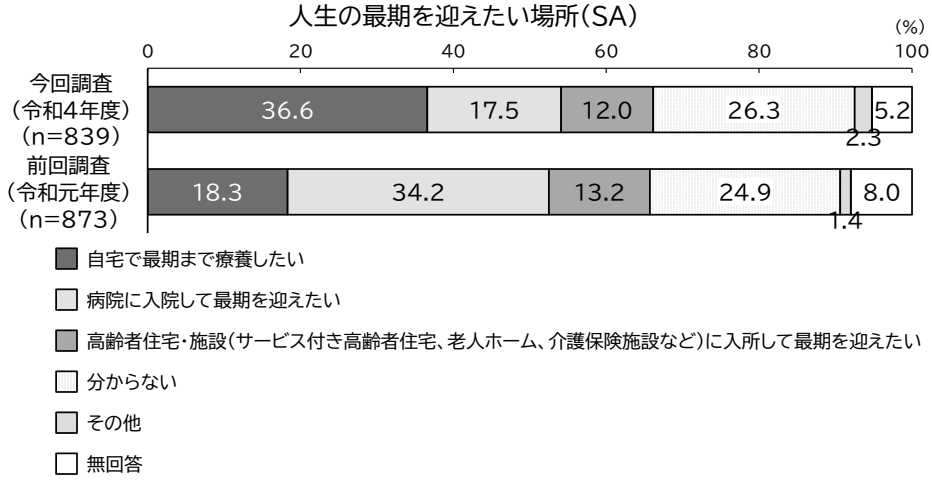
問 32　あなたは最期（さいご）まで自分らしく過ごすために、人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。（あてはまるもの１つに○）

・　「自宅で最期まで療養したい」が最も多く 36.6%、次いで「分からない」が 26.3%、「病院に入院して最期を迎えたい」が 17.5%などとなっています。前回調査と比較して、「自宅で最期まで療養したい」が多く、「病院に入院して最期を迎えたい」が少なくなっています。

・　女性、男性ともに「自宅で最期まで療養したい」が最も多く、女性は 34.2%、男性は 38.8%となっています。性別による傾向に違いはありません。

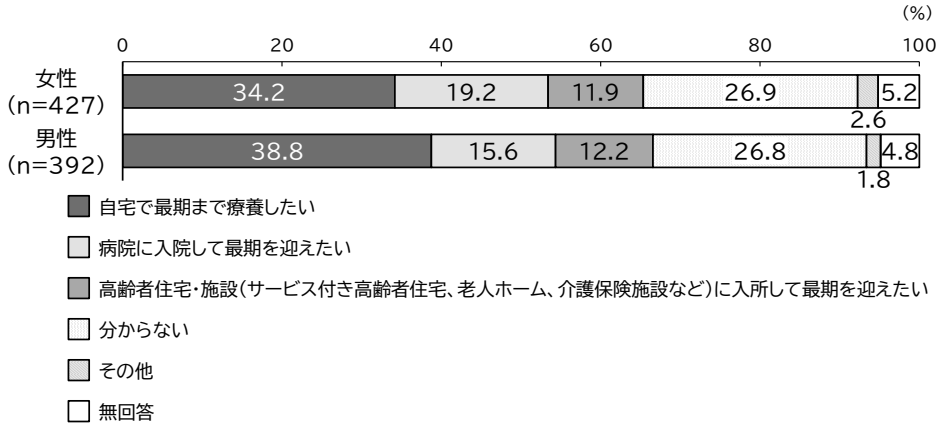
・　65～74 歳は「自宅で最期まで療養したい」「分からない」が同数で最も多く、31.7%となっています。75～84 歳、85 歳以上は「自宅で最期まで療養したい」が最も多く、75～84 歳は 39.3%、85 歳以上は 51.3%となっています。年齢が高くなるほど、「自宅で最期まで療養したい」が多く、「高齢者住宅・施設（サービス付き高齢者住宅、老人ホーム、介護保険施設など）に入所して最期を迎えたい」「分からない」が少なくなっています。

人生の最期を迎えたい場所(SA)



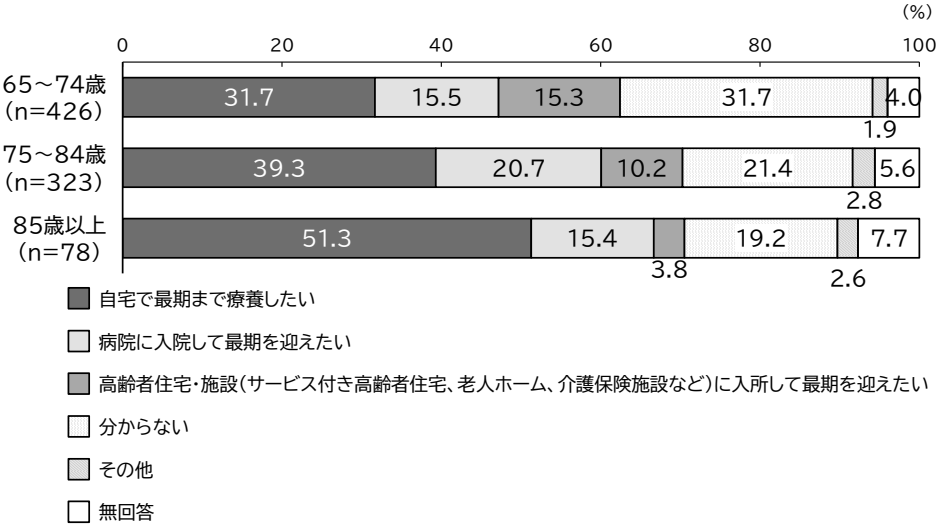
【性別】

人生の最期を迎えたい場所(SA)



【年齢別】

人生の最期を迎えたい場所(SA)

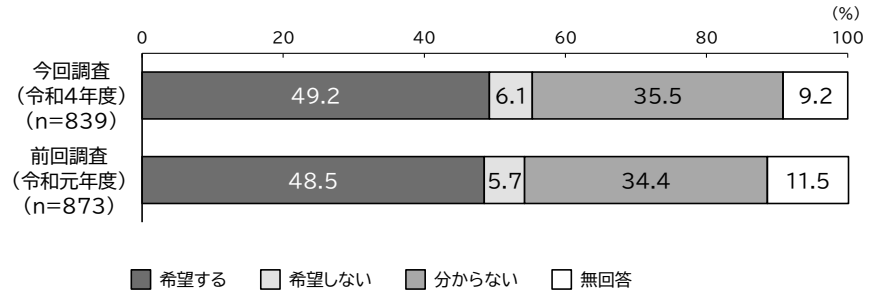


（4）病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望するか

問 33　最期（さいご）を迎えることができる環境（訪問診療、訪問看護、緊急時の対応など）が整っていれば、病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望しますか。（あてはまるもの１つに○）

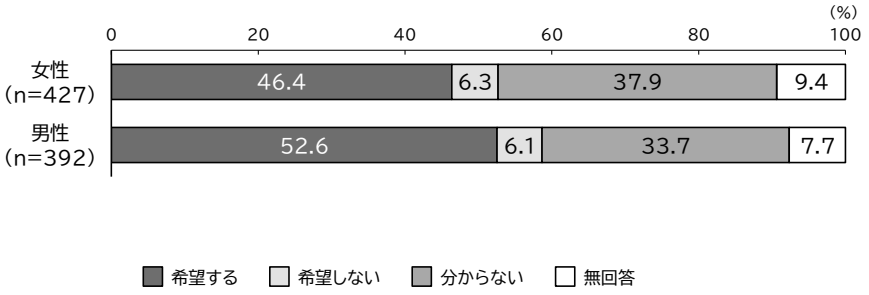
- 「希望する」が 49.2%、「希望しない」が 6.1%、「分からない」が 35.5%となっています。前回調査と比較して、傾向に違いはありません。
- 女性、男性ともに「希望する」が最も多く、女性は 46.4%、男性は 52.6%となっています。
- すべての年齢で「希望する」が最も多く、65～74 歳は 48.8%、75～84 歳は 51.1%、85 歳以上は 46.2%となっています。
- 性別、年齢別による傾向に違いはありません。

病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望するか(SA)



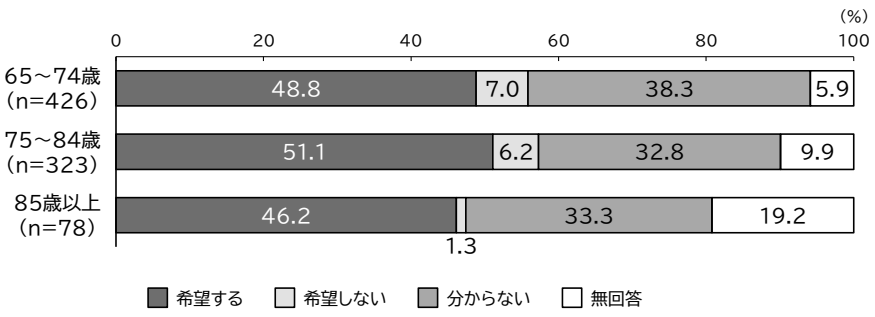
【性別】

病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望するか(SA)



【年齢別】

病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望するか(SA)

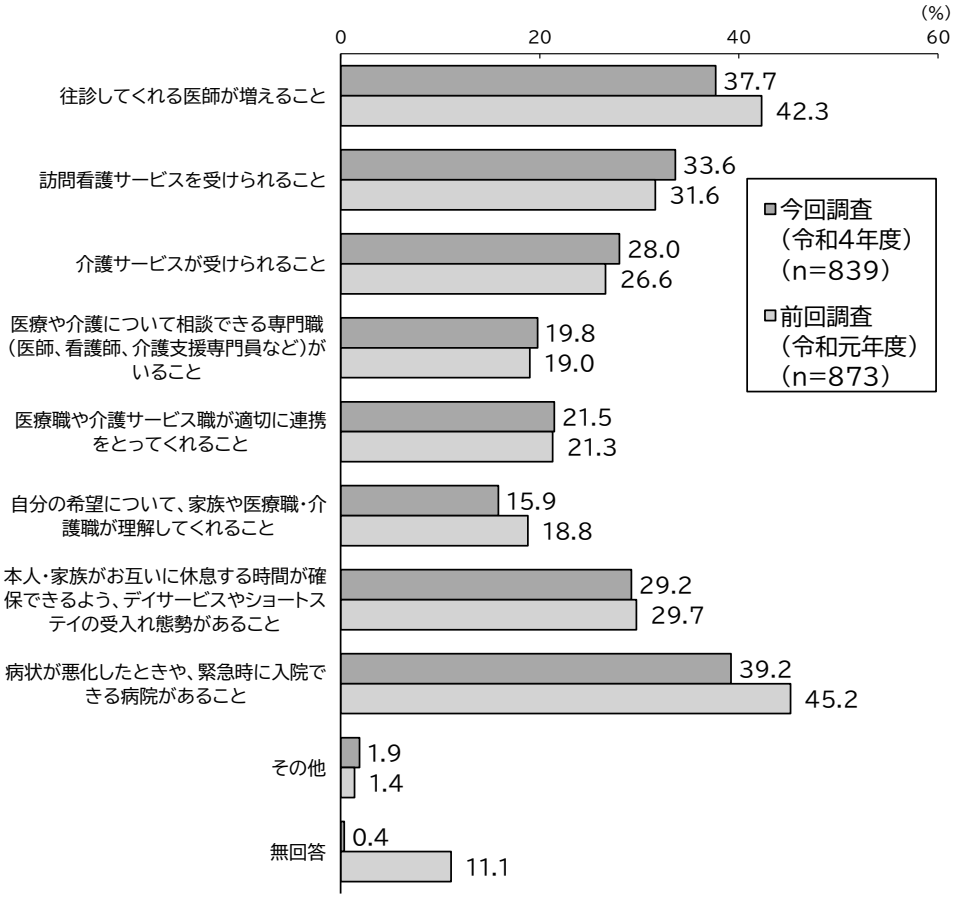


（5）病院以外での最期を迎えるために、整える必要があると思うこと

問 34　今後、病院以外での最期（さいご）を迎えるためには、どういうことが整っていれば可能になると思いますか。(複数回答　３つ以内)

- 「病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること」が最も多く 39.2%、次いで「往診してくれる医師が増えること」が 37.7%、「訪問看護サービスを受けられること」が 33.6%などとなっています。
- 前回調査と比較して、「往診してくれる医師が増えること」「自分の希望について、家族や医療職・介護職が理解してくれること」「病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること」が少なくなっています。

病院以外での最期を迎えるために、整える必要があると思うこと(MA3)



・ 女性は「病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること」が最も多く 47.5%、男性は「介護サービスが受けられること」が最も多く 36.0%となっています。女性は男性と比較して、「往診してくれる医師が増えること」「病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること」が多く、男性では「介護サービスが受けられること」が多くなっています。

・ 65～74 歳は「往診してくれる医師が増えること」が最も多く 37.6%となっています。75～84 歳は「往診してくれる医師が増えること」「病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること」が同数で最も多く 39.0%となっています。85 歳以上は「病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること」が最も多く 48.7%となっています。

病院以外での最期を迎えるために、整える必要があると思うこと（ＭＡ３）

（上段：件、下段：%）

	n	往診してくれる医師が増えること	訪問看護サービスを受けられること	介護サービスが受けられること	医療や介護について相談できる専門職（医師、看護師、介護支援専門員など）がいること	医療職や介護サービス職が適切に連携をとってくれること	自分の希望について、家族や医療職・介護職が理解してくれること	本人・家族がお互いに休息する時間が確保できるよう、デイサービスやショートステイの受入れ態勢があること	病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること	その他	無回答
女性	427	176	140	89	86	94	70	137	203	8	1
	100.0	41.2	32.8	20.8	20.1	22.0	16.4	32.1	47.5	1.9	0.2
男性	392	132	139	141	79	82	63	103	119	7	2
	100.0	33.7	35.5	36.0	20.2	20.9	16.1	26.3	30.4	1.8	0.5
65～74歳	426	160	152	130	80	97	67	137	159	8	3
	100.0	37.6	35.7	30.5	18.8	22.8	15.7	32.2	37.3	1.9	0.7
75～84歳	323	126	106	83	69	64	52	93	126	7	0
	100.0	39.0	32.8	25.7	21.4	19.8	16.1	28.8	39.0	2.2	0.0
85歳以上	78	26	23	20	17	15	14	14	38	1	0
	100.0	33.3	29.5	25.6	21.8	19.2	17.9	17.9	48.7	1.3	0.0

インターネットでご回答いただく場合は、右記コードを読み取りください。
回答フォームが開きますので、まず初めに右記コード下に記載の番号を
入力のうえ、ご回答ください。

高 齢 者 実 態 調 査

調　査　票

【記入に際してのお願い】

■この調査の対象者は、令和４年 10 月 31 日現在、市内にお住まいの６５歳以上の方です。

■この調査票は、封筒のあて名ご本人がご回答ください。なお、ご家族の方などがご本人の代わりに回答されたり、ご一緒に回答されてもかまいません。ご本人以外の方が回答される場合は、ご本人の立場でお答えください。

■視覚障害への対応が必要な場合などについては、長寿・介護保険課までお問い合わせください。

■ご回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、あてはまる番号を○で囲んでください。また、一部、数字等を記入いただく質問もあります。

■「その他」に○をつけた場合は、（　　）内に具体的に内容をご記入ください。

■調査票にご回答いただきましたら、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、お近くのポストに投函してください（切手は不要です）。

１．回答者ご自身について

性別	１．女性　　２．男性　　３．女性／男性では答えられない　　４．答えない
年齢	１．６５歳から６９歳　　２．７０歳から７４歳　　３．７５歳から７９歳 ４．８０歳から８４歳　　５．８５歳から８９歳　　６．９０歳以上
住所	枚方市　【　　】 ※○丁目までご記入ください。（記入例：枚方市【大垣内町２丁目】）

２．家族構成とお住まいについて

問1　あなたの家族構成について、あてはまるものはどれですか。（あてはまるもの1つに○）

１．ひとり暮らし
２．夫婦ふたり暮らしでともに 65 歳以上
３．夫婦ふたり暮らしで一人だけが 65 歳以上
４．１～３以外で、全員 65 歳以上（あなたを含めて【　　】人）
５．１～４以外の世帯（あなたを含めて【　　】人）

※この設問の「家族」とは住民基本台帳上の世帯ではなく、実際に同じ家に住んでいる人をいいます。

問2　あなたのお住まいの状況について、あてはまるものはどれですか。（あてはまるもの1つに○）

1．持ち家（一戸建て）　　2．持ち家（分譲マンション）
3．借家（一戸建て）　　4．借家（マンション、アパートなど）
5．公営住宅(府営・市営・ＵＲ（旧公団）など)　　6．社宅・寮・官舎など
7．有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅など
8．その他（　　）

3．健康状態などについて

問3　あなたは、自分の健康状態をどう思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1．よい　　2．まあよい　　3．ふつう　　4．あまりよくない　　5．よくない

問4　あなたは、普段の生活でどなたかの介護が必要ですか。（あてはまるもの1つに○）

1．介護は必要ない　　2．何らかの介護は必要だが、現在は受けていない
3．現在何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合を含む）

問5　あなたは、普段の生活でどなたかの介護や世話をしていますか。（あてはまるもの1つに○）

1．親や配偶者などの介護をしている
2．障害等のため支援が必要な子や孫などの世話をしている
3．介護や世話はしていない
4．その他（　　）

問6　現在、病院・医院（診療所・クリニック）に通院していますか。（いずれかに○）

1．はい　　2．いいえ　**⇒問7へ**

問6-1　前問で「1．はい」と回答された方におたずねします。どのぐらいの頻度で通院していますか。（あてはまるもの1つに○）

1．週1回以上　　2．月2～3回　　3．月1回程度　　4．その他（　　）

問7　あなたには、かかりつけの病院・医院（診療所・クリニック）・かかりつけの歯科医院・かかりつけ薬局がありますか。（それぞれいずれかに○）

① 病院・医院（診療所・クリニック）	1．ある	2．ない
② 歯科医院	1．ある	2．ない
③ 薬局	1．ある	2．ない

問8　健康保持のために、日常生活の中で取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．歩く（散歩や買い物等）
　　ア～ウに○ 《 ア. 週２回以上　イ. 週１回程度　ウ. 月１～２回程度 》
2．体操や運動をする（ラジオ体操、太極拳など）
　　ア～ウに○ 《 ア. 週２回以上　イ. 週１回程度　ウ. 月１～２回程度 》
3．スポーツクラブへ行く（スイミングやフィットネスなど）
　　ア～ウに○ 《 ア. 週２回以上　イ. 週１回程度　ウ. 月１～２回程度 》
4．食事の栄養バランスに気をつける
5．規則正しい生活をする
6．十分な休養や睡眠をとる
7．酒やたばこを控える
8．歯や口の健康に気をつける
9．文章の読み書きや計算など頭をよく使う
10．その他（　　）
11．特に何も取り組んでいない

１～３に○がある場合は **問8－2へ**

４～10 のみに○がある場合は **⇒問9へ**

問8－1　前問で「11. 特に何も取り組んでいない」と回答された方におたずねします。
その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．時間がないため
2．何をしていいか分からないため
3．きっかけがないため
4．関心がないため
5．一緒に取り組む仲間がいないため
6．身体的に無理な状況のため
7．特に意識したことがないため
8．コロナ禍による外出自粛
9．その他（　　）

問8－2　問8で健康保持のために「1. 歩く、2. 体操や運動をする、3. スポーツクラブへ行く」に取り組んでいると回答された方におたずねします。
コロナ流行（令和2年）前と比べて、取り組む回数に変化はありましたか。（あてはまるものに○）

1．回数が減った　　2．回数が増えた **⇒問9へ**　　3．変わらない **⇒問9へ**

問8－3　前問で「1. 回数が減った」と回答された方におたずねします。
その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．国や自治体による外出自粛要請があったため
2．感染が心配だったため
3．外出先（公共施設やスポーツクラブ等）が開いていなかったので外出しなかったため
4．通っていたサークル活動などが中止していたので参加できなかったため
5．その他（　　）

問9　市では健康づくり教室の開催等、介護予防や高齢者の地域生活を支援する様々な取り組みを行っています。あなたは、次の教室等をご存じですか。また、今後利用してみたいと思いますか。
（それぞれあてはまるもの1つに○）

教室等の種類	これまでの利用状況			今後の利用意向	
	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	利用してみたい	利用したくない
（記入例）	①	2	3	Ⓐ	B
①-1 市が開催する集合形式で行う（実際に集まって行う）介護予防講座・教室 介護予防に関する知識を学び、継続的な実践につながるような講座や教室などを実施。	1	2	3	A	B
①-2 市が開催するオンライン（※1）による介護予防教室 実際の接触を排し、介護予防に取り組む運動等の教室。	1	2	3	A	B
② ひらかた元気くらわんか体操（※2）普及啓発事業 講習会、同体操の普及リーダー養成講座、体験出前講座等の開催、DVD と CD 等を無料配布。	1	2	3	A	B
③ 介護予防ポイント事業（生き生きマイレージ） 研修を受講したサポーターが、自らの知識・経験を活かし、介護保険施設等にて、身体介護を伴わないサポーター活動（囲碁将棋等趣味による交流、見守り、傾聴、施設行事の手伝いなど）を行うもの（サポーター活動に対し、ポイントが付与されます）。	1	2	3	A	B
④ 高齢者居場所づくり事業 高齢者が住み慣れた身近な場所で、健康でいきいきとした暮らしができるよう、自由に集まり、交流することができる場所（現在、登録されている100か所以上の高齢者居場所の活動内容は、市のホームページで確認できます）。	1	2	3	A	B
⑤ 認知症サポーター養成講座 認知症に対する正しい知識と認知症の方の具体的な対応方法を学び、認知症の方とその家族を見守る応援者となる認知症サポーターを養成。	1	2	3	A	B
⑥ 認知症ケアパス（ガイドブック） 認知症は早期発見が大切なため、認知症と疑われる症状が発生した場合に、どのような支援を受ければよいのか、認知症の状態に応じた適切な介護サービスや医療の提供の流れを示したもの。	1	2	3	A	B

※1 「オンライン」とは…コンピュータなどの機器がインターネット回線に接続された状態。

※2 「ひらかた元気くらわんか体操」とは…高齢者の健康増進やグループで取り組む介護予防活動を推進するツールとして製作したもので、ラジオ体操第 1（柔軟性等の向上）、ロコモ体操（筋力やバランスの向上）と枚方市オリジナルのひらかた体操（認知症予防等）の3つを組み合わせた約10分の体操です。

4．仕事や生きがいについて

問10　あなたは現在、仕事をしていますか。（いずれかに○）

1．働いている　→　月【　　】日程度

2．働いていない　**⇒問11へ**

問10-1　前問で「1．働いている」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．生活費が必要だから
2．こづかいが必要だから
3．健康によいから
4．友達や仲間ができるから
5．退屈だから
6．働くのが楽しいから
7．自分の能力を活かしたいから
8．仕事を通じて社会に貢献したいから
9．その他（　　）

問11　あなたが現在やっていることで、生きがいや楽しみを感じるのはどんなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．孫たちの成長を見ること
2．仲間と行う趣味や娯楽の活動
3．校区コミュニティや自治会の活動
4．老人クラブ、老人会の活動
5．人の役に立つこと（ボランティア）
6．働くこと（家事含む）
7．学習や教養を高めるための活動
8．スポーツに関する活動
9．介護予防、健康づくりのための活動
10．家族や友人と食事をとること
11．近所の人との交流
12．オンラインでの様々な活動
13．その他（　　）
14．特にない

問12　今後やってみたいと思う活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．仲間と行う趣味や娯楽の活動
2．校区コミュニティや自治会の活動
3．老人クラブ、老人会の活動
4．人の役に立つこと（ボランティア）
5．働くこと（家事含む）
6．学習や教養を高めるための活動
7．スポーツに関する活動
8．介護予防、健康づくりのための活動
9．オンラインでの様々な活動
10．その他（　　）
11．特にない　**⇒問13へ**

問12-1　前問で回答された活動を行うために、市に望む支援等はありますか。
以下に自由にご記入ください。

問12-2　問11及び問12で「オンラインでの様々な活動」を回答された方におたずねします。
主にどのような活動を行っていますか（行いたいですか）。（あてはまるものすべてに○）

1．ウェブサイト閲覧（ホームページを見るなど）　2．動画や音楽の視聴
3．家族等とのビデオ通話　4．出前や買い物
5．講習受講やイベント参加　6．その他（　　）

5．地域とのかかわり等について

問13　近所づきあいをどの程度していますか。（あてはまるもの1つに○）

1．よく会う仲の良い人がいる　2．会えば親しく話をする人がいる
3．挨拶程度の人がほとんどである　4．近所づきあいはほとんどない
5．その他（　　）

問14　あなたが参加している地域の行事や活動について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1．いきいきサロン　2．老人クラブ活動
3．地域の健康づくり、介護予防の活動
4．校区コミュニティや自治会の催しもの（運動会やお祭りなど）
5．地域の防災訓練　6．公園や近隣の清掃活動
7．ひとり暮らしの高齢者等を訪問し、安否確認や話し相手などをする活動
8．地域の見回り（防犯）活動　9．子育て支援や地域の学校との交流
10．趣味や娯楽などのサークル活動
11．その他（　　）
12．参加したことはない

⇒問１５

▶**問14-1　前問で「12．参加したことはない」と回答された方におたずねします。**
その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．時間がない　2．興味がない
3．地域とのかかわりを持ちたくない　4．身体的に参加することが難しい
5．手続きなどの参加の仕方が分からない　6．一緒に参加する仲間がいない
7．活動内容が分からない　8．活動や行事のイメージが良くない
9．感染症などの不安で外出したくない　10．その他（　　）

問15　住みなれた地域で生活を続けるために、今後高齢者同士の支え合いによる生活支援活動（掃除・洗濯・ごみ出し等）が重要になってくると考えられます。あなたは、この活動についてどのように思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1．してみたい　2．必要があればしてみたい　3．してみたいが、時間的制約等のためできない
4．したくない　5．その他（　　）

問16　緊急時など、何かあったときに頼りになる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

1．配偶者　2．子ども・子どもの家族・孫　3．その他の親戚
4．近所の人　5．友人　6．民生委員
7．校区コミュニティや自治会の人　8．病院・医院の医師・看護師など
9．市役所の人　10．地域包括支援センター（高齢者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ）の人
11．近隣の介護事業所の人　12．その他（　　）
13．頼りになる人がいない

問17　老人クラブに加入されていますか。（いずれかに○）

1．加入している　**⇒問18へ**
2．加入していない

問17-1　前問で「2．加入していない」と回答された方におたずねします。
その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．時間がない　2．興味がない
3．身体的に参加することが難しい　4．手続きなどの参加の仕方が分からない
5．一緒に参加する仲間がいない　6．活動内容が分からない
7．活動や行事のイメージが良くない　8．その他（　　）

6．認知症について

問18　認知症には以下のような症状等がありますが、知っていることはありましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1．認知症は脳の病気である
2．早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる
3．周囲の対応によって、認知症の症状を軽くできる場合もある
4．運動や食事などの生活習慣を改善することで、認知症を予防することができる
5．認知症になっても辛かったことや悲しかったことの感情は覚えている
6．いずれも知らなかった
7．その他（　　）

問19　普段の生活で、認知症に関して不安を感じたことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

1．まったく不安は感じない
2．将来的な不安はあるものの、現在は感じない
3．物忘れが増えたなどの不安はあるものの、問題なく生活している
4．医師の受診はしていないが、不安に思う症状があり、生活に支障がある
5．医師から認知症であるとの診断を受けている
6．その他（　　）

問20　あなたやまわりの方に認知症の疑いが見られたとき、まず初めにどこに相談しようと思いますか。
（あてはまるもの1つに○）

1．地域包括支援センター（高齢者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ）
2．かかりつけ医
3．かかりつけ医以外の認知症の専門医療機関
4．市役所（健康福祉総合相談課など）
5．民生委員
6．家族・友人・近所の人
7．どこに相談したらよいか分からない
8．相談しない
9．その他（　　）

問21　あなたや家族が認知症になった（わかった）とき、近隣の方との関係性はどうしたいと思いますか。
（あてはまるもの1つに○）

1．近所や知人に知られたくない
2．困ったことがあれば、ごく身近な近隣等に助けてほしい
3．周囲の人に伝えて、積極的に協力を依頼したい
4．その他（　　）

問22　認知症の人が地域で暮らすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動
2．認知症についての正しい知識を持った支援者の養成
3．近隣や地域の見守り
4．認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場
5．家族や親族による支援
6．認知症の相談・診察ができる病院・医院（診療所・クリニック）
7．成年後見制度（※）の利用促進
8．分からない
9．特にない
10．その他（　　）

※「成年後見制度」とは…判断能力が不十分な人が自立した生活を送れるよう、本人の代理となる後見人等が財産管理や身上監護（介護サービスや施設の入退所等の契約手続きを行うこと）を通じて支援する制度です。

問23　認知症の人が地域で暮らすために、あなたができそうなことはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．認知症サポーター養成講座等を受けて、認知症の正しい知識を身につける
2．近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）
3．認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場（認知症カフェなど）に参加する
4．認知症の人・家族の話し相手になる
5．分からない
6．特にない
7．その他（　　）

７．今後の生活について

問24　今後の生活の中で不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．自分が病気になったり、介護が必要になったときのこと
2．家族が病気になったり、介護が必要になったときのこと
3．現在の住まいがバリアフリーになっていないこと
4．病院・医院が近くにないこと
5．友達や知り合いが少なくなること
6．公共交通の便が悪いこと
7．急病で倒れたときに発見してくれる人がいないこと
8．経済的なこと
9．生活必需品（日用品・食料など）を買う店が遠く、不便なこと
10．地域での役割（校区コミュニティや自治会役員・ごみ当番・地域清掃など）を担う人がいない、又は少ないこと
11．その他（　　）
12．特にない

問25　あなたは、介護が必要となった場合、どこで生活したいと考えますか。（あてはまるもの1つに○）

1．自宅でホームヘルプ等の在宅介護サービスを受けながら生活したい
2．できるだけ自宅に近い特別養護老人ホーム等の施設で生活したい
3．自宅から遠くてもいいので特別養護老人ホーム等の施設で生活したい
4．その他（　　）

※ここでの「自宅」とは、今住んでおられる家だけでなく、お子さんの家に同居する場合なども含めた在宅生活の意味です。

８．保健・福祉サービスや介護に対するお考えについて

問26　あなたは高齢者の相談窓口である地域包括支援センター（高齢者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ）を知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

1．利用したことがある
2．利用したことはないが、役割は知っている
3．名前を聞いたことがある程度
4．知らない

問27　あなたは、介護や保健、医療等に関する情報を、どのような手段で得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

1．本や新聞の記事、テレビのニュース
2．パンフレット（配布されたもの、公共施設などに置かれているものなど）
3．市や府の広報
4．老人クラブや地域での説明会など
5．家族や友人・知人からの話
6．地域包括支援センター（高齢者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ）
7．かかりつけ医
8．介護保険の事業者（ケアマネジャーや介護サービス事業所の職員）
9．スマホやタブレットなどの ICT（※）機器
10．民生委員
11．校区コミュニティや自治会
12．その他（　　）
13．情報を得る機会がない

※「ICT」とは…「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションのことです。

問28　あなたは、介護や保健、医療等に関することで、どのような情報がほしいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．生きがいや健康づくり・介護予防に関する情報
2．自宅のバリアフリー化（段差解消など）や高齢期に適した住み替え先の情報
3．介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）
4．介護保険以外の福祉サービスに関する情報（配食、送迎サービス、ボランティアなど）
5．認知症の人に対するケアや相談先などの情報
6．高齢者に対する虐待の相談先の情報
7．医療や介護に必要な費用に関する情報
8．その他（　　）
9．特に必要ない

問29　介護保険は、入所施設を増やしたり、サービスの利用が多くなるなど、サービスが充実すると、介護保険料も高くなります。あなたは、今後の介護サービスと介護保険料についてどのように考えますか。
（あてはまるもの1つに○）

1．保険料が高くなっても、もっとサービスを充実してほしい
2．サービスを抑えて、保険料が高くならないようにしてほしい
3．現状の程度のサービスと保険料でよい
4．どちらともいえない・よく分からない
5．その他（　　）

9．看取り（みとり）について

住みなれた地域で安心して医療と介護を受け、看取られる（みとられる）ことのできる体制づくりがこれからの課題となっています。
以下の質問は、人生の最期（さいご）をどのように過ごしたいかおたずねする趣旨で設けておりますが、無理に回答をお願いするものではありません。お答えいただける方のみご回答ください。

問30　あなたは最期(さいご)の過ごし方について、家族や身近な友人、医療や介護のスタッフ等と話をしたことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

1．話をしたことがある　　2．話をしたことはない

⇩

誰と話をしましたか。（あてはまるものすべてに○）
1．家族
2．友人
3．医療の専門職（医師、看護師など）
4．介護の専門職（ケアマネジャー、訪問介護員など）
5．その他（　　）

⇩

どのような理由ですか。
（あてはまるもの１つに○）
1．機会がなかった
2．まだ必要ない
3．話をしたくない
4．その他（　　）

問31　エンディングノート(※)を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1．知っている　　2．聞いたことはあるがよく知らない
3．聞いたことがない　　4．その他（　　）

※「エンディングノート」とは…自分の最期(さいご)を迎えるにあたって、医療や介護、相続や葬儀等について、希望する内容を書き記しておくものです。(市役所長寿・介護保険課や市内の地域包括支援センター等で配布しています。)

問32　あなたは最期(さいご)まで自分らしく過ごすために、人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1．自宅で最期まで療養したい　　2．病院に入院して最期を迎えたい
3．高齢者住宅・施設(サービス付き高齢者住宅、老人ホーム、介護保険施設など)に入所して最期を迎えたい
4．分からない　　5．その他（　　）

問33　最期(さいご)を迎えることができる環境(訪問診療、訪問看護、緊急時の対応など)が整っていれば、病院以外の生活の場で最期を迎えたいと希望しますか。(あてはまるもの1つに○)

1．希望する　　2．希望しない　　3．分からない

問34　今後、病院以外での最期(さいご)を迎えるためには、どういうことが整っていれば可能になると思いますか。(複数回答　3つ以内)

1．往診してくれる医師が増えること　　2．訪問看護サービスを受けられること
3．介護サービスが受けられること
4．医療や介護について相談できる専門職（医師、看護師、介護支援専門員など）がいること
5．医療職や介護サービス職が適切に連携をとってくれること
6．自分の希望について、家族や医療職・介護職が理解してくれること
7．本人・家族がお互いに休息する時間が確保できるよう、デイサービスやショートステイの受入れ態勢があること
8．病状が悪化したときや、緊急時に入院できる病院があること
9．その他（　　）

１０．高齢社会に対する市の取り組みへのお考えについて

問35　ご意見などがあれば、自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、今一度お確かめください。記入した調査票を切り離すことなく、３つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。

枚方市　長寿・介護保険課

あなたの知りたい情報が受け取れる！枚方市公式ＬＩＮＥ

市の情報発信強化のため、枚方市 LINE 公式アカウントを開設しています。
緊急情報やおすすめ情報のプッシュ通知、暮らしに役立つメニューなど便利な機能が盛りだくさん。
ぜひ友だち登録してご利用ください！

右記コードを読み取り、「友だち追加」ボタンを押してください。